平成２６年度　セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

# 福祉における災害時広域支援システムの早期確立と効果的な運用のための体制の検討

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

平成２７（２０１５）年３月

目次

１．目的 ---------- 3

２．実施期間 ---------- 4

３．実施体制 ---------- 4

４．実施手順 ---------- 7

５．実施概要 ---------- 12

５．１.検討委員会

５．２.ワーキング会議

５．３.「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム」の検討

５．４.「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の検討

５．５．災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の検討

６．まとめ　～課題と展望～ ---------- 176

６．１．連携プラットフォームを対象とした研修体制の確立方法について

６．２．災害福祉広域支援ネットワークの早期確立の方法について

参考資料

「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修　アンケート」調査票

「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

※「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習のアンケート

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第１回山形県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第２回熊本県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第３回三重県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第４回京都府調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第５回新潟県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第６回宮城県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第７回広島県調査結果

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習　第８回福島県調査結果

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」話題提供　資料

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」事例発表Ⅰ　資料

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」事例発表Ⅱ　資料

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」調査票

## １．目的

本事業の目的は、大きく以下の二つである。

一つは、昨年度事業として実施した「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる研修の開発」で構築した「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施体制の検討である。

昨年度は、４名の講師でモデル研修を実施したが、今後の継続的な実施のためには講師養成が不可欠である。そこで、本事業では、講師育成プログラムを開発、実施することにより、研修の実施体制についての検討を行った。

育成プログラムの実習（個別研修）として、８都道府県で「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を実施した。研修の更なるブラッシュアップの機会としても役立てた。

二つ目の目的は、上記の研修の対象となる、連携プラットフォームづくりを加速し、有事に機能する確固たるしくみとするための方法を検討し、その足掛かりをつくることである。

厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まっているが、プラットフォームが立ち上がった都道府県は数か所程度で、検討が始まった都道府県を合わせても25か所程度という状況である。まだ全国的な動きになりえていない。

いつ起きるかわからない大災害に備えるためには、体制づくりは早急に進めなければならない。また、有事に確実に機能するものとするためには、プラットフォームをつくるだけでは十分とはいえない。そこで、本事業では、プラットフォームづくりのキーマンとなりうる首長による会議と、プラットフォームの連携会議を提案し、実施に向けた調整を行った。

大災害発生時には、少数の介護者で多くの要援護者を長期にわたって支えなければならない状況が生まれる。この状況を打開するためには、広域的な支援が不可欠である。しかし、ライフライン，自衛隊，警察，医療等の広域的な支援が災害発生直後に自動的に動き出すのに対し、福祉の広域支援は未だ十分な体制が整っていない。

東日本大震災においても、厚生労働省による広域支援の呼びかけがなされたが、十分な成果をあげるには至らなかった。呼びかけに応じた7，719人の内、実際に支援を行ったのは、2，573人（2012年1月25日時点）であった。災害時要援護者支援や災害福祉広域支援についての共通認識がなかったことが、原因の一つと言われている。先述の「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」は、この現状の対策のひとつとして開発したものである。本事業で実施する８回の研修は、回数が少ないが、共通認識づくりの一助となると考える。

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードは、本事業を推進することにより、近い将来発生するといわれている大災害時に備え、確実に機能する災害時要援護者の広域支援のしくみの確立に貢献したいと考えた。

なお、本事業は、「平成25年度社会福祉推進事業」と同様、高齢者福祉、障がい者福祉等の種別を超えたしくみづくりを意識して推進した。

また、本報告書では「災害時要援護者」という用語を使っているが、「要配慮者」「要支援者」と同義で使用している。

## ２．実施期間

事業実施期間は以下の通りである。

平成 26 年 6 月 9 日　から　平成 27 年 3 月 31 日

## ３．実施体制　　※敬称略順不同

本事業は、以下の体制で実施した。

**【検討委員会】**

**委員長**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

**委員**

有賀　絵理　（茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
今井　徹　（社会福祉法人東の会理事長／児童福祉）
石黒　秀喜　（財団法人長寿社会開発センター常務理事）

**【ワーキング会議】**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**【講師育成プログラム①集合研修】**

講師

小山　剛　　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**【講師育成プログラム②実習】**

講師

野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

補助講師

久保田　緑　　（社会福祉法人湖成会）
鈴木　保雄　　（社会福祉法人湖成会）
飯伏　真一　　（医療法人玉昌会）
三瓶　朝子　　（社会福祉法人心愛会）
部坂　佳生　　（社会福祉法人青藍会）
植　正弘　　（社会福祉法人白寿会）
佐藤　佳代　　（社会福祉法人長岡福祉協会）
久保山　慎之介（社会福祉法人東の会）

現地調整協力

山形県
一般社団法人山形県老人福祉施設協議会

宮城県
社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

新潟県

社会福祉法人新潟県社会福祉協議会

新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会

福島県

社会福祉法人心愛会／認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード福島支部

三重県

社会福祉法人三重県社会福祉協議会

社会福祉法人青山里会／認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード三重支部

京都府

社会福祉法人京都府社会福祉協議会

京都府健康福祉部介護・地域福祉課

広島県

社会福祉法人白寿会／認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード広島支部

熊本県

熊本県健康福祉部健康福祉政策課

**【全体調整】**

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室

## ４．実施手順

本事業は、以下の手順で実施した。

**第１回　ワーキング会議**

［実施日］　平成 26 年 7 月 14 日
［実施場所］　東京都港区
［概要］　各事業項目の実施概要についての検討
講師育成プログラムの実施概要
連携プラットフォーム会議の実施概要
首長会議の実施概要　等

⇩

**第１回　検討委員会**

［実施日］　平成 26 年 7 月 28 日
［実施場所］　東京都港区
［概要］　事業概要についての検討
講師育成プログラムの実施概要
連携プラットフォーム会議の実施概要
首長会議の実施概要　等

⇩

**第２回　ワーキング会議**

［実施日］　平成 26 年 8 月 18 日
［実施場所］　東京都港区
［概要］　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」
講師育成プログラムの内容及びテキストの検討

災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議の案内の検討

災害福祉広域支援ネットワーク
首長会議の案内の検討　等

⇩

**第３回　ワーキング会議**

［実施日］　平成 26 年 9 月 16 日
［実施場所］　東京都港区
［概要］　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」
講師育成プログラム①集合研修の実施確認

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」
講師育成プログラム②実習の調整確認

災害福祉広域支援ネットワーク
首長会議会議の調整について　等

## Ａ．講師育成プログラムの検討

**「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」**
**講師育成プログラム①　集合研修**

［実施日］　平成 26 年 9 月 21 日，22 日
［実施場所］　東京都港区

↓

**「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」**
**講師育成プログラム②　実習（個別研修）**

**第１回　山形県**

［実施日］　平成 26 年 12 月 1 日，2 日
［実施場所］　山形県山形市

**第２回　熊本県**

［実施日］　平成 26 年 12 月 10 日，11 日
［実施場所］　熊本県熊本市

**第３回　三重県**

［実施日］　平成 27 年 1 月 13 日，14 日
［実施場所］　三重県四日市市

**第４回　京都府**

［実施日］　平成 27 年 2 月 9 日，10 日
［実施場所］　京都府京都市

**第５回　新潟県**

［実施日］　平成 27 年 2 月 19 日，20 日
［実施場所］　新潟県長岡市

**第６回　宮城県**

［実施日］　平成 27 年 2 月 26 日，27 日
［実施場所］　宮城県仙台市

**第７回　広島県**

［実施日］　平成 27 年 3 月 9 日，10 日
［実施場所］　広島県広島市

**第８回　福島県**

［実施日］　平成 27 年 3 月 12 日，13 日
［実施場所］　福島県郡山市

## Ｂ．「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の検討

| 災害福祉広域支援ネットワーク<br>首長会議 |
|---|
| ［調整時期］　平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月<br>［概要］　「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の企画<br>実施に向けた調整<br>提案書の作成<br>提案書の発送（市町村長　1，741 件） |

## Ｃ．「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の検討

| 災害福祉広域支援ネットワーク<br>連携プラットフォーム会議 |
|---|
| ［実施日］　平成 27 年 1 月 29 日<br>［実施場所］　東京都港区<br>［概要］　連携プラットフォームづくりについての<br>情報交換と意見交換 |

⇩

| 第４回　ワーキング会議 |
|---|
| ［実施日］　平成 27 年 2 月 28 日<br>［実施場所］　新潟県長岡市<br>［概要］　事業成果についての意見交換 |

⇩

**第２回　検討委員会**

［実施日］　平成 27 年 3 月 16 日
［実施場所］　東京都
［概要］　事業成果の評価

⇩

**概要版報告書の作成と普及**

［実施時期］平成 27 年 3 月
［概要］　概要版報告書の作成
概要版報告書の発送（以下 4，304 件）
都道府県福祉担当課　47 件
市町村福祉担当課　1，741 件
都道府県社会福祉協議会　47 件
市町村社会福祉協議会　2，469 件

## ５．実施概要

※敬称略順不同

実施概要について、以下に記す。

### ５．１．検討委員会

被災経験者・福祉事業関係者（高齢者福祉，障がい者福祉，児童福祉等）による検討委員会を設置し、事業実施に向けた検討及び調整（1 回）と実施後の評価（1 回）を行った。

**目的**

事業開始時と終了時に、第三者的な視点で、事業内容，手法，結果等について確認と評価を行う機会を設けることにより、本事業を偏りのないものとする。

**委員（順不同敬称略）**

**委員長**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

**委員**

有賀　絵理　（茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
今井　徹　（社会福祉法人東の会理事長／児童福祉）
石黒　秀喜　（財団法人長寿社会開発センター常務理事）

**実施内容（実施結果）**

**<u>①１回検討委員会</u>**

**実施日**

平成 26 年 7 月 28 日

**実施場所**

福祉プラザさくら川（東京都港区）

**出席者**

**〈検討委員〉**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

有賀　絵理　（茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

今井　徹　（社会福祉法人東の会理事長／児童福祉）

石黒　秀喜　（財団法人長寿社会開発センター常務理事）

**〈調整事務局〉**

安井　あゆみ（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長）

高橋　昌裕　（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室）

**次第**

議題１　平成 26 年度社会福祉推進事業
「福祉における災害時広域支援システムの早期確立と効果的な運用のための体制の検討」
事業内容及び実施手法について

議題２　その他

**資料**

資料①　事業概要

資料②　災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】
講師育成プログラム　概要（案）

資料③　災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議と首長会議　概要（案）

**検討結果**

「資料①　事業概要」「資料②　災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】　講師育成プログラム　概要（案）」「資料③　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議と首長会議　概要（案）」を、調整事務局が説明し、以下のことを確認した。その他の内容については、第１回ワーキング会議の提案が承認された。

●「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】　講師育成プログラム」について

・本事業での実施は、講師育成プログラムの開発を主目的とすることから、公募は行わず、認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの会員から、受講資格に該当する人を選出し、依頼するべきである。

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】　講師育成プログラム」の受講者は、各支部より最低１名以上、選出する。

・修了レポートは、担当講師が確認の上、アドバイスを返送する。

・修了者の今後の活動については、講義担当、ワークショップ担当、講義とワークショップとも出来る担当に分けて行ってもらう。将来的には、全員が講義もワークショップもできるよう指導していく。

・講師育成プログラムを実施する上での留意点として、以下があがった。

・本事業は、「平成25年度社会福祉推進事業」と同様、高齢者福祉、障がい者福祉等の種別を超えたしくみづくりを意識して推進している。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」も、同様の意識をもって作成されたものである。しかし、事例の数等から、受講者が高齢者福祉への偏りを感じる可能性がある。高齢者福祉を例にとっていても、災害時要援護者支援の共通の認識を伝えていることを繰り返し受講者に伝えると同時に、障がい者福祉、児童福祉の事例を収集し、追加していくことも重要である。

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」実施の留意点のひとつに、通所と入所の違いを意識した上で講義を行うことがあげられる。現状において、通所と入所では、備蓄の考え方等、災害対策についての考え方が異なっている。東日本大震災の際、通所施設で、一緒に逃げるべきところを帰してしまったことにより被害が拡大した例があった。通所の施設には泊まる場所も備蓄もないというのが現状である。近隣の家族との連携等についても、講義の中で触れると良い。

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」は、受講者の多様性（職種，所属施設，地域性等）に対応した実施が必要である。

●「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」について

・連携プラットフォーム会議の案内は、全国都道府県及都道府県社会福祉協議会に送付をする。

●「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」について

・首長会議の話題提供を、厚生労働事務次官の村木厚子氏に依頼する。

・まず、長岡市市長に呼び掛け人となってもらうよう依頼し、長岡市市長の予定にあわせて日程を調整する。

・首長たちが参加したくなるような内容を検討する。

●その他

・児童福祉の災害対応は、発災直後が深刻である。親が迎えに来られない状況になった場合の対応は大きな課題である。東日本大震災でも、送迎によって被害が拡大した例がある。

**第１回検討委員会**

**②第２回検討委員会**

**実施日**

平成 27 年 3 月 16 日

**実施場所**

福祉プラザさくら川（東京都港区）

**出席者**

**〈検討委員〉**

有賀　絵理　（茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

石黒　秀喜　（財団法人長寿社会開発センター常務理事）

**〈調整事務局〉**

安井　あゆみ（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長）

高橋　昌裕　（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室）

**次第**

議題１　平成 26 年度社会福祉推進事業
「福祉における災害時広域支援システムの早期確立と効果的な運用のための体制の検討」
実施後の評価について

議題２　その他

**資料**

資料①　事業報告

資料②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」
講師育成プログラム①集合研修　アンケート結果

資料③　災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議　アンケート結果

資料④　災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議　議事概要

**検討結果**

「資料①　事業報告」,「資料②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修　アンケート結果」,「資料③　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　アンケート結果」,「資料④　災害福

祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　議事概要」を、調整事務局が説明し、以下のことを確認した。

●「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」について

〇事前レポート，修了レポートについて

・事前レポートは、受講者の動機づけを目的として取り入れたものである。講師側の活用方法としては、受講者の傾向を把握し、必要があれば研修の内容や進め方に配慮を行ってきた。今後は、ワークショップのグループ分けにも活用すると良い。
・事後レポートは、受講者の確認のために行うものである。今後は修了時評価として、コメントを返信することも検討していくべきである。
・現状のアンケートの内容を濃くして、修了レポートにあてるという方法もある。
・修了証を渡すことも検討していく。

〇その他

・災害時要援護者支援は、地域性によるところも大きい。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」は、あくまでも、自らの地域で検討を進めるための基礎知識と考え方を提供するものであることを明示する必要がある。

●「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」育成プログラムについて

〇プログラムについて

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修に、講師を実際に行ってみるという場を設けると良い。実習は、一般の受講者を対象とするものなので、講師をやってみるということは難しい。

〇講師の認識すべき事項について

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」でも、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムでも、参加者の経験がワークショップの進行を邪魔をするという場面が見受けられた。自分が何をしたかに捕らわれ、今後に向けた検討ができなくなる場合がある。このことを講師が認識してリードする必要がある。
・職種、施設やサービスの種類を超えた連携は難しい。種別を超えた横串を入れることは連携において重要であるが、難解な課題であることを講師が認識しておく必要がある。
・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を実施した際の気づきを、講師全体で共有する必要がある。

●サンダーバード研修の編成について

・基礎編を踏まえた、中級、上級といった研修の実施について、受講者から質問されるケースがあった。早急に開発し、実施体制を整えることが重要である。

・現行の「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」は盛りだくさんのため、受講者の満足感が高い一方で、負担が大きく、消化不良になるケースもあるように感じた。特にＢＣＰは、異質であり、難解である。「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」から外し、単独の研修とすることを検討すべきである。

・「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」の再編と併せて、フォローアップ研修や上級研修の開発を進めるべきである。

●災害福祉広域支援ネットワーク連携プラットフォームについて

・連携プラットフォームの整備について、国は、推奨しているが、詳細を示していない。そのために、各都道府県のプラットフォームの形や進捗状況はさまざまである。各地域にあった調整を行うことは重要であるが、詳細が示されていないことが、整備の遅れや、都道府県境を越えた広域連携の難しさにつながっている可能性がある。

・プラットフォームのいくつかのパターンを示すことを、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの今後の課題とすべきである。

・災害福祉広域支援ネットワークを有事に機能する広域連携のしくみとするためには、プラットフォームの機能を明確にする必要がある。

・都道府県と政令市は水と油という場合がある。共に災害時要援護者支援のための連携を考えることは極めて難しい。京都府と京都市のように良好な関係が築かれている場合もあるが、連携が難しい場合は、分けて考えるということも必要だと考える。神奈川県等、複数の政令市を抱える都道府県においては、プラットフォームを構築する上での大きな課題となりうる。

・行政内でも、防災担当と福祉担当で、災害時要援護者支援についての考え方が違う場合がある。連携プラットフォーム構築に影響する場合もありうる。

●その他

・東日本大震災から 4 年が経過し、大災害への危機感は風化しつつある。風化させないための取組みを継続的に行っていくことが重要である。

第２回検討委員会

## ５．２．ワーキング会議の実施

平成 25 年度社会福祉推進事業「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる研修の開発」で「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師を務めた４名を中心に、ワーキングチームを編成し、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師育成プログラムの開発と「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」及び「災害福祉広域支援ネットワーク首長会議」の企画及び調整を行った。

調整のための会議（4 回）と併せて、ネット上等での意見交換等を行い、具体的で柔軟な調整を行った。必要に応じて、随時、メンバーを調整することとした。

以下に概要を記す。

**目的**

本事業がより大きな成果を得られるよう、少人数の会議により、随時方向性を確認しながら本事業を推進した。

**メンバー（順不同敬称略）**

以下の者を中心に、随時、専門家を交えて実施することとした。

小山　剛　　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

中田　年哉　　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／
東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**実施内容（実施結果）**

**①第１回ワーキング会議**

**実施日**

平成 26 年 7 月 14 日

注）第１回検討委員会前に実施

**実施場所**

福祉プラザさくら川（東京都港区）

**出席者**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／
新潟県中越地震被災地）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／
東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**検討項目**

議題①　事業内容について
議題②　事業スケジュールについて
議題③　講師育成プログラム①集合研修について
議題④　講師育成プログラム②実習について
議題⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議について
議題⑥　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議について

**資料**

資料①　事業計画書（交付申請書類より）
資料②　事業スケジュール表
資料③　講師育成プログラム①集合研修　企画案
資料④　講師育成プログラム②実習　企画案
資料⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　企画案

資料⑥　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議　企画案

**検討結果**

検討項目について、以下のような議論を行った。

●議題①　事業内容について

・交付申請時に提出した事業計画書に沿って、事業を推進する。実施方法等、変更することによって、より大きな成果があがると判断した場合は、その都度調整を行う。第１回検討委員会で出された意見については、ワーキング会議で対応方法を検討する。

●議題②　事業スケジュールについて

・事業スケジュール表に基づき、事業を推進する。ワーキング会議の時期については、必要に応じて、随時調整する。

●議題③　講師育成プログラム①集合研修について

・講師育成プログラム①集合研修について、議論の結果、以下を確認した。

［日程］

2014 年 9 月 21 日，22 日を第１案として調整する。

［場所］

福祉プラザさくら川（東京都港区）

［対象］

・講師育成プログラムは、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」受講済もしくは、同等の知識と経験を有することを受講資格とする。
・本事業での実施は、講師育成プログラムの開発を主目的とすることから、公募は行わず、認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの会員等から、受講資格に該当する人を選出する方法もある。検討委員会で検討する。
・人数は、16 名程度とする。
・受講者の交通費は、集合研修については、受講者の負担とする。

［プログラム］

プログラムは、以下の内容を含むものとする。

a. 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】の各講義、各ワークシ

ョップの実施ポイント

b. 講義を行う上でのポイント

c. ワークショップを行う上でのポイント

［テキスト］

・災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室が事前に作成した「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師マニュアルをワーキング会議で確認、再考し、講師育成用テキストとして使用する。
・同テキストは公開しない。原案が本事業外で作成したマニュアルであることと、マニュアルを公開することで「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の効果が半減すると予想されるためである。

［実施体制］

・講師は、平成 25 年度に「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師を務めた以下のメンバーとする。

| | |
|---|---|
| 小山　剛 | （高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地） |
| 野田　毅 | （社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県） |
| 中田　年哉 | （社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県） |
| 安井　あゆみ | （特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地茨城県） |

・集合研修（個別研修）のメイン講師は、小山とする。
・プログラムのうち、「講義を行う上でのポイント」については、小山、「ワークショップを行う上でのポイント」は安井が担当する。
・今後の講師育成プログラムは、上記の講師のうち、２名で担当する。

●議題④　講師育成プログラム②実習について

・講師育成プログラム②実習について、議論の結果、以下を確認した。

［実施回数］

・8 回（8 都道府県）の実施を目指す。

［日程］

2014 年 10 月～2015 年 1 月

［場所］

・災害時要援護者支援の連携プラットフォームづくりが始まっている（平成 25 年 7 月 10 日現在）以下の都道府県に優先的に声をかける。

北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県
新潟県
富山県
石川県
群馬県
東京都
愛知県
三重県
京都府
島根県
熊本県

［対象］

○講師育成プログラム②実習としての対象

・講師育成プログラム②実習としての受講対象者は、講師育成プログラム①集合研修の修了者とする。実施地域に近い方を優先するが、より多くの人が受講できるよう、柔軟に対応する。

・人数は、1回の実施につき、1名から2名程度とする。

○「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」としての対象

・本研修は、講師育成プラグラムの実習としての位置づけだが、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施及びブラッシュアップの機会ともなる。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の受講者については、実施する各都道府県の連携プラットフォーム調整担当団体（以下）に、本研修の趣旨（「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」は、災害福祉広域支援ネットワーク連携プラットフォームの構成者を対象として開発した研修であること）を伝えた上で、声掛けを一任する。

北海道　（行政）
青森県　（県社会福祉協議会）
岩手県　（行政＋県社会福祉協議会）
宮城県　（県社会福祉協議会）
秋田県　（県社会福祉協議会）
山形県　（県老人福祉施設協議会）
新潟県　（県社会福祉協議会）
富山県　（県社会福祉協議会）
石川県　（県社会福祉協議会）
群馬県　（県社会福祉協議会）
東京都　（都社会福祉協議会）
愛知県　（県社会福祉協議会）
三重県　（県社会福祉協議会）
京都府　（府社会福祉協議会）
島根県　（県社会福祉協議会）
熊本県　（行政）

※　カッコ内が、調整担当団体。

・受講者となる災害福祉広域支援ネットワーク連携プラットフォーム構成者としては、以下の団体が考えられる。

高齢者福祉団体
障がい者福祉団体
児童福祉団体
医療団体
行政団体（県，市町村）
社会福祉協議会　　等

・定員は、昨年度は42名としていたが、より良い成果をあげるた

めに、30名（ワークショップは5グループ程度）とする。

・交通費は、受講者の自己負担とする。

［プログラム］

・プログラムは、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の基本プラグラム（以下）とする。実施都道府県の事情や、会場の都合等により、調整が必要な場合は柔軟に対応する。

《事前レポート》

《プログラム》

オリエンテーション（10 分）

情報提供「各都道府県の災害対策について」（20 分）

講義１「災害の基礎と実際」（60 分）

ワークショップ１「災害の基礎と実際」（120 分）

講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」（100 分）

ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際
災害福祉広域支援」（140 分）

ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際
仮設住宅サポート拠点」（140 分）

ワークショップ４「災害体験ゲーム」（30 分）

ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際
事業継続計画（ＢＣＰ）」（170 分）

《修了レポート》

［テキスト］

・テキストは、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】第１版」を使用する。

［実施体制］

・講師は、平成 25 年度に「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師を務めた以下のメンバーとする。

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）

中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被

災地　宮城県）

安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地茨城県）

・各回２名の講師で担当する。
・実習者は、各回１名～2名とし、補助講師を務める。

●議題⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議について

・災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議について、議論の結果、以下を確認した。

［日程］
・平成 27 年１月頃で調整する。
・予算の関係上、首長会議と同日開催で調整する。

［場所］
福祉プラザさくら川（東京都港区）

［対象］
・災害時要援護者支援の連携プラットフォームづくりが始まっている都道府県に加え、その他の都道府県にも呼び掛ける。
・災害時要援護者支援の連携プラットフォームづくりが始まっている都道府県には、調整担当（以下カッコ内）に参加を呼び掛ける。その他の都道府県については、都道府県福祉担当課及び防災担当課と、都道府県社会福祉協議会に案内を送付する。

北海道　（行政）
青森県　（県社会福祉協議会）
岩手県　（行政＋県社会福祉協議会）
宮城県　（県社会福祉協議会）
秋田県　（県社会福祉協議会）
山形県　（県老人福祉施設協議会）
新潟県　（県社会福祉協議会）
富山県　（県社会福祉協議会）
石川県　（県社会福祉協議会）
群馬県　（県社会福祉協議会）
東京都　（都社会福祉協議会）
愛知県　（県社会福祉協議会）

三重県　（県社会福祉協議会）
京都府　（府社会福祉協議会）
島根県　（県社会福祉協議会）
熊本県　（行政）

※　カッコ内が、調整担当団体。

・呼掛け先については、「第１回検討委員会」で確認をとる。
・交通費は、参加者の負担とする。
・首長会議と同日開催とすることから、首長会議参加者も、オブザーバーとして参加可能とする。

［内容］
・以下の内容を含むプログラムとする。

趣旨説明（事業説明）
各都道府県の状況報告・情報交換
意見交換「災害福祉広域支援ネットワーク早期確立のための課題について」

・達成目標は、「今後も連携プラットフォーム会議を継続的に開催することを申し合わせる」とする。

●議題⑥　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議について

・災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議について、議論の結果、以下を確認した。

［日程］
・平成 27 年 1 月頃で調整する。
・予算の関係上、連携プラットフォーム会議と同日開催で調整する。

［場所］
福祉プラザさくら川（東京都港区）

［対象］
・呼掛け先は、以下とする。
全国の都道府県知事（47 人）
全国の市町村長（1，741 人）
・連携プラットフォーム会議と同日開催とすることから、連携プラットフォーム会議参加者も、オブザーバーとして参加可能とする。

・交通費は、参加者の負担とする。

［内容］

・以下の内容を含むプログラムとする。

趣旨説明（事業説明）
各都道府県・各区市町村の状況報告・情報交換
意見交換「災害福祉広域支援ネットワーク早期確立のための課題について」

・達成目標は、「今後も首長会議を継続的に開催することを申し合わせる」とする。

**②第２回ワーキング会議**

**実施日**

平成 26 年 8 月 18 日

注）第１回検討委員会後の実施

**実施場所**

福祉プラザさくら川（東京都港区）

**出席者**

小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**検討項目**

議題①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの内容について
議題②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの受講依頼先について
議題③　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムのテキストについて

議題④　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の案内について

議題⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の案内について

**資料**

資料①　講師育成プログラム①集合研修　プログラム（案）

資料②　講師育成プログラム　受講者（案）

資料③　講師育成プログラム　テキスト（案）

資料④　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議案内（案）

資料⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議　案内（案）

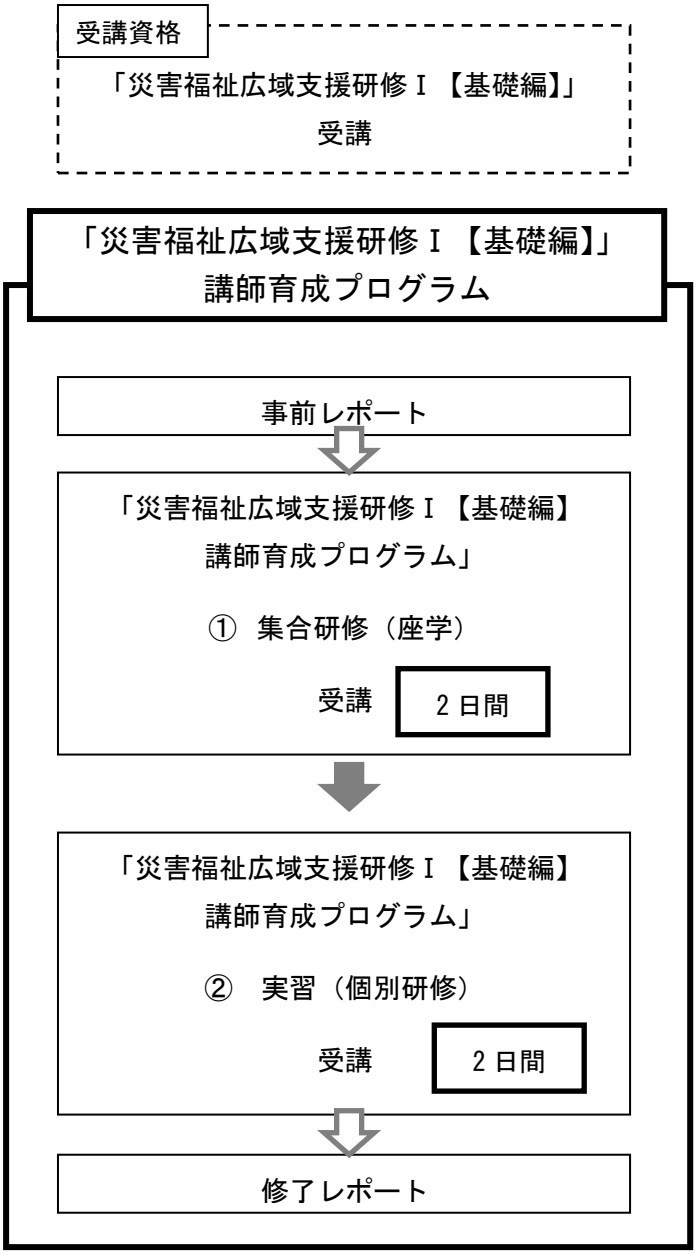
**検討結果**

検討項目について、以下のような議論を行った。

●議題①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの内容について

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの内容について、議論の結果、以下を確認した。

［全体構成］




［事前レポート］

テーマ　：「広域的な災害時要援護者支援のために不可欠な共通認識とは」

文字数　：400 字～800 字

提出期限：研修の 10 日前

［集合研修プログラム］

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| **１日目** | |
| 9:45 | 受付開始 |
| 10:00～10:50<br>(50 分) | 【オリエンテーション】<br>趣旨説明(20 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)<br>自己紹介(25 分)　等 |
| 10:50～11:00 | 休憩 |
| 11:00～12:00<br>(60 分) | **【講義】**<br>**「第1章　災害の基礎と実際」**<br>**の講義のポイント** |
| 12:00～13:00 | 昼食 |
| 13:00～15:00<br>(120 分)<br>※5 分休憩含む | **【講義】**<br>**「第2章　災害時要援護者支援の基礎と実際」**<br>**の講義のポイント** |
| 15:00～15:10 | 休憩 |
| 15:10～16:40<br>(90 分) | **【ワークショップ】**<br>**「伝えるテクニック」について考える** |
| 16:40～16:50 | 休憩 |
| 16:50～17:30<br>(40 分) | **【講義】**<br>**「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」** |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【1 日目総括】<br>総括・質疑応答(10 分)<br>諸連絡(5 分)<br>アンケート(15 分) |
| **２日目** | |
| 8:45 | 受付開始 |
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 【オリエンテーション】<br>昨日の気づき(5 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)　等 |
| 9:10～10:40<br>(90 分) | **【ワークショップ】**<br>**「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える** |
| 10:40～10:50 | 休憩 |

| | |
|---|---|
| 10:50～11:20<br>(30 分) | 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」 |
| 11:20～12:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える |
| 12:20～13:10 | 昼食 |
| 13:10～14:10<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える |
| 14:10～14:20 | 休憩 |
| 14:20～15:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える |
| 15:20～16:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える |
| 16:20～16:30 | 休憩 |
| 16:30～17:30<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（BCP）について考える～」のポイントについて考える |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【2 日目総括】<br>総括・質疑応答（10 分）<br>諸連絡（5 分）<br>アンケート（15 分） |

・講師は、「【講義】「第１章　災害の基礎と実際」の講義のポイント」と「【講義】「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント」では、講義を行う上で落としてはいけないポイントを説明する。

・講師は、「【ワークショップ】「伝えるテクニック」について考える」で、講師としての心構えや手法等について考えてもらい、その成果を確認する形で「【講義】「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」を実施する。

・講師は、「【ワークショップ】「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える」で、ワークショップをリードするファシリテーターの心構えや手法等について考えてもらい、その成果を確認する形で、「【講義】「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」を実施する。
・講師は、「【ワークショップ】「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える」では、各ワークショップを行う上で落としてはいけないポイントを説明する。

［実習］

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム修了者は、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施現場に、補助講師として参加する。

議題②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの受講依頼先について

・「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」受講済もしくは、同等の知識と経験を有する」という受講資格を満たす受講者を 16 名選出し、受講依頼をすることとした。
・本事業での実施は、講師育成プログラムの開発を主目的とすることから、公募は行わず、認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの支部，会員，役員等から、選出した。「第１回検討委員会」での検討を踏まえた決定である。

議題③　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムのテキストについて

・災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室が本事業以前に作成した「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師マニュアルを、

講師育成プログラムのテキストとして再考した。

・「【講義】「第１章　災害の基礎と実際」の講義のポイント」と「【講義】「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント」については、既存の講師マニュアルに沿って進行する。不足については随時追加する。

・「【講義】「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」については、本会議で出た意見を調整事務局が整理し、テキスト案を再考する。次回のワーキング会議で確認する。

・「【講義】「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」」については、本会議で出た意見を整理し、テキスト案を再考する。次回のワーキング会議で確認する。

・「【ワークショップ】「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える」と「【ワークショップ】「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える」については、既存の講師マニュアルに沿って進行する。不足については随時追加する。

議題④　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の案内について

・災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議案内（案）について確認を行った。

・連携プラットフォーム会議は、首長会議と同日の午前に行い、その成果を元に、午後の首長会議を実施する。連携プラットフォーム会議の参加者も、首長会議にオブザーバーとして参加できるとこととし、話題提供は午後の首長会議で行うこととした。

・主たる確認内容は、以下の通り。

［プログラム］

| | |
|---|---|
| 9:30～10:00 | **●挨拶・趣旨説明**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |

| | |
|---|---|
| 10:00～12:00<br>(120 分) | **●意見交換**<br>**《コーディネーター》**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |

議題⑤　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の案内について

・災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議案内（案）について確認を行った。
・首長会議は、連携プラットフォーム会議と同日の午後に行うこととした。午前の連携プラットフォーム会議にもオブザーバーとして参加できることとする。
・主たる確認内容は、以下の通り。

［プログラム］

| | |
|---|---|
| 13:00～13:10<br>(10 分) | **●挨拶・趣旨説明**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |
| 13:10～14:10<br>(60 分) | **●話題提供Ⅰ**<br>厚生労働省 |
| 14:10～15:10<br>(60 分) | **●話題提供Ⅱ**<br>連携プラットフォームづくりの現状<br>岩手県社会福祉協議会<br>新潟県社会福祉協議会<br>熊本県 |
| 15:10～15:20 | 休憩 |
| 15:20～15:50<br>(30 分) | **●話題提供Ⅲ**<br>「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの推進する災害時要援護者支援」(仮題)<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |
| 15:50～17:50<br>(120 分) | **●意見交換**<br>**《コーディネーター》**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |
| 17:50～18:00<br>(10 分) | **●まとめ**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山剛 |

## ③第３回ワーキング会議

### 実施日

平成 26 年 9 月 16 日

### 実施場所

福祉プラザさくら川（東京都港区）

### 出席者

小山　剛　　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
中田　年哉　　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

### 検討項目

議題①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の進行について
議題②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の受講者について
議題③　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの受講者の事前レポートについて
議題④　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の準備作業について
議題⑤　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の備品について
議題⑥　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの修了レポートについて
議題⑦　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習場所について
議題⑧　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習の担当者について
議題⑨　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の調整について

**資料**

資料①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①
集合研修　進行表
資料②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム
受講者リスト
資料③　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム
受講者事前レポート
資料④　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①
集合研修の準備作業リスト
資料⑤　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①
集合研修の備品表
資料⑥　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの
修了レポート（案）
資料⑦　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②
実習場所の調整状況
資料⑧　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議　協力依頼（案）

**検討結果**

検討項目について、以下のような議論を行った。

●議題①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①
集合研修の進行について

・「資料①　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修　進行表」に沿って実施することを確認した。
・各プログラムの達成目標について、以下のような確認を行った。

| プログラム | 達成目標 |
|---|---|
| 【講義】<br>「第１章　災害の基礎と実際」<br>の講義のポイント | 「第１章　災害の基礎と実際」の講義のポイントについて理解する |
| 【講義】<br>「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」<br>の講義のポイント | 「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイントについて理解する |
| 【ワークショップ】<br>「伝えるテクニック」について考える | 受講者の理解を促すための講義のテクニックについて考える |

| | |
|---|---|
| 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」 | 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義を有意義なものとするためのポイントを理解する |
| 【ワークショップ】<br>「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える | ファシリテーターの役割とテクニックについて考える |
| 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」 | 「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のワークショップを有意義なものとするためのファシリテートのポイントを理解する |
| 【ワークショップ】<br>「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える | ワークショップ１のファシリテートのポイントについて考える |
| 【ワークショップ】<br>「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える | ワークショップ２のファシリテートのポイントについて考える |
| 【ワークショップ】<br>「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える | ワークショップ３のファシリテートのポイントについて考える |
| 【ワークショップ】<br>「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える | ワークショップ４のファシリテートのポイントについて考える |
| 【ワークショップ】<br>「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える | ワークショップ５のファシリテートのポイントについて考える |

●議題②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の受講者について

・「資料②　講師育成プログラム受講者リスト」を確認した。予定より 2

名少ない、14 名の受講となったが、育成プログラムは、丁寧に行う必要があることから、適した人数であると判断した。

・ワークショップのグループ分けは、これまでの経験等を踏まえ、全てのグループで大きな成果があがるよう、ワークショップ担当講師(安井)が行うことを確認した。

●議題③　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの受講者の事前レポートについて

・受講者の事前レポートについて、講師で確認を行った。今回は公募ではなく、講師に適任と思われる人材に受講を依頼していることから、災害時要援護者支援についての意識の高さがうかがえるレポートであった。

・特に対応が必要な事項はなかったが、事前レポートを意識において、研修を進めていくことを確認した。

●議題④　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の準備作業について

・「資料④　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の準備作業リスト」について、最終確認を行った。

●議題⑤　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の備品について

・「資料⑤　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修の備品表」について、最終確認を行った。

●議題⑥　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの修了レポートについて

・修了レポートは、実習終了後、以下を提出してもらうこととなった。提出期限は、実習終了後、10 日とする。

レポート①　研修前との変化の確認

テーマ　:「広域的な災害時要援護者支援のために不可欠な共通認識とは」

※事前レポートと同テーマ

文字数　: 400 字～800 字

レポート②　講義手法についての理解の確認

テーマ　:「サンダーバードの研修の講義における伝え方について」

文字数　：400 字～800 字

レポート③　ファシリテートについての理解の確認

テーマ　：「サンダーバード研修のワークショップにおけるファシリテートについて」

文字数　：400 字～800 字

レポート④　講師育成プラグラムの見直し

テーマ　：「各講義及びワークショップの気づき」

文字数　：400 字～800 字

●議題⑦　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習場所について

・「資料⑦　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習場所の調整状況」について、確認した。
・平成 26 年 8 月に、連携プラットフォームの検討が始まっている都道府県に、文書で「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施を呼びかけた。しかし、「プラットフォームを立ち上げることは決定したが、そのための会議等がこれからの段階」という都道府県が多く、実施場所が確定するには、もう少し時間がかかる。
・将来的には、全ての都道府県において、連携プラットフォームづくりが行われることから、現時点ではプラットフォームづくりの動きがない都道府県にも、声掛けを行っても良いことにする。平成 27 年 1 月の調整状況によって、判断し、調整する。あくまでも、動きのある都道府県を優先する。

●議題⑧　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習の担当者について

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム②実習担当者の調整は、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの企画室に一任する。各回、講師 2 名、補助講師は 1 名～2 名とする。補助講師は、実施地に近い修了者を優先する。

●議題⑨　災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の調整について

・全国市長会会長の長岡市長に送付する「災害福祉広域支援ネットワーク首長会議の調整の協力依頼状」について確認を行った。
・災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード新潟支部（災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード代表理事小山剛の所属法人でもあ

る）高齢総合ケアセンターこぶし園の所在地が長岡市であることから、小山が長岡市長との連絡をとった上で、調整事務局が調整を始めることとなった。

④第４回ワーキング会議

**実施日**

平成 27 年 2 月 28 日

**実施場所**

高齢者総合ケアセンターこぶし園（新潟県長岡市）

**出席者**

小山　剛　　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地　宮城県）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

**検討項目**

議題①　事業成果についての意見交換

**資料**

資料①　事業報告
資料②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」
講師育成プログラム①集合研修　アンケート結果
資料③　災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議　アンケート結果
資料④　災害福祉広域支援ネットワーク
連携プラットフォーム会議　議事概要
資料⑤　概要版報告書（案）

**検討結果**

検討項目について、以下のような議論を行った。

●議題①　事業成果についての意見交換

・「資料①　事業報告」,「資料②　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム①集合研修　アンケート結果」,「資料③　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　アンケート結果」,「資料④　災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　議事概要」を元に、概要版報告書のまとめについて意見交換を行った。意見交換の内容を踏まえ、概要版報告書及び本報告書を作成した。

ワーキング会議

ワーキング会議

## ５．３.「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラムの検討

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講師育成プログラムについて検討した。

### 目的

東日本大震災の際、福祉における広域支援が機能しなかった原因のひとつは、災害時要援護者支援及び広域支援に関する共通認識が育まれていなかったことにあると言われている。その課題を解決するために、平成 25 年度社会福祉推進事業として「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を開発した。モデル研修において、その必要性も確認された。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を今後も継続的に実施するためには講師養成が不可欠である。そこで、本事業項目において、講師育成プログラムを開発し、モデル実施によって検証することにより、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施体制の検討を行う。

講師育成プログラムの実習として、連携プラットフォームづくりが進められている都道府県等で「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を実施することは、災害時要援護者支援に関する共通認識の拡大と「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のブラッシュアップの機会にもなる。

### 実施手順

#### （１）講師育成プログラム ver.1 の開発

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論を踏まえ、講師育成プログラム ver.1 の開発を行った。ワーキング会議の日程及び検討内容は以下の通り。

第１回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 7 月 14 日

［内容］

講師育成プログラム①集合研修（案）の検討

日程，場所，対象，プログラム，テキスト，実施体制　等

講師育成プログラム②実習（案）の検討

実施回数，日程，場所，対象，プログラム，実施体制　等

第１回　検討委員会

［日程］

平成 26 年 7 月 28 日

［内容］

講師育成プログラム①集合研修（案）の検討

日程，場所，対象，プログラム項目，テキスト，実施体制　等

講師育成プログラム②実習（案）の検討

実施回数，日程，場所，対象，プログラム，実施体制　等

第２回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 8 月 18 日

［内容］

講師育成プログラム　プログラム内容の検討

講師育成プログラム　テキスト内容の検討

講師育成プログラム　受講者（案）の選定

第３回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 9 月 16 日

［内容］

講師育成プログラム①集合研修の実施確認

講師育成プログラム②実習の調整状況の確認

講師育成プログラム修了レポートの検討

### （２）講師育成プログラム ver.1①集合研修の検証

開発した講師育成プログラム①集合研修（座学）を東京都で実施し、プログラムの検証を行った。受講者には、本研修が開発のためのモデル研修であることを明確に伝え、アンケート及び口頭での意見を求めた。

モデル研修は以下の手順で実施した。

#### ①会場の調整

受講者の利便性を考え、東京都に会場を調整した。

#### ②受講者の調整

以下の手順で、受講者の調整を行った。

**●受講依頼**

ワーキング会議で選定した、「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」受講済もしくは、同等の知識と経験を有することを受講資格とする」という受講資格を満たす受講者に受講依頼を行った。

●受講案内（受講票の送付，事前レポートのお願い）

受講が決定した人に、受講票を送付し、事前レポートを依頼した。

●事前レポートの回収

事前レポートを回収し、講師全員で共有した。

③研修担当者の調整

ワーキング会議で研修担当者（講師等）の調整を行った。

④研修備品（テキスト等）の準備

ワーキング会議での検討を踏まえ、研修備品（テキスト等）の準備を行った。

⑤モデル研修の実施

モデル研修を実施した。本研修は研修プログラム開発の一環であることから、受講者に、本研修の位置づけを繰り返し伝え、アンケート及び口頭での意見と、修了レポートの提出を求めた。また、音声、写真による記録を行った。

⑥アンケートの集計分析

アンケート結果を集計し、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会での検討のための分析を行った。

（３）講師育成プログラム ver.1②実習の検証

開発した講師育成プログラム②実習（個別研修）として「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を実施し、プログラムの検証を行った。実習者には、本研修が開発のためのモデル研修であることを明確に伝え、アンケート及び口頭での意見を求めた。

モデル研修は以下の手順で実施した。

①モデル研修（実習）実施都道府県の選定

以下の手順でモデル研修実施都道府県の選定を行った。

●連携プラットフォームの検討が始まっている都道府県への協力依頼

連携プラットフォームの検討が始まっているとされていた 16 都道府県に対し、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施を優先的に呼びかけた。

●モデル研修（実習）実施都道府県の決定

16 都道府県の進捗状況はさまざまで、検討が始まったばかりで、研修を行える段階にないという都道府県が多かったことから、他の都道府県にも実施を呼びかけ、モデル研修（実習）実施都道府県となる 8 都道府県を決定した。

②会場の調整

現地調整協力者と相談し、会場を調整した。

③参加者の調整

現地調整協力者と連携し、以下の手順で、参加者調整を行った。

●受講者募集

連携プラットフォームに関係する団体、個人に、受講者を募集した。

●受講案内（受講票の送付，事前レポートのお願い）

受講が決定した受講者に、受講票を送付し、事前レポートを依頼した。

●事前レポートの回収

事前レポートを回収し、講師全員で共有した。

④研修担当者の調整

ワーキング会議での検討を踏まえ、研修担当者（講師，補助講師＝実習者等）の調整を行った。

⑤研修備品（テキスト等）の準備

ワーキング会議での検討を踏まえ、研修備品（テキスト等）の準備を行った。

⑥モデル研修の実施

モデル研修を実施した。本研修は、育成プログラム開発の一環であることから、実習者には、本研修の位置づけを確認し、アンケート及び修了レポートの提出と口頭での意見を求めた。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の受講者には、実習生が参加することのみを冒頭で伝えた。

**⑦アンケートの集計分析**

アンケート結果を集計し、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会での検討のための分析を行った。

**⑧事前・修了レポートの分析**

修了レポートを回収し、講師全員で共有した。

### （４）育成プログラム ver.2 の検討

モデル研修での検証結果について、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会で議論し、育成プログラム ver. １の課題を整理し、ver.2 の作成に向けて検討を行った。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の課題についても検討した。
ワーキング会議の日程及び検討内容は以下の通り。

第４回　ワーキング会議
［日程］
平成 27 年 2 月 28 日
［内容］
育成プログラム ver.2 の課題の検討　等

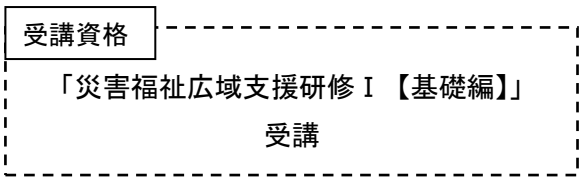
第２回　検討委員会
［日程］
平成 27 年 3 月 16 日
［内容］
育成プログラム ver.2 の課題の検討　等

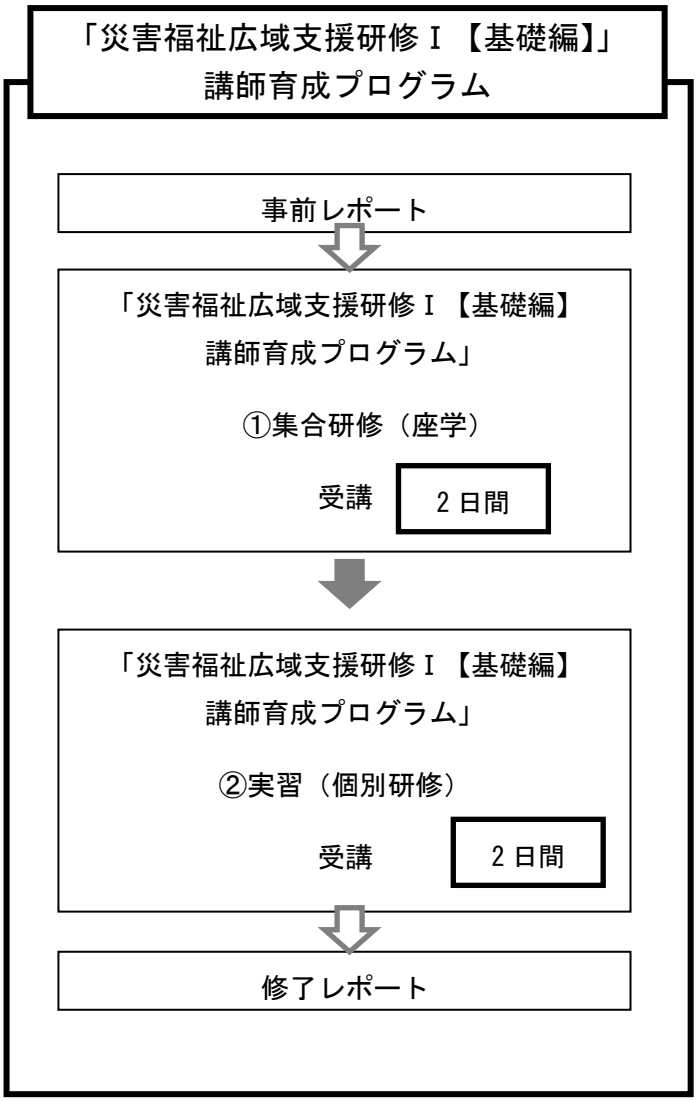
実施内容（実施結果）

（１）講師育成プログラム ver.１の開発

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論を踏まえ、講師育成プログラム ver.１を以下に定めた。

［全体構成］



［事前レポート］

テーマ　:「広域的な災害時要援護者支援のために不可欠な共通認識とは」

文字数　: 400 字～800 字

提出期限 : 研修の 10 日前

［集合研修プログラム］

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| **１日目** | |
| 10:00～10:50<br>(50 分) | 【オリエンテーション】<br>趣旨説明(20 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)<br>自己紹介(25 分)　等 |
| 10:50～11:00 | 休憩 |
| 11:00～12:00<br>(60 分) | **【講義】**<br>**「第1章　災害の基礎と実際」の講義のポイント** |
| 12:00～13:00 | 昼食 |
| 13:00～15:00<br>(120 分)<br>※5 分休憩含む | **【講義】**<br>**「第2章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント** |
| 15:00～15:10 | 休憩 |
| 15:10～16:40<br>(90 分) | **【ワークショップ】**<br>**「伝えるテクニック」について考える** |
| 16:40～16:50 | 休憩 |
| 16:50～17:30<br>(40 分) | **【講義】**<br>**「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方** |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【1 日目総括】<br>総括・質疑応答(10 分)<br>諸連絡(5 分)<br>アンケート(15 分) |
| **２日目** | |
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 【オリエンテーション】<br>昨日の気づき(5 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)　等 |

| | |
|---|---|
| 9:10～10:40<br>(90 分) | 【ワークショップ】<br>「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える |
| 10:40～10:50 | 休憩 |
| 10:50～11:20<br>(30 分) | 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」 |
| 11:20～12:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ1　災害の基礎と実際」のポイントについて考える |
| 12:20～13:10 | 昼食 |
| 13:10～14:10<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ2　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える |
| 14:10～14:20 | 休憩 |
| 14:20～15:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ3　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える |
| 15:20～16:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ4　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える |
| 16:20～16:30 | 休憩 |
| 16:30～17:30<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ5　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（BCP）について考える～」のポイントについて考える |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【2 日目総括】<br>総括・質疑応答（10 分）<br>諸連絡（5 分）<br>アンケート（15 分） |

［集合研修のプログラム内容］

●【講義】「第１章　災害の基礎と実際」の講義のポイント

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」テキスト「第１章　災害の基礎と実際」の講義の流れを確認する。更に、講義を行う上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「「第１章　災害の基礎と実際」の講義のポイントについて理解する」とする。

**●【講義】「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント**

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」テキスト「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義の流れを確認する。更に、講義を行う上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「「第２章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイントについて理解する」とする。

**●【ワークショップ】「伝えるテクニック」について考える**

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義を行う上で必要な講師としての心構えや手法等について考えるグループワークを実施する。

達成目標は、「受講者の理解を促すための講義のテクニックについて考える」とする。

**●【講義】「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方**

「【ワークショップ】「伝えるテクニック」について考える」の検討結果を踏まえ、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義を行う上で不可欠な心構え、手法、配慮等についての講義を行う。

達成目標は、「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義を有意義なものとするためのポイントを理解する」とする。

**●【ワークショップ】「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える**

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のワークショップをリードするファシリテーターの心構えや手法等について考えるグループワークを実施する。

達成目標は、「ファシリテーターの役割とテクニックについて考える」とする。

**●【講義】「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート**

「【ワークショップ】「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える」の検討結果を踏まえ、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のワークショップを行う上で不可欠な心構え、手法、配慮等についての講義を行う。

達成目標は、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のワークショップを有意義なものとするファシリテートのポイントを理解する」とする。

●【ワークショップ】「ワークショップ１　災害の基礎と実際のポイントについて考える」のポイントについて考える

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の「ワークショップ１　災害の基礎と実際のポイントについて考える」の実施の流れを確認する。更に、グループワークを通じて、ワークショップをリードする上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「ワークショップ１のファシリテートのポイントについて確認する」とする。

●【ワークショップ】「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」の実施の流れを確認する。更に、グループワークを通じて、ワークショップをリードする上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「ワークショップ２のファシリテートのポイントについて確認する」とする。

●【ワークショップ】「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」の実施の流れを確認する。更に、グループワークを通じて、ワークショップをリードする上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「ワークショップ３のファシリテートのポイントについて確認する」とする。

●【ワークショップ】「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」の実施の流れを確認する。更に、グループワークを通じて、ワークショップをリードする上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「ワークショップ４のファシリテートのポイントについて確認する」とする。

●【ワークショップ】「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」の実施の流れを確認する。更に、グループワークを通じて、ワークショップをリードする上で落としてはいけないポイントを確認する。

達成目標は、「ワークショップ５のファシリテートのポイントについて確認する」とする。

［実習内容］

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施現場に、補助講師として参加する。

・具体的な作業は、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」研修実施マニュアル（以下）に定める。

## ■「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」研修実施マニュアル

| 事前準備 |
|---|
| **【個人】**<br>・研修の流れを再確認する。<br>・行程を確認する。（前日入りの場合は、前日打ち合わせに間に合うように。当日入りの場合は、研修開始1時間前に到着するように。）<br>・名簿を確認し、参加者の傾向を確認する。グループ分けの方法についても確認し、必要であれば、サンダーバード事務局に調整を依頼する。<br>・事前レポートを読み、参加者の傾向を確認する。<br>**【講師　前日打合せ】**<br>・各自の担当を確認する。<br>・以下のマニュアルに沿って、動きの確認をする。<br>・当日の集合時間及び場所を確認する。 |

| 1日目 | | |
|---|---|---|
| 時　間 | プログラム | 作　業 |
| 開始 1 時間前 | 集合 | |
| 30 分程度 | 準備 | **※緊急度の高い作業から実施。緊急度の低い作業は合間にアシスタントが準備をしても良い。**<br>・事務局から送付してある備品を確認する。<br>・パワーポイント環境（プロジェクター，スクリーン，パソコン）の設定と動作確認を行う。<br>・机，椅子を配置する。（グループワーク形式，注：パワーポイントが見やすいように。座って確認）<br>・ホワイトボードを見やすい位置に配置する。専用マジックのインクを確認する。<br>・表示（受付，会場，グループ）を掲示する。<br>・録音，撮影機器を確認する。（撮影は実施状況が分かるように、さまざまな角度で行う）<br>・ワークショップセット（以下）をすぐ配れるように準備する。<br>　マジック（黒，赤，青／裏うつりしないものであることを確認），名前ペン（人数分），<br>　附箋（100 枚×人数分）<br>・ワークショップ1の資料を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・アンケート（1 日目）を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる） |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の確認を行う。（講師全員で共有）<br>・空調，照明の確認を行う。（講師全員で共有）<br>・携帯電話をマナーモードに設定する。<br>・昼食の準備をする。（外食する場合は、絶対に遅れないこと） |
| 開始 30 分前 | 受付開始 | ・現地調整担当者に確認の上、必要に応じて受付作業（名簿確認・グループ別の席の案内）を行う。<br>・現地調整担当が受付を行う場合は、集まり状況を確認し、開始時間の調整を行う。（交通機関の遅延等により多数の人が遅れた場合等は、調整が必要になる。） |
| 10 分 | 趣旨説明<br>日程説明　等 | ・講師及びスタッフは自己紹介をする。 |
| 20 分 | 【情報提供】<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」 | ・パワーポイントを使用される場合は、照明の調整を行う。<br>・資料の不足がないか確認し、対応する。 |
| 60 分 | 【講義1】<br>「災害の基礎と実際」 | ・照明の調整を行う。<br>・録音を行う。 |
| 10 分 | 休憩 | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の案内をする。 |
| 100 分 | 【ワークショップ1】<br>「災害の基礎と実際」 | ・開始と同時に、資料をグループごとに裏返しで配布する。指示があるまで表に返さないように伝える。<br>・資料は、ワークショップ終了後に回収することを伝える。<br>・サンダーバードの講師全員で共有すべき事項があれば、記録をとる。 |
| 45 分 | 昼食・休憩 | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の案内をする。<br>・ワークショップ1の模造紙を回収し、日付と班番号を記入し、写真をとる。附箋が貼られている場合は、メンディングテープで固定し、まとめる。（折っても良い）<br>・配布資料を回収する。 |
| 120 分 | 【講義2】<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 | ・照明の調整を行う。<br>・録音を行う。 |
| 10 分 | 休憩 | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の案内をする。 |
| 140 分 | 【ワークショップ2】 | ・模造紙を各班 3 枚配布する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 | ・附箋が少なっている場合は補充する。<br>・照明の調整を行う。<br>・サンダーバードの講師全員で共有すべき事項があれば、記録をとる。 |
| 15 分 | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート | ・開始と同時に、アンケートをグループごとに裏返しで配布する。指示があるまで表に返さないように伝える。<br>・アンケートを回収する。 |
| 30 分 | 片付け | ・忘れ物を確認する。<br>・戸締り、消灯、空調の確認を行う。<br>**※必要に応じて 2 日目の準備を行う。（内容は、2 日目の準備欄　参照）** |
| 随時 | 反省会と打ち合わせ | ・講師間で、お互いの気づきを共有し、必要に応じて翌日の研修を調整する。<br>・アンケートの内容を確認し、必要に応じて、翌日の研修を調整する。<br>・反省及び打ち合わせの内容は、事務局に報告する。 |
| **2日目** | | |
| 開始 1 時間前 | 集合 | |
| 30 分程度 | 準備 | **※緊急度の高い作業から実施。緊急度の低い作業は合間にアシスタントが準備をしても良い。**<br>**※会場の都合により、準備時間がとれない場合は、優先順位を踏まえ、研修中に空いている人が準備をする。**<br>・パワーポイント環境（プロジェクター，スクリーン，パソコン）の設定と動作確認を行う。<br>・机，椅子の配置を確認する。（グループワーク形式，注：パワーポイントが見やすいように。座って確認）<br>・ホワイトボードの配置を確認する。専用マジックのインクを確認する。<br>・表示（受付，会場，グループ）を確認する。<br>・録音，撮影機器を確認する。（撮影は実施状況が分かるように、さまざまな角度で行う）<br>・ワークショップセット（以下）が各グループに配布されているか確認する。不足があれば補充する。<br>マジック（黒，赤，青／裏うつりしないものであることを確認），名前ペン（人数分），<br>附箋（100 枚×人数分）<br>・ワークショップ4で使用するA4用紙を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる） |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・ワークショップ5の設問2で使用するワークシート①〈避難判断・避難誘導〉を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・ワークショップ5の設問3で使用するワークシート②〈食事・補水〉を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・ワークショップ5の設問4で使用するワークシート③〈清潔・整容〉を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・アンケート（2 日目）を、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・修了レポートを、すぐに配れるよう準備する。（枚数を数えて交互に重ねる）<br>・トイレ，自動販売機，喫煙所の確認を行う。（講師全員で共有）<br>・空調，照明の確認を行う。（講師全員で共有）<br>・携帯電話をマナーモードに設定する。<br>・昼食の準備をする。（外食する場合は、絶対に遅れないこと） |
| 開始 30 分前 | 受付開始 | ・現地調整担当者に確認の上、必要に応じて受付作業（名簿確認・グループ別の席の案内）を行う。<br>・現地調整担当者が行う場合は、集まり状況を確認し、開始時間の調整を行う。（交通機関の遅延等により多数の人が遅れた場合等は、調整が必要になる。） |
| 10 分 | 昨日の気づき<br>日程確認　等 | |
| 140 分 | 【ワークショップ3】<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について<br>考える～」 | ・模造紙を各班 2 枚配布する。（設問1で1枚、設問 2 と 3 で 1 枚という計算だが、全ての設問を1枚に書く場合も多い。現場で柔軟に対応する。）<br>・附箋が少なっている場合は補充する。<br>・照明の調整を行う。<br>・サンダーバードの講師全員で共有すべき事項があれば、記録をとる。 |
| 60 分 | 昼食・休憩 | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の案内をする。<br>・ワークショップ3の模造紙を回収し、日付と班番号を記入し、写真をとる。附箋が貼られている場合は、メンディングテープで固定し、まとめる。（折っても良い） |
| 30 分 | 【ワークショップ4】 | ・開始と同時に、A4用紙をグループごとに裏返しで配布する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 災害イメージトレーニング | ・サンダーバードの講師全員で共有すべき事項があれば、記録をとる。 |
| 170 分 | 【ワークショップ5】<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（BCP）について<br>考える～」 | ・模造紙を各班 4 枚配布する。<br>・附箋が少なっている場合は補充する。<br>・照明の調整を行う。<br>・設問2の直前にワークシート①〈避難判断・避難誘導〉を、グループごとに裏返しで配布する。指示があるまで表に返さないように伝える。<br>・設問3の直前にワークシート②〈食事・補水〉を、グループごとに裏返しで配布する。指示があるまで表に返さないように伝える。<br>・設問4の直前にワークシート③〈清潔・整容〉を、グループごとに裏返しで配布する。指示があるまで表に返さないように伝える。<br>・サンダーバードの講師全員で共有すべき事項があれば、記録をとる。 |
| 10 分 | 休憩 | ・トイレ，自動販売機，喫煙所の案内をする。<br>・ワークショップ5の模造紙を回収し、日付と班番号を記入し、写真をとる。附箋が貼られている場合は、メンディングテープで固定し、まとめる。（折っても良い） |
| 30 分 | 修了レポート<br>アンケート | ・開始と同時に、アンケートと修了レポートをグループごとに裏返しで配布する。指示があるまで裏返さないように伝える。<br>・アンケートと修了レポートを回収する。 |
| 30 分 | 全体総括<br>諸連絡 | |
| 30 分 | 片付け | ・忘れ物を確認する。<br>・戸締り、消灯、空調の確認を行う。<br>・アンケートの内容を確認する。<br>・備品を、事務局に返送する。 |
| 随時 | 反省会と打ち合わせ | ・講師間で、お互いの気づきを共有する。<br>・反省及び打ち合わせの内容は、事務局に報告する。 |

［修了レポート］

・修了レポートは、実習終了後、以下を提出してもらう。提出期限は、実習終了後、10 日とする。

レポート①　研修前との変化の確認

テーマ　：「広域的な災害時要援護者支援のために不可欠な共通認識とは」

※事前レポートと同じテーマ

文字数　：400 字～800 字

レポート②　講義手法についての理解の確認

テーマ　：「サンダーバードの研修の講義における伝え方について」

文字数　：400 字～800 字

レポート③　ファシリテートについての理解の確認

テーマ　：「サンダーバード研修のワークショップにおけるファシリテートについて」

文字数　：400 字～800 字

レポート④　講師育成プラグラムの見直し

テーマ　：「各講義及びワークショップの気づき」

文字数　：400 字～800 字

### （２）講師育成プログラム ver.1①集合研修の検証

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1①集合研修の検証のために、以下のようにモデル研修を実施した。

実施結果は以下の通り。

#### ａ．「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1①集合研修

日時　　：第 1 回＝平成 26 年 9 月 21 日，22 日

場所　　：福祉プラザさくら川（東京都港区）

呼掛け先：16 名

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を受講済、もしくは同等の知識や経験を有する、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの支部職員，役員，会員を、ワーキング会議で選出し、呼びかけを行った。

参加者　：14 名

社会福祉法人射水万葉会
社会福祉法人湖成会
医療法人玉昌会
社会福祉法人心愛会
社会福祉法人青藍会
社会福祉法人白寿会
社会福祉法人長岡福祉協会
社会福祉法人東の会
災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード　理事
災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード　会員

実施体制：小山　剛　（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田　毅　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）
中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）
安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

プログラム

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| **１日目** | |
| 9:45 | 受付開始 |
| 10:00～10:50<br>(50 分) | 【オリエンテーション】<br>趣旨説明(20 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)<br>自己紹介(25 分)　等 |
| 10:50～11:00 | 休憩 |
| 11:00～12:00<br>(60 分) | **【講義】**<br>**「第1章　災害の基礎と実際」の講義のポイント** |
| 12:00～13:00 | 昼食 |
| 13:00～15:00<br>(120 分)<br>※5 分休憩含む | **【講義】**<br>**「第2章　災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント** |
| 15:00～15:10 | 休憩 |

| | |
|---|---|
| 15:10～16:40<br>(90 分) | 【ワークショップ】<br>「伝えるテクニック」について考える |
| 16:40～16:50 | 休憩 |
| 16:50～17:30<br>(40 分) | 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」 |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【1 日目総括】<br>総括・質疑応答(10 分)<br>諸連絡(5 分)<br>アンケート(15 分) |
| **２日目** | |
| 8:45 | 受付開始 |
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 【オリエンテーション】<br>昨日の気づき(5 分)<br>日程説明等(事務連絡)(5 分)　等 |
| 9:10～10:40<br>(90 分) | 【ワークショップ】<br>「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える |
| 10:40～10:50 | 休憩 |
| 10:50～11:20<br>(30 分) | 【講義】<br>「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」 |
| 11:20～12:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える |
| 12:20～13:10 | 昼食 |
| 13:10～14:10<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考える |
| 14:10～14:20 | 休憩 |
| 14:20～15:20<br>(60 分) | 【ワークショップ】<br>「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える |
| 15:20～16:20 | 【ワークショップ】 |

| | |
|---|---|
| (60 分) | **「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える** |
| 16:20～16:30 | 休憩 |
| 16:30～17:30<br>(60 分) | **【ワークショップ】**<br>**「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（BCP）について考える～」のポイントについて考える** |
| 17:30～18:00<br>(30 分) | 【2 日目総括】<br>総括・質疑応答（10 分）<br>諸連絡（5 分）<br>アンケート（15 分） |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）
1) たいへん良かった　2) 良かった　3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Ｑ２．講義「第１章災害の基礎と実際」の講義のポイント　についての感想・意見

Ｑ３．講義「第２章災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント　についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ「伝えるテクニック」について考える　についての感想・意見

Ｑ５．講義「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）
1) たいへん良かった　2) 良かった　3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える　についての感想・意見

Ｑ３．講義「「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」のファシリテート」　についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える　についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考えるについての感想・意見

Ｑ６．ワークショップ「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える　についての感想・意見

Ｑ７．ワークショップ「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える　についての感想・意見

Ｑ８．ワークショップ「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える　についての感想・意見

Ｑ９．日程、時間配分、会場等についての意見

Q10．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」講師育成プログラム　アンケート」調査票

調査結果　※今後の課題となる意見は太字にした

●1 日目

回答率 100%　回答 14／参加者数 14 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 9 人 | 64.3% |
| 2)良かった | 5 人 | 35.7% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 0 人 | 0% |
| 合計 | 14 人 | － |

Ｑ２．講義「第１章災害の基礎と実際」の講義のポイント について の感想・意見

・災害の悲惨さについて、もう少し詳しく聞きたい。
・実際の災害について知らない事が多いと感じた。
・イメージを助けることができるプログラムだと思う。ＤＶＤ使用は有効である。
・災害は自然現象や人為的原因によって、人間の社会生活や人命に受ける被害という定義を確認することができて良かった。
・自然災害の場合、絶えずそのことが起こっている地域（例えば大雪が日常的になっている新潟，桜島が噴火している鹿児島等）では、災害とはいわず、社会生活の中に取り込まれていることを認識した。災害は起こるという事をあらかじめ想定して準備しておくことが大切だということである。
・災害時における基礎的知識として、実際に起こった事例と定義を理解する事ができた。要援護者を理解し、支援者の役割を整理し、サンダーバードの設立の意味と援助の基本を再確認したいと思った。
・いかに日頃から準備をしているかが重要であることを認識した。
・東日本大震災で広域支援が機能しなかった原因の一つに、受援力の不足があったという言葉に納得した。地域をどう支えるかは大変難しい事だと感じた。
・災害の事例を聞いて、共感と共通認識を持つことができた。
・災害の基礎が良くまとめられているが、現状から考えると、原子力災害に関する記述が少ないと思う。政治がらみになることも予想される内容である。質問等の対処のし方が知りたい。
・講義を聞くことで理解を深めることができた。実際にあった

事例に照らし合わせて、災害についての理解を更に深めて行こうと思う。

・災害の定義、自助・互助・共助・公助の考え方について理解が深まった。サンダーバードは共助である。

・イメージを持たせることが出来る語り口が重要である。自分自身が被災をしたわけではないので、体験という形で話が出来ない。工夫が必要である。

・講師のマニュアルが出来ているので、大変分かりやすかった。

・講義のポイントとして、サンダーバードとして伝えるべき標準部分の信念や理念、ポイントが分かりやすく記入されている。後は、何度も読み込み、自分のものにすることが大切であることが、十二分に理解できた。それが講師として一番のハードルだとも思った。

・「第１章　災害の基礎と実際」は、研修の最初のつかみの部分である。基本をしっかり伝えつつ、自分の中でアレンジをして、この講義に興味を持っていただけるようにしていく必要がある。大切な章である。しっかりとテキストを読み込みつつ、自分の体験の加え方を検討していきたい。

・日常生活が成り立たなくなる状況を乗り切るためには、災害に対する準備や心構えが重要であると感じた。災害の対応順序、自助・互助・共助・公助についても理解ができた。サンダーバードは共助として仕組みを作り上げていく立場にある。

・小山代表の話は、大変わかりやすく、なおかつ共感できるものであった。このテキストを基本に、自分でもいろいろと勉強していきたい。災害対策は、基本的な共通理解ができていないと、いくら表面だけの防災訓練をしても、効果が薄い。この「基礎編」は重要である。一方で、ちょっと盛りだくさんで長いのではないかという心配も感じた。

・パワーポイントの「阪神・淡路大震災と東日本大震災における仮設住宅整備状況比較」にある、ふたつの災害の違いが生じた理由を再度確認したい。また、表中の戸数で足りているかも知りたい。

Ｑ３．講義「第２章災害時要援護者支援の基礎と実際」の講義のポイント　についての感想・意見

・最近、「災害時要援護者」ではなく、国は「災害時要配慮

者」という呼称を使うようになっている。しかし、「災害時要援護者」の方が一般の人々には浸透している。どちらの呼称を使うか検討する必要がある。

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」では、災害時要援護者の中で福祉を主に取り上げている。今後、幅を広げた取り組みも検討すると良い。

・最初に復旧しなくてはならないのは、避難所等の新しい環境に対応できない人の暮らし（認知症グループホーム、障がい者施設等）であることが分かった。

・ＣＷＡＰを福祉避難所へ移動させることの重要性を理解した。研修を受けるまで、福祉避難所があるということも知らなかった。これが現状だと思う。

・地域における支援で大切なことは、「自立に向けての支援」を行うことだということを学んだ。必要以上の援助は行うべきではないということである。

・災害時の実践の中から、連携，支援力，受援力の重要性を理解できた。

・災害時要援護者のどの人をどう支援するか、多様な人々に専門的にどう関わればよいのかまだ十分に理解できていない。地域の医療・福祉事業者や消防等との連携の取り方の重要性を感じた。

・2 時間と長いコマではあるが、適時、事例を入れる事で中弛みしなかった。

・1 人 1 人の判断が大変重要な問題だと思った。実際にはどうなのかも知りたい。

・福祉避難所で暮らしている人にどういう支援が必要か学ぶことができた。

・災害に関する準備は、備蓄等の物品の話ではなく訓練等も含むことを理解した。こぶし園の実体験に寄る部分が多いので、話をすることが難しいと思った。

・マニュアルが出来ていて、大変分かりやすかった。

・「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を一度受講していることが養成講座の前提となっているので仕方がないが、講義に実際に使用する映像やＤＶＤも確認したい。（特例として参加した「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」未受講の参加者の意見）

・第 2 章はサンダーバードの中でも一番大事な理念や考えを

伝える章である。しっかりと読み込んでサンダーバードの歩みを伝えて行きたい。

・要援護者の対象者分類やサービス形態に捕われない共通の判断と姿勢を学んだ。24 時間切れ目のない支援と周囲の理解が大切だと思った。

Q４．ワークショップ「伝えるテクニック」について考える について の感想・意見

・伝えたいことと、受け取りたいことの、バランスが必要と思った。

・頭の中で伝えるテクニックをまとめることができた。研修者と話ができ、目的が共有できることは大変良いことだと思う。ワークショップは準備が大変だがどんどん取り入れた方が良いと思う。

・ポイントをついた話し方、相手に興味を持たせ、引き付ける力が今の自分にはない。他の受講者の人達の意見の引き出し方等、とても参考になった。

・人に伝えるには、自分が深く理解していなければならないと思った。伝える内容を心から大事に思い、その熱い想いを伝えなければきっと伝わらないと思う。

・テーマが少し大きくて、一般論になってしまうので、**最初からサンダーバードの講師としてどう伝えたら良いかという観点に絞った方が良いと思った。**

・いろいろな意見が出たが、皆ほぼ同じだったと思う。ということは、一般の聴衆も同じことを求めているということである。日々の努力と経験が必要である。

・グループで話し合うことで自分とは違う意見を聞くことができ、とても参考になった。

・人の前で話をする場数を踏む必要がある。来る話は断らないで受けることが大切である。

・講師になるための必須要件について、色々な人の意見が聞けて良かった。

・伝えるテクニックのワークショップは、講師になる予定の方達の価値観もあるので、**一度講師の練習ができると良いと思った。**

・講師として必要な要素が具体的に理解できた。

・皆の意見に納得することが多々あり、有意義だった。

・楽しかった。

Ｑ５．講義「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の講義における伝え方」についての感想・意見

・講義ならば何とかなりそうである。サンダーバードの理念を拡げよう。
・ポイントを外さないことが大切だと思った。
・必要以上に離脱した説明をしてはならないことと、サンダーバードの守秘義務の大切さを学んだ。
・基本的な理解をした上で、準備をきちんとし、自分のものとして内容を整理していきたいと思う。
・講義は楽しく受けて欲しいと思う。心に届き、「今日の講義はすごい」「やっぱり動かないと」と思ってもらえるような講義をして行きたい。
・誰が講師をしても同じことが伝えられるためには必要な確認だと思った。
・「先生病」というものがあるとのこと。今のところ病になる心配はなさそうだ。
・自分は何が足りてないのか、理解することができた。弱点は色々とあるが、少しずつ克服して行こうと思う。
・自分の施設で出来ていないことであっても、サンダーバードとして話をすることは、大切なことだと思った。
・しっかりと準備が出来ていないと中身のない話になりそうである。
・今の講師の方を参考に頑張りたい。
・研修企画、準備等お疲れ様でした。
・少しでもサンダーバードの理念を拡げて行けるよう頑張っていく。
・「先生病」10 の兆候と秘策が大変勉強になった。先生病にならずに参加者を巻き込む講義が出来るようになりたい。

Ｑ６．その他の意見

・お疲れ様でした。楽しかったし、勉強になった。ありがとうございました。
・研修にはどんどん参加していきたいと思う。
・色々と楽しい研修だった。人材の育成は大変だと思う。

●２日目

回答率 100%　回答 14／参加者数 14 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 6 人 | 42.9% |
| 2)良かった | 7 人 | 50.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 1 人 | 7.1% |
| 合計 | 14 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ「ファシリテーターの役割とテクニック」について考える　についての感想・意見

・ファシリテーターをすることの難しさを痛感した。
・意見を出しやすくすること、その人の意見を受け入れることが重要だと思った。
・結論を出すのではなく、議論するプロセスが大事であり、考えることが必要だと思った。
・ファシリテーターをしたことがないのに、理解していたつもりになっていた。ファシリテーターの役割やテクニックについて十分考えていなかったことが分かった。
・同じ班の人の意見を聞き、学ぶことができた。
・ファシリテーターは、昨今あちこちで耳にする。イメージしやすかった。
・ファシリテーターとしての役割がよくわかった。
・ファシリテーションについて改めて学ぶことができた。サンダーバードのファシリテーターとして役割を果たすために、ファシリテーターとしての能力や技能を高めることが必要であると感じた。
・自分の中でなんとなく考えていた役割を具体的に理解できた。
・司会とも進行役とも違う参加者を主体とした考え方がよくわかった。
・ファシリテーターをすることがあれば活かせる。
・単なる司会ではなく、意見を引き出し、まとめることが必要だと感じた。
・サンダーバードと災害のことをもっと勉強していかねばなら

ないと再認識した。

・ファシリテーターの役割をよく熟知しておかなければ、独りよがりになったり、ミスリードになってしまったりすると感じた。

・サンダーバードの活動のみならず、普段の研修でも活用ができると思った。

・テクニックは経験を積みながら自分のものにしていく。

・ファシリテーターは「正しい答えを出すことを導くのではなく、意見を聞き、学びを深めることが大切」ということであった。その場に応じた対応ができるのかとても不安になる。つい答えを出そうと導きやすい。ファシリテーターの役割について正しい理解が必要だと強く感じた。

Ｑ３．講義「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のファシリテート」についての感想・意見

・サンダーバードの理念と目的や手法を根底としながら、参加者に回答を引き出すプロセスの重要性を伝えることが大切だと思った。

・サンダーバードの研修内容はどうしても暗い内容になりがちである。教えていただいたテクニックを使うことと、理念を伝えることが大切だと感じた。

・理念(自分ができる、できないではなく)が大切だとわかった。

・サンダーバードの理念をしっかり認識しておく必要があると感じた。

・「サンダーバード」という立場でのファシリテーションは、サンダーバードをよく理解し、それを伝えられる熱意が前提だと思った。

・自分の中でなんとなく考えていた役割を具体的に理解できた。

・司会とも進行役とも違う参加者を主体とした考え方が、よくわかった。

・サンダーバードとしての立場を示す必要があることが理解できた。

・単なる司会ではなく、意見を引き出しまとめることが必要だと感じた。

・場数だと思う。

・サンダーバード、災害のことをもっと勉強していかないといけないと再認識した。

・自施設でできていないことも、ありのままに話をするべきだと思った。
・理念を根底に置いたファシリテートができるように勉強していく。
・重くなりがちな災害というテーマである。課題をどのようにイメージさせ、意見交換から課題を導き出していくか、いかに参加者の学びを深められるように手助けできるのか、分析しながらできるように力をつける必要性があると思った。上手く理解し役割が果たせるのか不安である。

Ｑ４．ワークショップ「ワークショップ１　災害の基礎と実際」のポイントについて考える　についての感想・意見

・災害の種々な情報の取り方や連携の仕方を考えることが重要だと思った。災害時における介護災害や、障がい者の支援災害について検討していくことが重要だと思った。災害時においても、日常の生活の支援が中心であると思った。
・実際に災害を体験していないとイメージをすることが難しい。具体的にイメージする力と、それを伝える力が大切だと思った。
・実際の文章を読むことにより、リアル感が伝わったのと同時に、切実感を味わった。
・災害のイメージを共有することが大切であると感じた。
・いずれのワークショップも、答えを出すのではなく、たくさんの意見を交わしてもらうという視点でリードすることが必要だという役割を改めて認識した。
・実例を使っているので、実感がわきやすい。
・色々な災害に対する意見がでた。
・この手法は受講者にもわかりやすいと思う。
・意外に思ったことや驚きをもとに積み上げていく手法は、様々な意見がでて面白いと思った。
・災害を実際には体験していないので、イメージが強く湧かなかったが、グループ内に体験者がいることで、実際の話が聞けて、イメージが膨らんだ。
・支援と受援の難しさを再確認した。特に、受援は経験がないので、実際に受けた人の話は参考になった。
・ワークショップはあくまでも議論の場であって、正解を出そうとする場でないことを意識して行った。

・実際の事例による気付きが多くあり、勉強になった。他の方も同様に感じているようで共感ができるワークショップだった。
・災害の基本、サンダーバードにおける支援の手法をきちんと理解し、体験のない人達にいかに想像させ平常時の生活でなくなる（自分自身の生活が出来なくなる）時、広域的な支援が必要だということを理解してもらうことが大切である。
・被災体験者は、自分の体験も生かせるが、それにとらわれすぎないような注意も必要だと思った。

Ｑ５．ワークショップ「ワークショップ２　災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」のポイントについて考えるについての感想・意見
・多様な災害において、地域の災害支援を行うためには、施設のみならず様々な事業所，企業，行政，地域との連携が必要であることを確認した。
・被災地の支援体制は広域で検討することが不可欠であることを確認した。
・過去の事例を知り、災害対応の基本姿勢についてもっと学んでいきたい。
・想像力や様々な知識を持っていることの大切さを感じた。
・広域支援の大切さを伝えることが必要と感じた。
・具体的な市町(地域)を限定した方が分かりやすいと思った。
・受援力が課題である。広域支援の意味を正しく捉えてもらうことは重要だと思う。
・受援に関して、ポイントを押さえることが重要である。
・進行役を務めたが、条件を間違えて伝えてしまうなど集中力に欠けていた。メンバーが議論中に修正してくれ助かった。
・幅広い視点で災害をイメージさせる力を養うことが重要である。
・サンダーバードとしての導き方をきちんと理解することが大切だと思う。

Ｑ６．ワークショップ「ワークショップ３　災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」のポイントについて考える　についての感想・意見
・サポート拠点の在り方の根本を考えることの必要性と、サポート拠点の支援体制の在り方と地域連携の必要性について確

認した。

・サポート拠点について様々な分野の連携が必要だと理解した。

・サポート拠点を知らない参加者に伝える時は難しそうだと感じた。

・仮設住宅での生活の経験を伝えていきたいと思う。

・「24 時間 365 日」がほとんどの地域で実現できていない状況を踏まえ、「中程度の理想」の提示も必要ではないかと思う。

・当法人から、東日本大震災のサポート拠点に、何人も派遣しているので、イメージがつきやすかった。

・サポート拠点の役割は、自分がしてもらいたいことを考えるとわかりやすいと思う。

・仮設住宅は 1 度見に行ったことがあったので、イメージは湧いていたが、実際に都市部で地震がおこった場合はどうなるのか、どこがサポートするのか、不安である。

・サポート拠点の役割や活動というものについて考えることが重要である。

・キーワードは地域を巻き込むことだと思う。

・何故サポート拠点の機能・役割が必要なのかを理解することが重要である。事業を展開していく上では、従来の関係性・地域状況を分析し、理解して、それらを踏まえることが大切だと思う。24 時間 365 日拠点としてのスタートさせることが原則であることや、仮設住宅は延長されても永遠のものではないという視点を忘れてはならない。

・地域の重要性は認識したが、果たして大都会でこれができるか疑問である。圧倒的に連携が足りない。都市と地方での意見がどのように違うのか実際に聞いてみたい。

・サポート拠点には原則仮設住宅の入居者の状況は知らされないのは、なぜなのか。行政や地域の理解がないということか。

Q７．ワークショップ「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」のポイントについて考える　についての感想・意見

・災害をイメージし、それぞれ一人一人の職員が判断できるようにする訓練が必要である。

・自分の命を守る大切さを感じた。

・まだまだイメージが上手く浮かばないことがある。もっと読んで理解しようと思う。

・面白かった。
・映像があるととてもイメージしやすいと思う。
・良くイメージできる教材であった。
・大変良い対応をされた例よりも、映像で観たような悔いの残るものの方が教材としては良いと思う
・大事な項目をグシャッとつぶすのは辛い。
・本当に大事なものは何か考えさせられた。
・意外と重いワークショップでした。
・頭を休ませるのに、良いトレーニングだった。
・面白く、真剣に行うことが大切だと思った。
・楽しかった。
・判断をとっさに求められた時、どのように、どのような理由で判断、行動をするのかを学ぶことができた。たくさんの想いを断ち切る辛さは本当に切ないものだと感じた。

Ｑ８．ワークショップ「ワークショップ５　災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」のポイントについて考える　についての感想・意見

・ＢＣＰ作成は全職員で考え、共有することがポイントである。
・現状の確実な認識と、どこまでどうするかという方針決定の難しさを感じた。
・初めてＢＣＰを学び、少しは理解できたと思うが、とても難しいと感じた。
・ポイントを何度も読み返そうと思う。
・難しいようだが、一つの施設等を取り上げるので、考えやすいと感じた。
・ＢＣＰ自体を理解することは難しそうだと感じた。
・ＢＣＰについてはもう少し細かく、また振り返って学び直さなければならないと思った。
・機会があれば、ＢＣＰ策定の研修に参加できたらと思った。
・短時間では理解が難しいと思う。
・企業・官公庁とは相当違う内容になると思われる。今後に期待したい。
・急ぎ足で進めた感じである。参加者に何をポイントとして伝え、何を目標とするかをもう少し明確に教えてもらいたかった。
・消化不良である。

・まだまだ勉強不足であると感じた。
・ＢＣＰ自体を自分でも理解していないので、不安である。
・良くわからなかった。時間がなさ過ぎた。
・勉強していかないといけないと思った。
・柔軟に考えることが大切だと感じた。
・ＢＣＰは難しい。考えていると手順書になったり、マニュアルに傾いてしまうことがよくわかった。
・イメージをまとめ、助けるのがとても難しかった。
・ＢＣＰの考え方については理解できた。地域のなかでどのように行い、考えていくかが大切であると思う。全体を見据えた方向性を確立するためにも重要だと思った。

Ｑ９．日程、時間配分、会場等についての意見
・かなりきついように感じたが、とてもためになり、楽しく研修を受けることができた。
・バリアフリーになっている会場なので、良かった。ただ近くのホテルを探すのが困難だった。
・つまっていて、頭の切り替えに疲れた。２日目はへとへとであった。
・１日目のスタート時間並びに終了時間は良いとは思うが、遠方から来る方もいるという東京での集合研修の場合は、２日目の終了時間は 17 時であると尚よかったのではないかと思った。
・ワークショップをもう少し１日目にもってきても良かった。
・ワークショップの部分は全体的に消化不良である。
・早めに案内があれば、日程や会場については、問題はない。
・特に問題はないが、できれば土・日にして欲しい。
・時間配分がキツキツだった。
・難しい問題である。
・２日目のワークショップは時間的に厳しかった。
・時間配分、会場はとても良かった。
・ひとつひとつの時間があまりにも短かすぎ、嵐のようだった。

Ｑ10．その他の意見
・色々な人との交流もあり良かった。
・ありがとうございました。（4 件）
・準備から含めて研修のセッティング、お疲れ様でした。（2 件）

・意識・見識の高いメンバーで、ハイレベルの研修ができた。
・高齢者と施設に偏っているように思う。家にいる障害者の人、災害によって障害になった人はどうすれば良いかについても盛り込んでほしい。
・プラットフォームに建築関係も入れた方が良いと思った。
・他の人の意見が聞けて、非常に参考になった。
・ワークショップは大変だが、参加型の研修としては良いと思う。
・講義形式のものは、パネルディスカッション形式を取り入れるのも一案と思う。
・ワークショップの役割は、いかに災害を発想し場面を展開させられるかの訓練である。とっさの判断が求められる被災直後の対応、状況が変化していく中での対応、復興や再建に至るまで課題はたくさんある。サンダーバードの役割としてはとても重要だと思う。災害国日本の中でのサンダーバードの指導者として、関わる人一人一人の思いを導けるよう、自分自身も磨いていきたい。
・サンダーバードの取り組み、基本的な理解、実践の方法等、全体を通して理解しやすかった。被災を体験した人もしていない人も同じ視点で活動ができるように、またその導き方をしっかり指導できるように自分自身も再度確認して実践に繋げたい。

講師育成プログラム①集合研修

講師育成プログラム①集合研修

講師育成プログラム①集合研修

講師育成プログラム①集合研修

講師育成プログラム①集合研修

講師育成プログラム①集合研修

### （３）講師育成プログラム ver.1②実習の検証

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習の検証のために、モデル研修を実施した。

連携プラットフォームの検討が始まっているとされていた 16 都道府県に対し、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施を優先的に呼びかけた。しかし、16 都道府県の進捗状況はさまざまで、検討が始まったばかりで、研修を行える段階にないという都道府県も多かった。そこで、他の都道府県にも実施を呼びかけ、モデル研修（実習）実施都道府県を以下に決定した。

山形県（一般社団法人山形県老人福祉施設協議会）
宮城県（社会福祉法人宮城県社会福祉協議会）
新潟県（社会福祉法人新潟県社会福祉協議会）
福島県（福島県）
三重県（社会福祉法人三重県社会福祉協議会）
京都府（社会福祉法人京都府社会福祉協議会）
広島県
熊本県（熊本県）

※カッコ内は、連携プラットフォームの調整担当

広島県は、現段階では、連携プラットフォームの検討は始まっていないが、連携プラットフォームの調整となりうる広島県、広島市、社会福祉協議会等に声をかけ、実質的な調整は、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード広島支部が行った。

実施結果は以下の通り。

**ａ．第１回　山形県**
**「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習**

日時　　：平成 26 年 12 月１日，２日

場所　　：山形県自治会館（山形県山形市）

実施体制：講師　　２名
補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：山形県介護福祉士会
山形県介護支援専門員協会
山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会
日本認知症グループホーム協議会山形支部
山形県社会福祉法人経営者協議会
山形市特定施設連絡協議会
山形市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
山形県地域包括・在宅介護支援センター
山形県社会福祉協議会
山形県防災士会
ＡＬＳＯＫ山形株式会社
株式会社福祉工房
農業生産法人アグリパークＺＡＯ

山形県身体障害者施設協議会
山形県老人保健施設協会
山形県知的障害者福祉協会
山形県保育協議会
山形県軽費老人ホーム連絡協議会
山形県児童養護施設協議会
山形県老人福祉施設協議会
社会福祉法人等　福祉事業所
各ブロック本部
　庄内地区特別養護老人ホーム防災ネットワーク
　最北地区特別養護老人ホーム施設長連絡会
　置賜地区老人福祉施設長連絡協議会
村山地区特別養護老人ホーム災害時施設相互応援協定
山形県老人福祉施設協議会　特別養護老人ホーム会員

受講者　：15 名
高齢者福祉事業所
市議会　等

その他参加者
山形県老人福祉施設協議会
山形県危機管理課

プログラム

**【研修 10 日前〆切】**
事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:30～9:35<br>(5 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:35～9:55<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安心局 |
| 9:55～10:55<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |

| | |
|---|---|
| 5 分 | 休憩 |
| 11:00～12:30<br>(90 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:15～14:45<br>(90 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 14:50～16:50<br>(120 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 16:50～17:00<br>(10 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

**【2 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:05<br>(5 分) | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:05～11:25<br>（140 分） | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 11:30～12:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 12:45～15:35<br>(170 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 15:40～16:10<br>(30 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:10～16:30<br>(20 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 93.3%　回答 14／参加者数 15 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 7 人 | 50.0% |
| 2)良かった | 7 人 | 50.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 0 人 | 0% |
| 合計 | 14 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見（抜粋）

・基本的な内容だったので、復習として捉えた。少し物足りなさも感じた。
・同じような規模の災害でも状況や環境等で変わることがわかった。
・テキストの内容が分かりやすくて良かった。
・質問の時間を取って欲しかった。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・一人で考えているのと違い、他の人の考えにも考えさせられた。視点の違いに感心させられた。
・実体験を元にしたワークショップで、現実味があり想像しやすい内容であった。自分の施設だったら…と考えることが出来る内容であった。
・イメージを膨らませることが出来た。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・事例がとてもリアルに感じた。内容は多くないが、当時のとまどい等が感じられた。
・具体的な事例の中で、どのような仕組みを作るべきなのか、地域包括ケアの様な考え方もあることがわかり良かった。
・多くのパターンが有り難しいと思った。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・支援する側、受援する側で考えがこんなに大きく異なること

を、感じることができて良かった。社会資源の活用が重要であることを学んだ。
・災害時における広域支援の必要性を感じられた。
・支援方法や団体等、書き出すことで、全体での流れが見えることがわかった。

●２日目

回答率 100%　回答 15／参加者数 15 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 8 人 | 53.3% |
| 2)良かった | 7 人 | 46.7% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 0 人 | 0% |
| 合計 | 15 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見
・全く分からないことだらけだったが、少しだけリアルにイメージできたと思う。
・サポート拠点の運営や内容はそれぞれの地域によって異なることを学んだ。
・サポート拠点に求められる役割・機能について理解を深めることができた。通常の地域の課題の延長線上にあり、何も特別なことではない、ということもワークショップを通して気づけた。
・サポート拠点を積極的に受け入れるような法人になりたい。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見
・息抜きには丁度良かった。自分自身を守る事が重要だと分かった。
・ゲームを通じ、優先順位をつけなければならない時もあるということを知ることができた。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見
・難しかったが、自分の施設でもＢＣＰを作成していかなけれ

ばいけないと思う。

・ＢＣＰについて以前少し話を聞かされたことがあったが、その時は全く理解できず終わってしまった。今回は、演習等を通して行うことができ理解できたような気がする。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

・2 時間以上の研修項目は少しきつく感じました。

・丁度良い時間配分だった。内容も大変勉強になった。

・日程や進行・時間は丁度良かった。

・日程については少し短縮した方が良い。

・10 月までに行っていただければありがたい。

・2 日間はきつかったが、3 日でゆったり研修するより良いと思う。もっと参加があると良かった。

Ｑ６．その他の意見

・基礎編と聞いていたが、正直、難しかった。

・なかなかＢＣＰについてイメージを作ることが難しいのでＢＣＰを中心に研修があると助かる。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第１回山形県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　山形県

講師育成プログラム①実習　山形県

講師育成プログラム①実習　山形県

講師育成プログラム①実習　山形県

講師育成プログラム①実習　山形県

講師育成プログラム①実習　山形県

ｂ．第２回　熊本県

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 26 年 12 月 10 日，11 日

場所　　：熊本県庁（熊本県熊本市）

実施体制：講師　　２名
　　補助講師（実習者）　２名

呼掛け先：熊本ＤＣＡＴの協定締結団体
　　熊本県老人福祉施設協議会
　　一般社団法人熊本県老人保健施設協会

熊本県療養病床施設連絡協議会
熊本県地域密着型サービス連絡会
熊本県身体障害児者施設協議会
熊本県知的障がい者施設協会
公益社団法人熊本県精神科協会

受講者　：42 名
高齢者福祉事業所
障がい者福祉事業所
医療施設　等

その他参加者
熊本県老人福祉施設協議会
熊本県老人保健施設協会
熊本県健康福祉部健康福祉政策課

プログラム

**【研修 10 日前〆切】**
事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:30～9:35<br>(5 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:35～9:55<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>熊本県健康福祉部健康福祉政策課 |
| 9:55～10:55<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 11:00～12:30<br>(90 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:15～14:45<br>(90 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 5 分 | 休憩 |

| | |
|---|---|
| 14:50～16:50<br>(120 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 16:50～17:00<br>(10 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

**【2 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:05<br>(5 分) | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:05～11:25<br>(140 分) | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～避難生活の支え方を考える～」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 11:30～12:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 45 分 | 昼食・休憩 |
| 12:45～15:35<br>(170 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 5 分 | 休憩 |
| 15:40～16:10<br>(30 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:10～16:30<br>(20 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）

1) たいへん良かった　　2) 良かった　　3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～避難生活の支え方を考える～」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 39 参加者数 39 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 14 人 | 35.9% |
| 2)良かった | 24 人 | 61.5% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 1 人 | 2.6% |
| 合計 | 39 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・原点を再度学び直せた。
・改めて、日本は災害が身近にあると感じた。
・東日本大震災の際、派遣可能な人数と実際に派遣された人数と差があったことに驚いた。
・映像を通して理解をすることができた。
・新聞やテレビ等では何気なく見ているが、こういう場での研修になれば、考えさせられることが多くある。
・実体験に基づく話もあり、わかりやすかった。
・映像をもっとしっかりと見てイメージを作りたかった。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・「大変」さは、文字や映像ではきれいにまとめられていて伝わりにくい。提示された文章は、その時の「とまどい」や「きつさ」が含まれていて、とても分かりやすく、今後考えていかなくてはならない事柄がイメージし易かった。
・違う職種で様々な物の見方で意見を出せて良かった。
・講義の内容を自分たちで考え、認識できたと思う。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・自身も要援護者になりうることが有ると知った。
・プレ・トリアージなど初めて知ったこともあり勉強になった。
・ＤＣＡＴは地域で住む人の生活を支えること繋がると感じた。
・「サポートセンター」がとても気になった。必要性もあると思ったし、熊本県にもあれば良いと思った。
・地域包括ケアも交えた災害対策が勉強になった。
・「施設、事業所は社会機能維持者となる」という言葉により、今までの考え方が変わった。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・支援側と受援側の両方を考える機会があり、とても良かった。
・これまでは支援する側だったので、自分で支援してもらう立場で考えることはなかなか難しかった。
・より広域にかつフレキシブルに考察する必要性を痛感した。
・熊本ではＤＣＡＴが組織化されたものの、仕組みや体制作りが不十分である。自施設における支援と受援のあり方を考え

直すきっかけになった。

Ｑ６．その他の意見

・他職種の方の意見が大変興味深かった。もっと繋がりを深くしていかなくてはと思った。

・ＤＣＡＴの活動についてまだ広まり切れていないところがある。自分が勤務する職場に伝えることが必要だと強く感じた。「研修に行った人が、派遣チームになる」わけではなく、事業所が登録していることを知らないまま、今日参加した方もいるらしい。これからの広まりに期待する。

●２日目

回答率 100%　回答 37／参加者数 37 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 7 人 | 19.0% |
| 2)良かった | 15 人 | 40.5% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 15 人 | 40.5% |
| 合計 | 37 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～避難生活の支え方を考える～」についての感想・意見

・人の生活はひとつではなく、多様な暮らしがあるということに改めて気づいた。多様な生活をどう支えるのか考えされられた。

・避難が長期化してくるとともに必要な支援も変わってくる。そのニーズに応じるために、多方面からの支援を必要とすることが分かった。

・同グループ内、他グループの発表を聞き、当たり前のことが斬新に感じた。自分自身がイメージすることが大切であり又それを共有することが必要だと思う。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・ＶＴＲを通し、マニュアル通りにはいかないこと、次々と生命に直結する判断を強いられること、過酷な状況におかれることを疑似体験できた。

・トレーニングを通して大切な物が見えてきた。被災者の方の気持ちを少し理解することができた。
・日常的に行えていたことが出来なくなる、周囲の環境が変わってしまう等、具体的に自分に置き換えて考えることができた。ショックも受けた。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見
・ＢＣＰについて考えたのは有意義だった。事業所で統一した考えや、意識を持つことで、有事の際の混乱を最小限に防ぐことが出来ると思った。
・ＢＣＰを策定するにあたり、一つの事にこだわらず様々な視点から物事を見る必要性を感じた。
・防災マニュアルでなくＢＣＰを作ることの重要性は少しわかった様な気がする。
・マニュアルよりイメージということが大事だと思った。有事は、マニュアル通りにいかないことがほとんどである。イメージの訓練が必要だと思った。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見
・できたら１日がありがたい。２日の時は、週を分けてもらう（宿題があってもいいから）と良い。でも懇親会は是非あった方がありがたい。
・良かった。特に問題はなかった。
・日程は内容に比べると短いと思うが、業務（仕事）の都合もあるので２日間位で良いと思う。
・休憩の時間が欲しかった。
・より多くの方々と意見交換をするために１日目と２日目のグループを替えても良かったのではと思う。
・有意義だった。日程がもう一日あればもっと詳しく出来たと思う。

Ｑ６．その他の意見
・ワークショップが多く色々な職種の方の意見が聞けて良かった。
・今日の研修で基礎的な部分を学ぶことができたが、熊本県のＤＣＡＴとしての実際の活動（待機～参集～活動）についての実地訓練についてもっと学びたいと思った。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第２回熊本県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　熊本県

講師育成プログラム①実習　熊本県

講師育成プログラム①実習　熊本県

講師育成プログラム①実習　熊本県

講師育成プログラム①実習　熊本県

講師育成プログラム①実習　熊本県

ｃ．第３回　三重県

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 1 月 13 日，14 日

場所　　：青山里会（三重県四日市市）

実施体制：講師　　２名
補助講師（実習者）　１名
現地調整補助　サンダーバード三重支部

呼掛け先：三重県社会福祉法人経営者協議会
三重県老人福祉施設協会
三重県身体障害者福祉施設協議会
三重県精神障がい者福祉事業所連絡会
三重県知的障害者福祉協会
三重県老人保健施設協会
三重県地域密着型サービス協議会
三重県社会福祉士会
三重県精神保健福祉士協会
三重県介護福祉士会
三重県理学療法士会
三重県介護支援専門員協会
三重県社会福祉協議会

参加者　：13 名

高齢者福祉事業所

障がい者福祉事業所

医療施設

社会福祉協議会　等

プログラム

**【研修 10 日前〆切】**

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>(10 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:10～9:30<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>三重県防災対策部防災企画・地域支援課 |
| 9:30～10:30<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 10:40～12:20<br>(100 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:05～15:05<br>(120 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 15:15～17:35<br>(140 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 17:35～17:50<br>(15 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

【2 日目】

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>（10 分） | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>（140 分） | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |
| 12:30～13:00<br>（30 分） | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～15:50<br>（170 分） | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 16:00～16:30<br>（30 分） | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:30～17:00<br>（30 分） | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　　2)良かった　　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）

1)たいへん良かった　　2)良かった　　3)やや期待はずれだった

4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 13／参加者数 13 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 4 人 | 30.8% |
| 2)良かった | 6 人 | 46.2% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 3 人 | 23.0% |
| 合計 | 13 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・実際の写真、映像があって良かった。

・事例を交えながらの講義であったため、わかりやすかった。

・災害だけでなく、人的要因となる災害も多い事がわかった。自然災害であっても人的要因によるものであっても、事前に

訓練、予防が重要であると感じた。災害を大きくしない為にも広域連携を交えた訓練を考えなければならないと思った。
・災害に対するイメージが少しできた様に思う。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見
・映像では分かりにくい細かな動きや、その時の状況がリアルに理解することができた。
・他団体における災害対策の実態を聞くことが出来た。自団体における対策の一助としたい。
・意見はそれなりに出てイメージはできたものの、方向、ポイント、目的がぼんやりしていた気がする。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見
・継続的に支援する体制づくりが大切であり、そういったことからも地域包括ケアシステムは災害時等にも機能するため必要であると感じた。
・災害時における福祉施設の位置付けや役割を理解することが少しできた。
・サポート拠点のことを知ることができて良かった。
・自施設が被災した状況をイメージできた。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見
・ボランティアの受け入れに慣れておくことが大切だと思った。
・支援をする側、受ける側の役割が理解できた。災害支援の為のネットワークの大切さを再認識ができた。
・平時のつながり、取組み、大切なのはわかっているが、そこからどうするかが未消化に終わってしまった。
・プラットフォームの必要性を感じた。

Ｑ６．その他の意見
・グループディスカッションは多職種の方と意見交換できて良かった。講義も非常に分かりやすく、現場に活かしていきたいと思う。
・講義→ワークの流れはリズムが良かったが、講義が長く感じ、聞き疲れた。

●２日目

回答率 100%　回答 12／参加者数 12 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 2 人 | 16.7% |
| 2)良かった | 8 人 | 66.6% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 2 人 | 16.7% |
| 合計 | 12 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

・福祉・医療に関する視点だけではなく、生活者の視点を大切にし、住民が仮設住宅で生活するうえで、ストレスを感じることなく過ごせるような配慮が必要であると感じた。

・仮設住宅サポート拠点を今後運営するにあたってのイメージをすることができた。発災後に考えては遅いので、今日のワークショップはとても有意義だった。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・己の命を守る大切さについて理解することができた。

・災害時には瞬時の判断を求められる。大切なものを考え、また自分の命が最も大切であるということも考える良い機会になった。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

・もっと早い段階でワークをしてはどうか。大事な内容なので二日目のＰＭにやるには大変である。

・ＢＣＰは現状の業務の見直しや改善点についても検討することにつながるということが理解できた。

・ＢＣＰの策定ももちろん重要だが、法人全体を巻き込む（意識の高まりも含めて）のが苦労しそうな感じがした。

・ＢＣＰの基礎的な考え方を学べてよかった。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

・休憩がもっとあると良かった。
・イメージをしながら（考えながら）参加する研修だったので、最後まで集中して学習できた。日程・時間配分・会場についても申し分ないと思う。
・後半だけは、少しトイレ休憩をもらいたかった。座学→ワークショップという流れがとても自分の身になった。

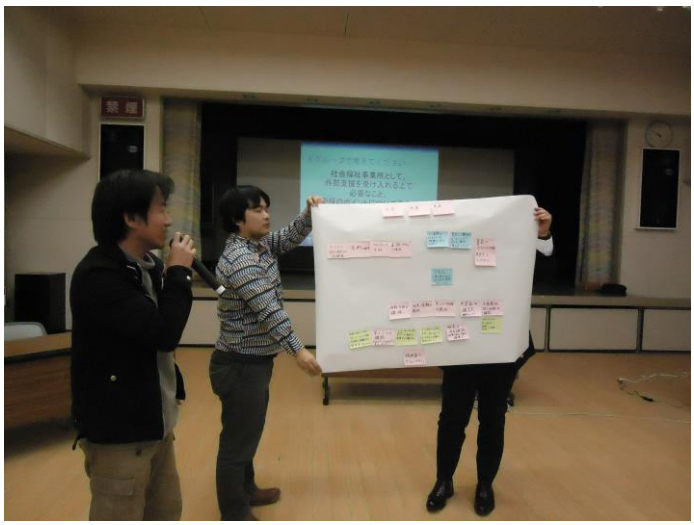
調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第３回三重県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　三重県

講師育成プログラム①実習　三重県

講師育成プログラム①実習　三重県



講師育成プログラム①実習　三重県

講師育成プログラム①実習　三重県

講師育成プログラム①実習　三重県

ｄ．第４回　京都府

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 2 月 9 日，10 日

場所　　：京都テルサ（京都府京都市）

実施体制：講師　　２名
　　補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：京都府老人福祉施設協議会
　　京都市老人福祉施設協議会
　　京都府介護老人保健施設協会
　　京都知的障害者福祉施設協議会
　　京都府障害厚生施設協議会
　　京都府介護支援専門員会
　　京都社会福祉士会

参加者　：29 名
　　高齢者福祉事業所
　　障がい者福祉事業所
　　医療施設
　　社会福祉協議会
　　社会福祉士会
　　京都府健康福祉部介護・地域福祉課
　　京都市　等

プログラム

**【研修 10 日前〆切】**

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>（10 分） | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:10～9:30<br>（20 分） | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>京都府健康福祉部介護・地域福祉課 |
| 9:30～10:30<br>（60 分） | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 10:40～12:20<br>（100 分） | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:05～15:05<br>（120 分） | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 15:15～17:35<br>（140 分） | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 17:35～17:50<br>（15 分） | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

**【2 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>（10 分） | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>（140 分） | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |

| | |
|---|---|
| 12:30～13:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～15:50<br>(170 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 16:00～16:30<br>(30 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:30～17:00<br>(30 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続

計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 29／参加者数 29 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 14 人 | 48.3% |
| 2)良かった | 9 人 | 31.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 2 人 | 6.9% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 4 人 | 13.8% |
| 合計 | 29 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・地震、台風、火山、国内ではどこでも被災地になりうる。日頃の防災意識が大切である。
・災害について基礎が学べた（知らないことばかり）。
・現在も援助を必要とする方々が多数存在することも認識できた。
・災害を分かり易く説明していただき良かった。自分の言葉で「災害とは？」と説明できなくてはいけないと思う。
・もう少し短く設定されてもよいと思った。
・要配慮者支援について学ぶ前に災害に対して具体的にイメージができて良かった。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・自分の知らない考え方や意見があって視野が広がった。
・事例を読み、場面を想像することは意味のあることだと思った。

・事例を通してのため分かり易く、実際の場面を想定して考えられて良かった。
・誰もが判断できる職場づくりが大切である。（難しいが）
・考える範囲が多いので、もう少し時間をかけて細かく考えたかった。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・支援する側、される側にもそれぞれの事情がある。互いに理解することで支援が実のあるものとなると思えた。
・時間が長く、辛かった。
・昼食後眠くて印象が薄い。
・被災施設の事例から対応のポイントの説明があり、分かり易かった。
・体験談はとても参考になった。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・ワークショップで、実際に頭で考え、言葉にだし、書き出すという作業をすることで、講義の内容をより具体的なものにできた。グループで話をする、意見を出し合うことも重要であることを認識できた。
・支援側と受援側の望むことの違いの大きさを感じた。両側面の視点が必要だと感じた。

Ｑ６．その他の意見

・まだまだ勉強しなければと感じた。
・全員の自己紹介があった方が良い。

●２日目

回答率 100%　回答 28／参加者数 28 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 10 人 | 35.7% |
| 2)良かった | 11 人 | 39.3% |
| 3)やや期待はずれだった | 1 人 | 3.6% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 6 人 | 21.4% |
| 合計 | 28 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」についての感想・意見

・サポート拠点のサポート支援機能を具体化するためには、多くの団体や企業、事業所の協力が必要であることが分かった。普段から連携を図っていないと被害を受けてから立ち上げるのはかなり難しいと思った。
・状況に応じたサポート拠点が望まれる。
・地域性があり正解がないことが分かった。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・被災された方が大変ショッキングな体験をされているということを理解し、支援にあたる必要があると思った。
・災害の種類や規模によっては、「一番大事」としたものが、一番最初に失われる可能性がある。そうなってしまった方を支援していく場合がある。画一的には災害対応はできない。
・災害が起ると、こんなにもたやすく色々なものが目の前から無くなってしまうんだということを考えさせられた。他人事ではなく、いつどこでも起こり得ることを心にとめておきたい。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

・３か月とかの想定で対策を立ててしまう危険性が理解できた。
・ＢＣＰは難しいが、事前に考えておかないといけないこと、職員が共有しておかないといけないことなので、これをきっかけに持ち帰り考えないといけないと思った。

・やや難しいグループワークだったが、考え方の幅や視野が広がった。
・柔軟に対応できることが必要だと思った。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見
・ワークショップの内容が多く、ただ講義を聞いているよりは想像力を働かせて学ぶことができた。
・もう少し長い日程でより細かく研修を受けられると良かった。
・全体の日程や時間配分はとても良かった。
・研修時間はグループワークが多かったこともあり、それほど長くは感じられなかった。
・１つの時間が長い配分であった。

Ｑ６．その他の意見
・今回感じたことは、具体的にイメージするという練習に意味があるということである。
・参加者をもっと増やしてほしい。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第４回京都府　アンケート結果」

**講師育成プログラム①実習　京都府**

講師育成プログラム①実習　京都府

講師育成プログラム①実習　京都府

講師育成プログラム①実習　京都府

講師育成プログラム①実習　京都府

講師育成プログラム①実習　京都府

ｅ．第５回　新潟県

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 2 月 19 日，20 日

場所　　：高齢者総合ケアセンターこぶし園ケアハウスしなの
（新潟県長岡市）

実施体制：講師　　１名
補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会　関係団体　等
老人福祉施設協議会
身体障害者福祉協議会

知的障害者福祉協会
精神障害者社会福祉施設協議会
社会就労センター連絡協議会
社会福祉法人経営者協議会
社会福祉士会
介護福祉士会
介護支援専門員協会
ホームヘルパー協議会

参加者　：6 名
社会福祉協議会
介護福祉士会
高齢者福祉事業所
大学　　等

プログラム

**【研修 10 日前～切】**

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>(10 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:10～9:30<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>新潟県福祉保健部福祉保健課 |
| 9:30～10:30<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 10:40～12:20<br>(100 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:05～15:05<br>(120 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 15:15～17:35 | **【ワークショップ２】** |

| | |
|---|---|
| (140 分) | 「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 17:35～17:50<br>(15 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

【2 日目】

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>(140 分) | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |
| 12:30～13:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～15:50<br>(170 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 15:50～16:00<br>(10 分) | 休憩 |
| 16:00～16:30<br>(30 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:30～17:00<br>(30 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）

1) たいへん良かった　　2) 良かった　　3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 5／参加者数 5 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 4 人 | 80.0% |
| 2)良かった | 0 人 | 0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 1 人 | 20.0% |
| 合計 | 5 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・東日本大震災における実際の事例等をたくさん話していただいたことで、災害をより具体的にイメージできた。

・外国人や旅行者への配慮は気づかなかった。

・中越地震、中越沖地震の体験もあったので身近なものとして感じてはいたが、起こる割合を知り、改めていつどこで何が起こってもおかしくないと感じた。その為にも平常時から準備が大切であることを実感した。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・グループでのプ話し合いにより、他の人の意見や考えに触れとても参考になった。

・事例をもとにして、マニュアルやその場その場での対応の必要性について学んだ。福祉避難所を確保する重要性や、サービスを維持するために支援を受け入れることの意義が分かって良かった。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・福祉避難所については、大変有意義なものであり、その必要性と普段からの行政や関係者との連携の必要性をアピールしてほしい。

・避難所の課題や地域で支える仕組みづくりの重要性を理解できた。

・ＢＣＰの３つのポイント、プレトリアージについて詳しく知ることができた。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・支援する側、支援を受ける側の体制や考え方を整理できたと同時にネットワークの必要性と関わりを持つ団体が整理できた。

・支援と受援、２つの視点から考察できたことで広域性を意識した支援のあり方を理解できた。新潟県においても具体化していく必要性を実感した。

・広域支援が必要であることは個々には理解しているが、ネットワーク化していくことの困難さもワークショップを通して痛感した。

●２日目

回答率 100%　回答 5／参加者数 5 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 5 人 | 100% |
| 2)良かった | 0 人 | 0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 0 人 | 0% |
| 合計 | 5 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

・サポート拠点の具体的なイメージを持つことができた。

・仮設サポート拠点の役割や求められている機能が整理できた。仮設住宅のサポート拠点は賛否両論でいろいろあると思うが、住民にとって必要な機能、存在であると思うので、今後も推進していただきたい。要援護者だけでなく、地域住民へ視点を向け、自立への支援を行うことについて考えることができて良かった。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・瞬時判断をせまられる災害時のトレーニングとしては、身近な物や人に置き換えることでよりリアリティーが感じられた。

・失うことの怖さを実感できた。想像力をたくましくしていくことで、被災者の暮らし、心に寄りそった支援を考えていかなければいけないと思った。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

・現在、施設勤務ではないため、具体的なイメージがつかみにくいところはあったが、ＢＣＰについては、常に考えていくべき項目（必須事項）であると感じた。ＢＣＰの考え方はマニュアルや手順との混同があるため、整理するのがやはり難しいと感じた。

・ＢＣＰの考え方、策定プロセスについて知ることができた。ワークショップで取り組んだ内容を再度行っていくことで、

具現化、定着を図っていきたい。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

・ワークショップの時間が多い分、考えることが多く、時間もあっという間に感じられて、とても有意義な研修だった。

・日程、時間配分等、大変良好であり、この研修をもっと新潟県内でも広めていってほしいと感じた。

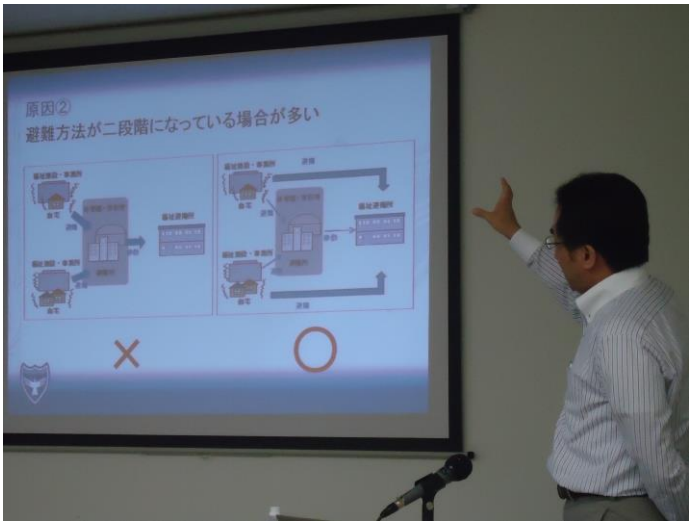
Ｑ６．その他の意見

・とても内容のある研修だったので、基礎編以外の研修があれば受講したい。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第５回新潟県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　新潟県




講師育成プログラム①実習　新潟県

講師育成プログラム①実習　新潟県

講師育成プログラム①実習　新潟県

講師育成プログラム①実習　新潟県

講師育成プログラム①実習　新潟県

ｆ．第６回　宮城県

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 2 月 26 日，27 日

場所　　：仙台市民会館（宮城県仙台市）

実施体制：講師　　３名

補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：種別協議会

老人福祉施設協議会

社会福祉法人経営者協議会

宮城県内社会福祉法人

宮城県　等

参加者　：19 名

社会福祉協議会

高齢者福祉事業所

障がい者福祉事業所

児童福祉事業所

介護福祉士会

認知症グループホーム協議会

宮城県保健福祉部社会福祉課　等

プログラム

**【研修 10 日前～切】**

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:15～9:25<br>(10 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:25～9:45<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>宮城県保健福祉部社会福祉課 |
| 9:45～10:45<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 10:55～12:35<br>(100 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:20～15:20<br>(120 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 15:30～17:50<br>(140 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |

| | |
|---|---|
| 17:50～18:00<br>（10 分） | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

【2 日目】

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>（10 分） | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>（140 分） | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |
| 12:30～13:00<br>（30 分） | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～15:50<br>（170 分） | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 16:00～16:30<br>（30 分） | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:30～17:00<br>（30 分） | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）
1) たいへん良かった　　2) 良かった　　3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 19／参加者数 19 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 4 人 | 21.0% |
| 2)良かった | 12 人 | 63.2% |
| 3)やや期待はずれだった | 1 人 | 5.3% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 2 人 | 10.5% |
| 合計 | 19 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・災害の発生率の高さに改めて驚いた。危機意識を持つことが出来た。

・要援護者の定義や広域連携支援等あまり知らなかったものに触れることができ、大変勉強になった。

・避難所の状況は、スライドに出た情報の他に「粉塵」「飢え」「感染の恐れ」「不快な環境」等もあっても良いと思った。また仮設の状況に関しても状況に不足を感じた。

・津波のＤＶＤは、ＰＴＳＤの方もいるかもしれないので、事前に「気分が悪くなる方は見なくても…」といった配慮が必要だと思った。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・同じ文章を読んでも人によって見方が異なり、自分だけでは考え付かないようなことが出てきた。多角的にものを見ることが大切だと感じたし、意見を交換し合う場を作ることが大事だと思った。

・皆の実体験をもとに自身に置き換えて考えることが出来たので良かった。グループワークについて、ＫＪ法を用いるのかワールドカフェのようにするのか、確立して欲しかった。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・未だによくわかっていない福祉避難所のことが、よく分かって良かった。サポート拠点については初めて知ったので有意義だった。

・食後、午後一の講義なので、講師からの一方通行だけではなく、受講生とのＱ＆Ａがあっても良かった。

・福祉事業所のＢＣＰ作成状況、その有効性のデータについて詳しく聞く機会があればうれしい。

・福祉避難所については、もう少し検討が必要である。ほとんどの障がい者、高齢者が自宅に残ったので、自宅にどうやって支援物資を届けて孤立を防ぐことが出来るかを考える方が良いとうい考えが、出てきている。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・支援者、受援者の対応を掘り下げて確認することができた。
・特に「受援力」についての検討が、今まであまり考えてこなかった視点であり難しかった。
・プラットフォームについては理解が薄く、必要とする団体名や主となるコーディネートが思うように決められなかった。
・話し合い（ワーク）の時間が少し長く感じた。

Ｑ６．その他の意見

・研修時間が長いと感じた。集中が続かない時間帯があった。

●２日目

回答率 100%　回答 16／参加者数 16 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 3 人 | 18.8% |
| 2)良かった | 8 人 | 50.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 1 人 | 6.2% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 4 人 | 25.0% |
| 合計 | 16 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

・地域性を踏まえた上で、誰もが利用しやすい存在であるべきである。
・サポート拠点は、災害後早い段階での立ち上げが必要である。
・自分達の所でも実際ボランティアとして関わっているので、自由な発想ができなかった。
・サポート拠点が普段の（仮設が終了した後の）地域を支えていく拠点になるとのことは大変参考になり、我々も関わっていかなければと思った。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・瞬時に判断することの辛さがわかった。

・必要な物を考えた際、家族と思ったが、自分の命が無ければ家族もないと思った。

・事前のイメージは大変重要と考えさせられた。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

・ＢＣＰ推進に大変役に立った。

・今回の研修だけでＢＣＰを理解し、活用するのは難しいと思ったが、ＢＣＰの内容が分かり、今後活用できればと思った。

・ＢＣＰとは何を目指すものか、ざっくり理解できた。深く学びたい。

・ＢＣＰの文書化を勉強したかった。（他事務所の策定例等）。ＢＣＭ（管理・定着等）の重要性を前面に出してほしかった。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

・2 日間は長いと思っていたが、あっという間に終了した。

・ＢＣＰについてももう少し時間を（説明）があるとうれしい。

・ワークショップの手法は複数あっても良いと思った。

・2 日の午後はオプションで現地視察を行ってはどうか。（参考として）

・内容に対し妥当だと思う。

Ｑ６．その他の意見

・風化させないことが大切だと痛感している。

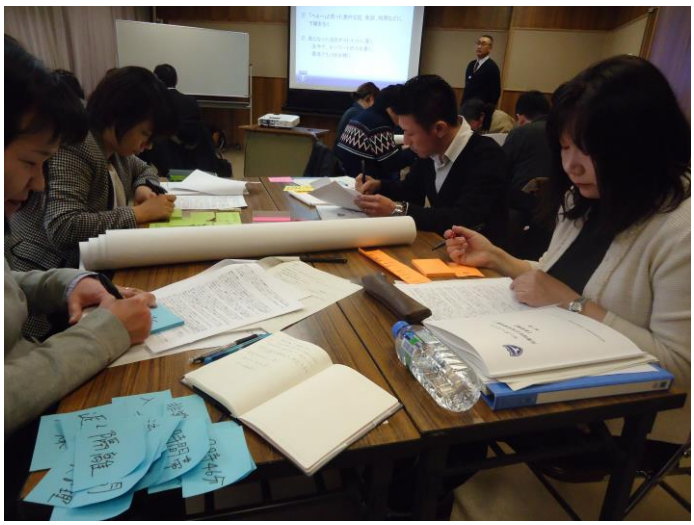
・児童分野中心の研修があると更に勉強になる。

・災害、有事に際して、我々福祉業界が備えておかなければならないことが大変多く、学ばなければならないことがまだまだあることを実感した。

調査結果（全集計結果）

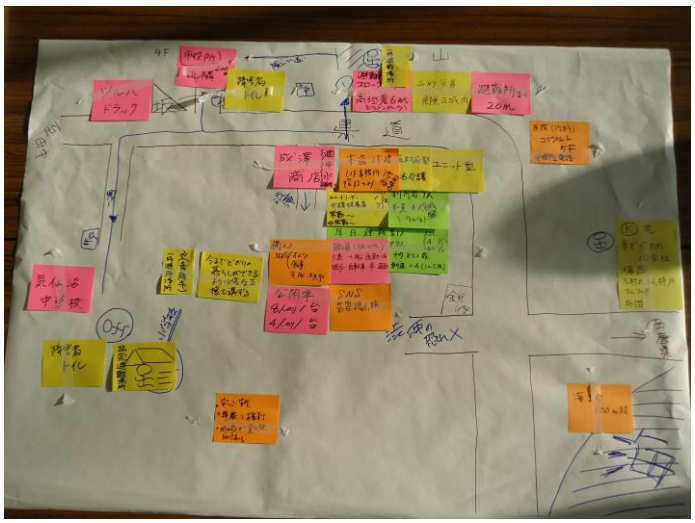
参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第６回宮城県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　宮城県



講師育成プログラム①実習　宮城県

講師育成プログラム①実習　宮城県



講師育成プログラム①実習　宮城県

講師育成プログラム①実習　宮城県

講師育成プログラム①実習　宮城県

ｇ．第７回　広島県

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 3 月 9 日，10 日

場所　　：ＲＣＣ文化センター（広島県広島市）

実施体制：講師　　２名
　　補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：社会福祉協議会
　　老人福祉施設連盟
　　高齢者福祉事業所
　　障がい者福祉事業所
　　銀行
　　広島県
　　広島市　　等

参加者　：22 名
　　社会福祉協議会
　　高齢者福祉事業所
　　障がい者福祉事業所
　　銀行　　等

プログラム

【研修 10 日前〆切】

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

【1 日目】

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:30～9:35<br>(5 分) | 【オリエンテーション】<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:35～9:55<br>(20 分) | 【情報提供】<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>広島県危機管理課 |
| 9:55～10:55<br>(60 分) | 【講義１】<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |

| | |
|---|---|
| 11:00～12:30<br>(90 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:15～14:45<br>(90 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 14:50～16:50<br>(120 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 16:50～17:00<br>(10 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

**【2 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>(140 分) | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |
| 12:30～13:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～16:00<br>(180 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 16:00～16:20<br>(20 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:20～16:30<br>(10 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）

1) たいへん良かった　　2) 良かった　　3) やや期待はずれだった

4)期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 17／参加者数 17 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 9 人 | 52.9% |
| 2)良かった | 6 人 | 35.3% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 2 人 | 11.8% |
| 合計 | 17 人 | － |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・統計がふんだんに入っており、しかも比較をされていたので大変よく理解できた。
・実体験も含めた講義でより分かり易かった。
・災害の種類や過去の災害事例については理解できた。広島の災害可能性について具体的な話が欲しかった。
・臨機応変な対応を行うことの重要性が分かった。マニュアル通りにいかない現実を踏まえ、訓練の重要性を伝えていけばと思う。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・当施設でも避難訓練は行っているが、実際に災害にあわれた方の意見や行動とは全く違っていることを、ループワークを通して感じた。
・やはりマニュアルを策定しても、思い通りにことは運ばないものだと痛感させられた。物事にその場、その場で判断して対応できるよう、日頃の準備は必要だと感じた。
・コーディネーターの重要性が理解できた。
・様々な方の意見を知ることができ見聞が広まった。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・「最終目標は元の生活に戻ること」というところが、特に勉強になった。
・福祉施設としての対応を考えさせられる内容であった。
・改めて施設での役割について考えた。
・よくわかった。
・震災の映像は胸がしめつけられる思いになった。災害は起こるものとして、過去の災害を教訓とせねばと思った。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・ワークショップは非常に考えさせされると感じた。このような研修を今後拡大させることを望む。
・項目が多かった。もう少しじっくり情報交換をしたかった。
・支援する、される両面で討議できたのが良かった。
・受援するにあたり、利用者情報の集約と的確な指示をだせるスタッフの育成をすべきだと感じた。

Ｑ６．その他の意見

・今回の研修を施設運営、法人運営に活用したい。

●２日目

回答率 100%　回答 15／参加者数 15 名

Ｑ１．2 日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 8 人 | 53.3% |
| 2)良かった | 4 人 | 26.7% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 3 人 | 20.0% |
| 合計 | 15 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

・昨日よりは議論する時間も長く、いろいろ意見交換ができた。知恵を持ち寄ることの重要性を感じた。
・仮設住宅サポートの有り方について考える良い機会になった。拠点として機能するにはスピード、対応力、機動性が重要だと考える。
・災害時においては、地域の社会資源をいかに活用するかが重要である。企業を含めた活用を大いにすべきである。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・災害にあった時に何が必要なのか、何を犠牲にしないといけないのか、その時の判断が大切である。最終的に命を守ることを心掛けて行きたい。
・実体験の話は深く心に刺さるものである。もっと聞きたか

った。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

・ＢＣＰという言葉を初めて聞いた。順を追って計画していく手順がとても良く分かった。
・ＢＣＰをとらえるのが難しかった。
・ＢＣＰが、なんとなくわかったような気がした。頭を柔らかくして、色々なアイディアを出していかなければならない。日頃から考えておかないと、なかなかできないが、大切なことだと思った。
・自分の施設のＢＣＰについて、職員と話し合ってみたい。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

・十分にグループワークの時間をとっていただき、グループが主となって意見を出し合うスタイルが理解し易く、深く考えるきっかけ作りとなった。
・スケジュール表のみを見ると長いかなと感じていたが、集約、集中して研修を受講できた。
・１日目の休憩が少ない。
・もう少し時間をかけて、グループ討議出来れば良かった。
・講義の後ワークショップだったので、質問の時間を挟んで欲しかった。

Ｑ６．その他の意見

・私たちの法人からの出席者が事務局の人間のみだった。次回は施設の実務者が出席し、より一層の進化が出来ればと思う。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第７回広島県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　広島県

講師育成プログラム①実習　広島県

講師育成プログラム①実習　広島県

講師育成プログラム①実習　広島県

講師育成プログラム①実習　広島県

講師育成プログラム①実習　広島県

## ｈ．第８回　福島県

### 「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム ver.1②実習

日時　　：平成 27 年 3 月 12 日，13 日

場所　　：ハーモニー緑ヶ丘（福島県郡山市）

実施体制：講師　　２名
　　補助講師（実習者）　１名

呼掛け先：社会福祉士会
　　介護支援専門員協会
　　老人福祉施設協議会
　　社会福祉協議会
　　広域災害福祉支援ネットワーク協議会

参加者　：18 名
　　福島県保健福祉部社会福祉課
　　社会福祉士会
　　高齢者福祉事業所
　　障がい者福祉事業所　等

プログラム

**【研修 10 日前〆切】**

事前レポート　「災害時要援護者支援の基本姿勢」　400 字～800 字

**【1 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:15～9:25<br>(10 分) | **【オリエンテーション】**<br>趣旨説明<br>日程説明　　等 |
| 9:25～9:45<br>(20 分) | **【情報提供】**<br>「各都道府県の災害対策について<br>～災害時要援護者支援の視点から～」<br>福島県生活環境部県民安全総室災害対策課 |
| 9:45～10:45<br>(60 分) | **【講義１】**<br>「災害の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 10:55～12:35<br>(100 分) | **【ワークショップ１】**<br>「災害の基礎と実際」 |

| | |
|---|---|
| 45 分 | **昼食・休憩** |
| 13:20～15:20<br>(120 分) | **【講義２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 15:30～17:50<br>(140 分) | **【ワークショップ２】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～災害福祉広域支援について考える～」 |
| 17:50～18:00<br>(10 分) | 1 日目総括<br>諸連絡<br>アンケート |

**【2 日目】**

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 9:00～9:10<br>(10 分) | 昨日の気づき<br>日程確認　　等 |
| 9:10～11:30<br>(140 分) | **【ワークショップ３】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～仮設住宅サポート拠点について考える～」 |
| 60 分 | 昼食・休憩 |
| 12:30～13:00<br>(30 分) | **【ワークショップ４】**<br>災害イメージトレーニング |
| 13:00～15:50<br>(170 分) | **【ワークショップ５】**<br>「災害時要援護者支援の基礎と実際<br>～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」 |
| 10 分 | 休憩 |
| 16:00～16:30<br>(30 分) | 修了レポート<br>アンケート |
| 16:30～17:00<br>(30 分) | 全体総括<br>諸連絡 |

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．１日目の研修の感想（選択）

1) たいへん良かった　　2) 良かった　　3) やや期待はずれだった

4) 期待はずれだった

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

Ｑ６．その他の意見

●２日目

Ｑ１．２日目の研修の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見

Ｑ６．その他の意見

調査票

参考資料参照　「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」　アンケート」調査票

調査結果（抜粋）

●1 日目

回答率 100%　回答 16／参加者数 16 名

Ｑ１．１日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 5 人 | 31.3% |
| 2)良かった | 8 人 | 50.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |

| | | |
|---|---|---|
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 3 人 | 18.7% |
| 合計 | 16 人 | ― |

Ｑ２．講義１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・災害の捉え方を再認識できた。

・改めて災害とは、を考えることができた。要援護者支援の状況を聞くことにより、震災を改めて振り返ることができた。

・災害時に優先すべきポイントが分かった。

・実際に起こった災害の情報等を交えながらの講義で大変参考になった。

Ｑ３．ワークショップ１「災害の基礎と実際」についての感想・意見

・実例に沿った内容で深く考えることができた。実際の災害にあった時も、訓練の想定通りにはいかず、現場判断の重要性を感じた。

・実際に自施設が被災したときを考えると、「その時その判断」ができるのか、また「判断する人」がいるのか、不安に思った。不安に思うということは、事前準備ができていないからなので、今回の研修を通して不安を軽減したい。

Ｑ４．講義２「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

・実例による要支援者への支援内容はわかりやすく、またとても大切なものだと感じた。

・事例があることで、理解を深めることができた。

・自動参集について「職業倫理にのっとり」とあるが、状況により差違が大きいと思う。

・被災直後の対応についていくつかポイントがあった。そのポイントを頭に入れておくと的確な判断ができるので、とてもためになった。

Ｑ５．ワークショップ２「災害時要援護者支援の基礎と実際　～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

・実際に被災地支援をされた方の意見、体験談を聞くことができ、また自分がそのような状況になったことを想定することで災害について身近に考えることができた。

・災害要支援者や外部受入れのポイントなど、今まで考えたこ

とのない内容なので難しかったが、皆との話し合いや他の班の話を聞いて、そういう意見や考えもあるのだと気付かされた。

Ｑ６．その他の意見

・ワークショップを組み入れての研修はとても充実していた。

●２日目

回答率 100%　回答 15／参加者数 15 名

Ｑ１．２日目の研修全体の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 2 人 | 13.3% |
| 2)良かった | 8 人 | 53.3% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待外れだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 5 人 | 33.4% |
| 合計 | 15 人 | － |

Ｑ２．ワークショップ３「災害時要援護者支援の基礎と実際　～仮設住宅サポート拠点について考える～」」についての感想・意見

・被災者に対し、無力を感じていた。「災害地のおける福祉とは？」について行政が必死になって考え、実行している中で、私達はそれ以外の所で関わること、愚痴を聞いてあげることしか出来ていない。

・サポート拠点で行うこと、ニーズは多岐にわたり、それぞれに関わる人数も多くなる。コーディネートの重要さを改めて感じた。

・実際に仮設住宅サポートに出向くことがなかったが、他グループなどの発表や意見を聞き、見えない人間関係や地域との壁について知ることが出来た。まだまだ長期戦になると思われるため、継続性を持ってできるサポートを考えていけたら良い。

・福島県内でも地域により、必要な支援の違いなどがあることを再認識した。

Ｑ３．ワークショップ４「災害体験ゲーム」についての感想・意見

・ゲームを通じて自分の命を守ることを最優先に考えていなかったことに気づかされた。自分の身を守れないと要援護

者を守ることができない。
・状況に応じた判断の難しさを考える機会になった。

Ｑ４．ワークショップ５「災害時要援護者支援の基礎と実際　～事業継続計画（ＢＣＰ）について考える～」についての感想・意見
・難しく考えていたＢＣＰだったが、分かり易い説明で良かった。自施設に戻り策定する。
・ＢＣＰはとても難しいと感じた。しかし、今回ほんの少しだが分かった気がし、作成していかなければならないことだと改めて思った。
・以前別の研修に参加したことがあったが、その時はワークショップをする時間がなかった。今回は、まず自施設から振り返ることが出来て良かった。

Ｑ５．日程、時間配分、会場等についての意見
・ＢＣＰを作成するには、もっと時間や回数が必要だと実感した。
・良かった。月半ばなので助かった。
・2 時間ワークショップ等含め、グループ内の意見交換が多くできた。有意義な時間が過ごせた。ＢＣＰをもっと深く知りたかった。
・参加するには難しい時期だった。

Ｑ６．その他の意見
・被災地の福島県で行うのだから内容を全国パターンでなく考えて頂きたかった。

調査結果（全集計結果）

参考資料参照　「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】講師育成プログラム②実習　第８回福島県　アンケート結果」

講師育成プログラム①実習　福島県

講師育成プログラム①実習　福島県

講師育成プログラム①実習　福島県

講師育成プログラム①実習　福島県

講師育成プログラム①実習　福島県

講師育成プログラム①実習　福島県

### （４）育成プログラム ver.2 の検討

モデル研修での検証結果について、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会で議論し、育成プログラム ver.2 の課題を抽出し、検討を行った。
具体的な内容については、「６．まとめ　～課題と展望～」に記す。

## ５．４.「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の検討

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」について検討した。

### 目的

厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まっているが、プラットフォームが立ち上がった都道府県は数か所程度で、検討が始まった都道府県を合わせても 25 か所程度という状況である。まだ全国的な動きになりえていない。
いつ起きるかわからない大災害に備えるためには、体制づくりは早急に進めなければならない。
各都道府県の連携プラットフォームの調整担当団体の情報交換と意見交換の機会として「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を提案し実施することで、連携プラットフォームづくりをより早く確実に進めるための課題を抽出することが本事業項目の目的である。
本事業の二つ目の目的である、「連携プラットフォームづくりを加速し、有事に機能する確固たるしくみとするための方法を検討し、その足掛かりをつくること」に繋げるために、継続的な実施を申し合わせることを目標として実施した。

### 実施手順

#### （１）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の企画

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論及びワーキング会議メンバーの連絡調整を踏まえ、「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を企画した。ワーキング会議の日程及び検討概要は以下の通り。

ワーキング会議の日程及び検討概要は以下の通り。

第１回　ワーキング会議
［日程］
平成 26 年 7 月 14 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の企画案についての検討

日程，場所，対象，内容　等

第１回　検討委員会

［日程］

平成 26 年 7 月 28 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の企画案についての検討

日程，場所，対象，内容　等

第２回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 8 月 18 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の案内についての検討

第３回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 9 月 16 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議について進捗状況の確認

ワーキング会議メンバーの連絡調整

［日程］

平成 26 年 9 月～12 月　随時

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議と首長会の同日開催についての検討

### （２）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の実施

企画した「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を東京都で実施した。議事録を作成すると共に、今後の継続的な実施に向けて、アンケート調査も実施した。

モデル研修は以下の手順で実施した。

**①会場の調整**

受講者の利便性を考え、東京都に会場を調整した。

**②話題提供の調整**

以下の話題提供のための調整を行った。

話題提供Ⅰ
「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」
厚生労働省社会・援護局福祉基盤課　課長補佐　片桐　昌二氏

**③事例発表の調整**

以下の事例発表のための調整を行った。

連携プラットフォーム　事例発表Ⅰ　新潟県
新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会
代表幹事　　西川　伸作　氏
（社会福祉法人柏崎刈羽福祉事業協会　法人本部事務局次長）
連携プラットフォーム　事例発表Ⅱ　熊本県
熊本県健康福祉部健康福祉政策課政策班
田代　絹代　氏

**④参加者の調整**

以下の手順で、参加者の調整を行った。

**●呼び掛け先の決定**

第１回ワーキング会議及び第１回検討委員会での検討を踏まえ、呼掛け先を決定した。

**●案内送付**

呼掛け先に、案内文を送付した。

**●参加者取りまとめ**

参加者を取りまとめ、参加票を送付した。

**⑤「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の実施**

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を実施し

た。意見交換の記録をとると共に、今後の継続的な実施に向けて、アンケート調査も実施した。

**⑥アンケートの集計分析**

アンケート結果を集計し、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会での検討のための分析を行った。

**（３）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の成果の検討**

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の実施結果について、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会で議論し、連携プラットフォームづくりの課題抽出とその検討を行った。
ワーキング会議の日程及び検討内容は以下の通り。

第４回　ワーキング会議
［日程］
平成 27 年 2 月 28 日
［内容］
連携プラットフォームづくりの課題抽出と検討　等

第２回　検討委員会
［日程］
平成 27 年 3 月 16 日
［内容］
連携プラットフォームづくりの課題抽出と検討　等

**実施内容（実施結果）**

**（１）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の企画**

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論及びワーキング会議メンバーの連絡調整を踏まえ、災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議の企画を以下に定めた。
第３回ワーキング会議までは、首長会議と同日開催として調整していたが、首長会議が平成 26 年度は提案にとどめ、平成 27 年度以降の実施とすることになったことから、以下の日時及びプログラムに変更した。

［日時］

平成 27 年 1 月 29 日

［場所］

福祉プラザさくら川（東京都港区）

［呼掛け先］

以下を案内送付先とした。
連携プラットフォームの調整が始まっていない都道府県にも、呼び掛けを行うこととした。事例を知ることが、しくみづくりを加速することにつながると考えた。

《プラットフォームづくりが始まっている都道府県》
連携プラットフォームの調整担当者

北海道　（行政）
青森県　（県社会福祉協議会）
岩手県　（行政＋県社会福祉協議会）
宮城県　（県社会福祉協議会）
秋田県　（県社会福祉協議会）
山形県　（県老人福祉施設協議会）
新潟県　（県社会福祉協議会）
富山県　（県社会福祉協議会）
石川県　（県社会福祉協議会）
群馬県　（県社会福祉協議会）
東京都　（都社会福祉協議会）
愛知県　（県社会福祉協議会）
三重県　（県社会福祉協議会）
京都府　（府社会福祉協議会）
島根県　（県社会福祉協議会）
熊本県　（行政）

※カッコ内が調整担当団体

《その他の都道府県》
都道府県　福祉担当課
都道府県　防災担当課
都道府県　社会福祉協議会

［プログラム］

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 13：00～ | 受付開始 |
| 13：30～13：40 | ●挨拶・趣旨説明<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山　剛 |
| 13：40～14：10 | ●話題提供Ⅰ<br>「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」<br>厚生労働省社会・援護局福祉基盤課<br>課長補佐　片桐　昌二　氏 |
| 14：10～14：40 | ●話題提供Ⅱ<br>「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの推進する災害時要援護者の広域支援」<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山　剛 |
| 14：50～15：20 | ●連携プラットフォーム　事例発表Ⅰ　新潟県<br>新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会<br>代表幹事　　西川　伸作　氏<br>（社会福祉法人柏崎刈羽福祉事業協会）<br>●連携プラットフォーム　事例発表Ⅱ　熊本県<br>熊本県健康福祉部健康福祉政策課政策班<br>田代　絹代　氏 |
| 15：20～17：20 | ●意見交換<br>【コーディネーター】<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　小山　剛 |
| 17：20～17：30 | ●まとめ |

### （２）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の実施

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を、以下のようにで実施した。

#### ａ．災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議

日時　　：平成 27 年 1 月 29 日

場所　　：福祉プラザさくら川（東京都港区）

呼掛け先：47 都道府県

《プラットフォームづくりが始まっている都道府県》

連携プラットフォームの調整担当者

北海道　（行政）
青森県　（県社会福祉協議会）
岩手県　（行政＋県社会福祉協議会）
宮城県　（県社会福祉協議会）
秋田県　（県社会福祉協議会）
山形県　（県老人福祉施設協議会）
新潟県　（県社会福祉協議会）
富山県　（県社会福祉協議会）
石川県　（県社会福祉協議会）
群馬県　（県社会福祉協議会）
東京都　（都社会福祉協議会）
愛知県　（県社会福祉協議会）
三重県　（県社会福祉協議会）
京都府　（府社会福祉協議会）
島根県　（県社会福祉協議会）
熊本県　（行政）

※カッコ内が調整担当団体

《その他の都道府県》

都道府県　福祉担当課
都道府県　防災担当課
都道府県　社会福祉協議会

参加者　：18 都道府県　27 名

岩手県
　岩手県社会福祉協議会福祉経営支援部
宮城県
　宮城県保健福祉部社会福祉課
　宮城県社会福祉協議会地域福祉課
　検討会構成メンバー兼事務局
山形県
　山形県老人福祉施設協議会
新潟県

新潟県福祉保健部
新潟県社会福祉協議会福祉人材課
新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会
福島県
福島県保健福祉部社会福祉課
群馬県
群馬県健康福祉部健康福祉課
群馬県社会福祉協議会総務企画課
栃木県
栃木県保健福祉部
神奈川県
神奈川県保健福祉局地域福祉課
岐阜県
岐阜県健康福祉政策課
岐阜県社会福祉協議会施設団体振興部
滋賀県
社会福祉法人六心会
京都府
京都府健康福祉部
兵庫県
兵庫県健康福祉部社会福祉課
岡山県
岡山県社会福祉協議会総務企画部
岡山県社会福祉協議会福祉経営支援部
島根県
島根県社会福祉協議会地域福祉部
高知県
高知県地域福祉部地域福祉政策課
熊本県
熊本県健康福祉部健康福祉政策課
宮崎県
宮崎県福祉保健課
鹿児島県
鹿児島県保健福祉部社会福祉課

実施体制：野田　毅　　（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

中田　年哉　（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

安井　あゆみ　（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員／東北地方太平洋沖地震被災地　茨城県）

プログラム

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 13：30～13：40 | ●挨拶・趣旨説明<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>宮城支部　野田　毅 |
| 13：40～14：10 | ●話題提供Ⅰ<br>「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」<br>厚生労働省社会・援護局福祉基盤課<br>課長補佐　片桐　昌二　氏 |
| 14：10～14：40 | ●話題提供Ⅱ<br>「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの推進する災害時要援護者の広域支援」<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>宮城支部　野田　毅 |
| 14：50～15：20 | ●連携プラットフォーム　事例発表Ⅰ　新潟県<br>新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会<br>代表幹事　　西川　伸作　氏<br>（社会福祉法人柏崎刈羽福祉事業協会）<br>●連携プラットフォーム　事例発表Ⅱ　熊本県<br>熊本県健康福祉部健康福祉政策課政策班<br>田代　絹代　氏 |
| 15：20～17：20 | ●意見交換<br>【コーディネーター】<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>宮城支部　野田　毅 |
| 17：20～17：30 | ●まとめ |

議事概要

※今後の課題となる意見は太字にした。また想定される課題を⇒で示した。

**●参加都道府県の進捗状況**

・栃木県は、これから計画をたてて始めようとしている段階である。進んでいる県を参考にして推進していきたい

・岩手県は、まず、推進機構を立ち上げた。災害派遣チームの検討から始まり、現在 226 名が登録している。すぐに派遣できる状況である。とはいえ、実績があるわけではない。研修と訓練の計画をたてている。県を中心に市町村に周知を図っている。全国老人福祉施設協議会で施設間の協定づくりも進めている。福祉チームが入って支援する中長期の支援を福祉協で行いたいと考えている。

・宮城県は、社会福祉法人東北福祉会で協議会の設置準備を行ってきた。現在は宮城県社会福祉協議会が引き継いでいる。昨年度から宮城県フォーラムという形でネットワークの必要性についてアピールしている。共有も目的としている。今年度は、2 月 26 日 27 日とサンダーバードの研修を行う。宮城県にネットワークを設立する準備するために支援をしてもらえるよう働きかけている。150 万円を目標としている。

・宮城県では、県も 12 月より検討会に参加している。協定の締結を目標に取り組んでいきたい。

・山形県では、県と全国老人福祉施設協議会が、災害派遣チームの協議をしたところである。2 月に研修会、3 月に訓練をしていく計画である。

・福島県は、11 月に福祉支援ネットワーク協議会を立ち上げた。12 団体と各課で構成する協議会である。先進県である岩手県や熊本県の事例を参考にして、チームの設置運用要綱を策定し、今年度中にチームを募集したいと考えている。できるところから始めようということで、マニュアルについては、手をつけていない状況である。東日本大震災の際に介護支援専門員協会が主導して、専門職チームがたちあがっている。チームの創設については周知されている。課題は、市町村に周知がなされていないことである。

・新潟県は、派遣チーム型ではない。足元からということで、県内の災害対応の体制整備を行っている。「避難所に命うばわれた」という記事がある。被災地域の中で二次的な被害が起こらないように、県内の関係者が連携して、足元を固めていきたい。それぞれの責務と役割をきめて、それを遂行できる体制づくりを進めていく。災害時の活動ということでは、熊本県の事例が参考になる。持ち帰って、取り組みにつなげたい。

・新潟県の特色は、福祉団体主導で進めているところである。幹事会には、県も同席しているが、オブザーバー的なスタンスである。しかし、幹事会に伝えられる情報は伝え、つなぎも行っている。新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会の経費や避難訓練の実施については、県としても協力したいと考えている。
・群馬県では、平成 25 年度に助成金をもらった。昨年度は、県内の施設に大災害に行った際のことを調査し、研修も行った。アンケートの結果を返し、ネットワーク構築の検討会も行っている。団体毎に、災害時に困っていること、どのような支援が欲しいか等、課題抽出を行っている。課題の共有をしながら、ネットワークの構築、しくみづくりを行っていきたい。
・神奈川県では、平成 26 年の 10 月まで、課題意識もなかった。そこから動き始めた状況である。東日本大震災などを振り返りながら、検討を進めている。福祉において、支援のための先遣隊がどこまで必要なのか、行政がそれを行う意義はあるのかという点の理解が進んでいない状況である。
・岐阜県では、岐阜県災害福祉広域支援ネットワーク協議会を立ち上げた。2 回協議会を行っている。人員の登録をしてもらい、派遣体制をつくることに同意してもらっている。来年は研修や訓練も予定している。
・岐阜県は、熊本県を参考にして、おおまかな派遣の合意をとりつけた。要綱をつくっているところである。先遣隊は本県では無理である。派遣要請に対してオーダーメード型で派遣したい。来年、研修と訓練を行いたい。手さぐりで進めている。このような貴重な場を活用したい。
・岐阜県社会福祉協議会では、３年前に福祉関係のネットワークをつくろうという意見が出ていたが、そのままになっていた。岐阜県の方から声がかかったので、県社会福祉協議会としても、ネットワークの構築の連絡調整を行っている。ネットワークづくりに関わる連絡調整を担当している。
・滋賀県では、県社会福祉協議会が中心になって顔の見える関係づくりのための会が始まった。平時からのつきあいが大切とうことなので、会の活性化につなげたい。
・兵庫県は、まだ進んでいない状況である。今年度から県社会福祉協議会と検討を進めてきた。検討会を開くまでにはいたっていない。行政と福祉団体の役割分担が課題である。行政がどこまで関わるか、予算要求をして検討会をつくるのか、チームをつくるのかということを検討中である。
・京都府は、原発の 30 キロ圏内にはいる。災害時の要援護者支援センタ

ーというのを立ち上げた。原子力災害というのを検討しながら、チーム編成なども検討していく。チームは今年度中に立ち上げる。100 人程度ということで、メンバーをあげてもらっているところである。

・岡山県では、県社会福祉協議会内で部署をまたいでチームを組んでいる。今年度から推進会議やセミナーを開いたところである。

・岡山県では、社会福祉協議会を中心に、５か年計画のひとつの柱として広域支援の体制作りを行っている。平成 25 年度から災害福祉広域支援のモデル事業を受けることができた。県社会福祉協議会の職員レベルで内容検討を行い、推進会議を設置した。社会福祉協議会の災害支援のノウハウは、災害ボランティアセンターしかなかった。ネットワーク推進会議は、ボランティアセンターの広域的な支援という視点にたっている。平時から顔の見える関係づくりを行っている。本年度は３月に会議を行って、ＪＣの岡山ブロックからも参加してもらった。少しずつメンバーを増やしている。昨年の 11 月にパネルディスカッション等も行った施設関係者などに災害時対応の必要性を理解してもらうためのマニュアルの整備を本年度、来年度で進めている。平成 28 年度あたりからチームの構築ができれば良いと思う。

・島根県は、災害福祉広域支援ネットワークを設置するための検討会を 11 団体と行政で行っている。岩手県社会福祉協議会、熊本県等を参考にしている。平成 27 年の 4 月を目標に設置したいと考えている。先遣隊と支援隊というパターンを検討している。先遣隊については、福祉的な支援ニーズを考えると、保健師だけでは対応できないので、福祉専門職が補っていく形を考えている。支援隊については、福祉避難所や施設への人の派遣を考えている。研修等を行って、実際に動けるのは平成 28 年以降だと思う。

・高知県では、南海トラフ地震ということで、要介護者の避難支援の手引きとか、福祉避難所の訓練等を検討している。広域でのネットワークづくりは進んでいないが、検討をすすめる予算がとれそうである。高知県は、大きい津波の可能性が高く、危機感がある。福祉避難所の運営訓練マニュアルの説明も真剣だった。しかし、福祉避難所の運営ができるのかというところで精一杯で、他県のことは考えられていない。これからである。

・宮崎県では、南海トラフの発生が予想されている。現在は社会福祉協議会に事務局がある。部会が、社会福祉施設間の協定を結んでいる。それを基に行政のできることを検討している最中である。事例をもとに、次年度の方向性を決めていきたい。

・いろんなチームの形があっていいと思う。熊本県は、要望があれば資料

をだす。分かりにくい部分もあるが、問い合わせてほしい。県主導なので、他のとりくみも参考にしたい。

・鹿児島県は、まだ検討もしていない状況である。本会議の参加を機会に、今後、鹿児島県としてどのようにしなければならないかも考えていきたい。

●ネットワークづくりの手法について（コーディネータの設置等）

・宮城県では、社会福祉法人東北福祉会が助成金に手をあげ、関係団体に声を掛けて、しくみづくりを始めた。２年間で、法人の限界を感じた。主に高齢者のサービスをやっている法人なので、障がいや児童等の他職種に声をかけると、なんで東北福祉会なのという反応だった。それで、県社会福祉協議会に移行した。これが現状であり、課題である。

・民間は、支援を行う際は、行政と一緒になってやらねばならない。

⇒　公的な団体（行政，社会福祉協議会等）の協力の必要性

・岡山県は、県社会福祉協議会が事務局を担っている。日ごろから、福祉施設関係の人とのネットワークはできているが、日赤や県行政とは、意見交換する場もない状況である。東日本大震災の際、それぞれの団体が災害時にどのような活動を行っていたかはみえない状況だった。そこで、組織紹介ということで、災害時にどんな活動をしたかを会議で話してもらった。今後マニュアルを整備していこうと考えている。それぞれの団体がどういう得意分野をもっているかを担当者レベルで話し合える関係づくりを進めていきたい。具体的な方法についてはこれからである。

・群馬県は、ほぼすべての種別団体が社会福祉協議会内にある。知的障がいと、精神障害だけ別団体である。

・岩手県のしくみづくりは、職能団体の人からはじまった。震災当時は、被災地の支援段階から、広域で職種を超えてやっている。仲間が仲間をよんだ。災害の際に県民の命を守るのは行政の責務である。県がしっかり旗をふってもらわないと方向が定まらない。福祉関係団体が集まって県社会福祉協議会の名前で支援をしても、責任がとれないのでしっかりと県にはいってもらった。要綱も県でつくってもらった。

・現場の福祉団体の働きかけで県が動くのは理想的である。

・宮城県では、県が、行政として、協定の主体者となれるように、内部で意識の共有をはかっている。しかし庁内でも、必要性が浸透していない。社会福祉協議会と連携して庁内の意識の統一を図っていきたい。

⇒　行政内での意識統一の必要性

・高知県では、来年度から検討会という形で、種別団体とか、職能団体でやっていることを紹介しあいながら、オール高知県としてどうするか事

務局はどうするかを考えていきたい。民間の１法人が事務局を担うということになると、なぜ、そこのいうことを聞くのかということにもなる。まずは県で合意が必要なので、社会福祉協議会と**県が強引に進めているようにみせたくない。民意からにしたいと考えている。**

・京都府は、**京都府社会福祉協議会と京都府が両輪で動いている**。医療部分や総務部分も京都府がはいっている。

・福島県では、東日本大震災の後、専門職団体にがんばっていただいて福祉支援を行い、今でも継続している。そのような経緯から、**社会福祉士会がやってくれるので、専門職団体がすんなりはいっている。**

・岐阜県では、社会福祉協議会の動きは、情報収集で終わっていた。こういうことは、行政に声をかけてもらわないと進まない。**県社会福祉協議会から種別団体に声はかけられても、命令はできない。県が声をかけた方が良い。**経営協だと広い範囲でカバーできるかと思ったが、岐阜県の経営協は加入率が悪い。3 割くらいである。経営協に話をもっていっても広がりがない種別協の役員だけになってしまう傾向もある。**広く浅く行き渡る方法も検討する必要があると思う。**

・島根県では、しくみをつくりたいといったのは県社会福祉協議会である。県をむりやりひっぱりこんでいる。**県は検討には参加しているが、防災と福祉の考え方が違ったり、費用も県でなくて市町村の問題だといったりもしている。**地域防災計画に位置づけることも大切である。県にあがってきた派遣要請を我々がうけられるように県との調整をはかっていく。種別団体の事務局は社会福祉協議会内にあるが、職能団体は外にある。どちらも一緒に検討しようと思ったが、職能の関係者はどこかの施設にいる人なので、そこから派遣することは難しいと言われた。種別と職能の役割はネットワークの中の役割としてきちんと考えていきたい。　**⇒　行政の動きの悪さ　⇒　推進力がある団体の必要性**

・政令市を抱えている都道府県の課題がある。宮城県は、県はまきこめても**政令市はまきこめなかった。**　**⇒　政令市との連携のむずかしさ**

・救護施設は精神と知的障がいである。その人たちは特別養護老人ホームには避難できない。同じ場所に避難したい。施設団体をネットワークに組み入れるのは必須だと思う。新潟県の事情かもしれない。新潟市も巻き込んでいる。県と市町村に壁はない。災害のことは、誰からも文句をいわれるものではない。どんどん進めていけると良い。

・宮崎県は、南海トラフの危険性があるので早くしくみをつくりたい。県社会福祉協議会が団体としては良いと思った。なかなか連携がとれていない部署がある。町村会や市長会を含めて検討をしていきたい。

・兵庫県のしくみづくりのきっかけは県社会福祉協議会の政策提言である。

県社会福祉協議会も一法人なので、他を動かすことは難しいということだったので、県と両輪でやっている事務局機能は社会福祉課と県社会福祉協議会が担っている。

・災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりは、進め方のスピード感も、都道府県によってさまざまである。主導する団体も多様である。国もモデルを明確にしていない。いろんな形があっていいと思う。いつどこで災害が起きるかわからない。各都道府県の動きを活発にしながら、国が全国ネットワークにすることになると思う。サンダーバードでも研修などで協力していく。

**●研修と訓練について**

・熊本県の研修は、３本柱で実施している。正式登録に必要な登録研修は、２日間で、マニュアルの中身の確認、図上訓練等を行う。２年以内に行うスキルアップ研修は、３日間で、避難所の中身、避難所組織、ＤＭＡＴ等について学んだ後、最終日にシミュレーション訓練を行う。３年目に行う更新研修もある。来年度はスキルアップを行いたいと考えている。前期後期の二本だけになる

・岐阜県でも、来年、訓練を予定している。半日で行う予定である。協議会で、それぞれ仕事を持っているので、コンパクトにやってほしいという意見が出されたためである。熊本県の研修は、長いが、反発はなかったか。　⇒　広域訓練の必要性

・岩手県では、研修の頻度を高めてほしいという意見がだされた。参加させたいけれど、タイミングが合わないということである。290 名の登録者全員が研修を受けられているわけではない。研修時間が長いことへの苦情は特にない。

**●支援費用について**

・災害救助法に規定されていない人件費の負担は、団体が負担したところと、施設が負担したところがある。老健協からの派遣は、老健協が費用を負担した。市町村への請求は想定していない。

**●地域内の対策について**

・福島県では、45 市町村のうち 44 市町村で福祉避難所の協定を締結している。福祉避難所の指定はするけれど、いったいどのくらいの避難者を受け入れられるのか、備蓄はどうするか、足りないところはどうするかというようなことについての検討はこれからである。移送についても、社会福祉法人と締結しているところもあるが、まだばらばらな状況である。地域の災害対応ができていなければ、外部の人間がはいってきて

も何もできないと思う。地域力をアップすると共に、それだけでなダメなときは外から入ろうということで、すすめている

⇒　都道府県を超えた連携には時間がかかる　⇒　国主導の取組みの必要性

・宮城県社会福祉協議会は、種別協をもっていない県社協である。あらゆる団体が県社協に来て、手伝って欲しいと言ったが、当時の宮城県社会福祉協議会は、めいっぱいだった。反省を踏まえ、種別協と連携をはかろうとしている。しかし、うまくいっていない。協定も大切だが、平時からネットワークの重要性について議論することが大切である。それがないとうまくいかない。

**●その他**

・原子力の施設の 5 キロ圏内に自分の施設がある。即時避難地域である。特別養護老人ホームであれば、どこかに受け入れてもらわねばならない。施設団体との連携は不可欠である。施設のマッチングは全国老人福祉施設協議会とともに進めている。受け入れる側の整備も必要である。

・広域支援は、しくみをそろえておくことも重要だと思っている

アンケート

調査項目

●1 日目

Ｑ１．本日の感想（選択）
1)たいへん良かった　2)良かった　3)やや期待はずれだった
4)期待はずれだった

Ｑ２．「連携プラットフォーム会議」の継続実施についての意見（選択）
1）今後も定期的に実施すべきである　2）実施する必要はない
3）どちらともいえない　4）その他

Ｑ３．今後、「連携プラットフォーム会議」で検討すべき内容、実施したい事項等についての意見

Ｑ４．「災害福祉広域支援ネットワーク」の確立方法についての意見

Ｑ５．その他の意見

調査票

参考資料参照　「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議　アンケート」調査票

調査結果

回答率 88.9%　回答 24／参加者数 27 名

Ｑ１．本日の感想（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)たいへん良かった | 11 人 | 45.8% |
| 2)良かった | 12 人 | 50.0% |
| 3)やや期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 4)期待はずれだった | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 1 人 | 4.2% |
| 合計 | 24 人 | － |

Ｑ２．「連携プラットフォーム会議」の継続実施についての意見（選択）

| 回答 | 人数 | 割合 |
|---|---|---|
| 1)今後も定期的に実施すべきである | 22 人 | 91.7% |
| 2)実施する必要はない | 0 人 | 0% |
| 3)どちらともいえない | 2 人 | 8.3% |
| 4)その他 | 0 人 | 0% |
| 未記入 | 0 人 | 0% |
| 合計 | 24 人 | － |

「連携プラットフォーム会議」の実施頻度・時期についての意見

- 年 2 回程度
- 前期、後期各 1 回
- 年 1 回程度
- 最低年 1 回
- 年 1 回　秋頃

その他の意見

- 各県の進行度によりグループ分けして実施するのもよいと思う

Ｑ３．今後、「連携プラットフォーム会議」で検討すべき内容、実施したい事項等についての意見

**●各都道府県の取り組みについての情報交換**

・各県の取り組みの状況について教えてほしい。

・各都道府県の取り組み状況の共有（情報交換）

・進捗状況の情報交換

・ネットワークの仕組み、役割について各県の状況把握と統一化に向けた検討ができると良い。

**●各連携プラットフォームの立ち上げ方法についての検討**

・ネットワーク会議の立ち上げ方法について

・経費負担について

・具体的な機関・団体との連携方法や支援チーム体制等について

・周知方法について

・これから準備を進めるところなので、モデルケースとして、スケジュールや課題、準備で必要なこと等の資料を用意してほしい。 ⇒　報告書に項目案を提示する　詳細は次年度の事業提案とする

**●各連携プラットフォームの運営についての検討**

・ネットワーク会議内での研修の中身について

・より実効性を持つために行う隊員研修や訓練のあり方について

・訓練プログラムについて ⇒　報告書に項目案を提示する　詳細は次年度の事業提案とする

・広報について

**●連携プラットフォーム間の連携手法についての検討**

・具体的な福祉派遣チームの連携のルール等について

・都道府県を越えた支援を行うための共通ルールや様式についての検討が必要である。

⇒　報告書に項目案を提示する　詳細は次年度の事業提案とする

**●その他**

・福祉避難所の開設、運営について

・ＤＣＡＴについて

・名称の統一について

・統一化に向けた検討ができると良い。

・各県課題を同じくしているので整理出来れば良い。

Ｑ４．「災害福祉広域支援ネットワーク」の確立方法についての意見

・まずは関係機関との情報共有が重要だと思う。

・広域支援には国の協力が欠かせない。国ではＤＣＡＴに加え、ＤＰＡＴ（心のケア）を都道府県で整備予定であり、全国的な研修の実施や補助を行っている。福祉についても、ＤＭＡＴ同様、国である程度統一して欲しい。

・役割の明確化が重要である。

・今回のように関係者が顔を合わせて知恵を出しあう場が必要だと思う。

Ｑ５．その他の意見

・このような機会ありがとうございました。是非、また実施してほしい。

・大変勉強になった。ありがとうございました。

・今回はご案内いただきありがとうございました。出席者名簿をいただければ、ありがたかった。

・どういうメンバーがいるのか名簿があるとありがたい。

・他県の状況がよくわかり有意義だった。

・有益な学びの場となった。ありがとうございました。

・各県によって進め方や形は違うが、日頃から顔の見える関係づくりをしておくことの大切さは共通していると再確認した

・このような会議をサンダーバード主催で開催いただき感謝する。ありがとうございました。

・全国の取りまとめ役が必要だと思う

⇒　サンダーバードとして継続的に実施していく　次年度の事業提案とする

・本県が遅れていることが分かった。災害福祉広域支援ネットワークの必要性を感じた。

・熊本県の現地派遣の進め方については、大変参考になった。次回はもっと多くの県に参加してもらえると、更に良いと思う。

・ネットワーク協議会としてどのようなことを目指すのか、もう少し国レベルでモデルを示してほしい。

・議論の時間が少なかったのが残念だった。（自己紹介が長く中身が無い）⇒　分科会形式を検討する

連携プラットフォーム会議

連携プラットフォーム会議

連携プラットフォーム会議

連携プラットフォーム会議

連携プラットフォーム会議

連携プラットフォーム会議

### （３）「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の成果の検討

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」の実施結果について、第４回ワーキング会議及び第２回検討委員会で議論し、連携プラットフォームづくりの課題抽出とその検討を行った。
具体的な内容については、「６．まとめ　～課題と展望～」に記す。

## ５．５.「 災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の検討

「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議会議」について検討した。

**目的**

厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まっているが、プラットフォームが立ち上がった都道府県は数か所程度で、検討が始まった都道府県を合わせても 25 か所程度という状況である。
いつ起きるかわからない大災害に備えるためには、体制づくりは早急に進めなければならない。また、有事に確実に機能するものとするためには、プラットフォームをつくるだけでは十分とはいえない。
本事業項目では、より早く、より確実に、仕組みづくりを進めるためには、首長による意見交換の機会を設けることが有効であるとの認識のもと「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」について検討する。首長のもつ実践力や機動力を、「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム」づくりの力としたい。

**実施手順**

### （１）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第１案の企画

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論を踏まえ、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第１案を企画した。ワーキング会議の日程及び検討概要は以下の通り。

ワーキング会議の日程及び検討概要は以下の通り。

第１回　ワーキング会議
［日程］
平成 26 年 7 月 14 日
［内容］
災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の企画案について
日程，場所，対象，内容　等

第１回　検討委員会

［日程］

平成 26 年 7 月 28 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の企画案について

日程，場所，対象，内容　等

第２回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 8 月 18 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の案内について

第３回　ワーキング会議

［日程］

平成 26 年 9 月 16 日

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議の調整について

**（２）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の調整**

企画した「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を実施するために、以下の調整を行った。

**①会場の調整**

**②案内送付準備**

**③首長への協力依頼と意見交換**

全国市長会会長（新潟県長岡市　市長）への協力依頼

全国市長会会長（新潟県長岡市　市長）との意見交換

全国町村会会長（長野県川上村　村長）への協力依頼

**（３）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案の企画**

前項（２）及びワーキング会議メンバーの連絡調整を踏まえ「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案を企画した。

日程及び検討概要は以下の通り。

ワーキング会議メンバーの連絡調整　第１次

［日程］

平成 26 年 11 月～12 月　随時

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　首長会の平成 26 年度の実施項目について

ワーキング会議メンバーの連絡調整　第２次

［日程］

平成 27 年 2 月～3 月　随時

［内容］

災害福祉広域支援ネットワーク　提案書について

**（４）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の提案書の作成と送付**

「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案を元に、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の提案書を作成し、本事業の報告書と共に、全国の都道府県知事及び市町村長に発送した。

**実施内容（実施結果）**

**（１）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第１案の企画**

第１回ワーキング会議，第１回検討委員会，第２回ワーキング会議，第３回ワーキング会議の議論を踏まえ、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の企画を作成した。

企画内容は、以下の通り。

［日時］

平成 27 年 1 月 29 日

［場所］

福祉プラザさくら川（東京都港区）

［呼掛け先］

市町村長　1，741 名
都道府県知事　47 名

［プログラム］

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 12:30～ | 受付開始 |
| 13:00～13:10 | **●挨拶・趣旨説明**<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　　小山　剛 |
| 13:10～14:10 | **●話題提供Ⅰ**<br>「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」厚生労働省 |
| 14:10～15:10 | **●話題提供Ⅱ**<br>「連携プラットフォームづくりの現状」<br>岩手県，新潟県，熊本県　等（調整中） |
| 15:10～15:20 | 休憩 |
| 15:20～15:50 | **●話題提供Ⅲ**<br>「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの推進する災害時要援護者の広域支援」<br>災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード<br>代表理事　　小山　剛 |
| 15:50～17:50 | **●意見交換**<br>**【コーディネーター】**<br>市町村長（調整中） |
| 17:50～18:00 | **●まとめ** |

**（２）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の調整**

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を実施するために、以下を実施した。

**①会場の調整**

受講者の利便性を考え、東京都に会場を調整した。

**②案内送付準備**

全国の市町村長リストを作成した。

**③首長への協力依頼と意見交換**

全国市長会会長でもある新潟県長岡市市長へ、本事業への協力依頼を行い、

災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード代表理事の小山剛が、長岡市市長と意見交換を行った。
意見交換を踏まえ、全国町村会会長でもある長野県川上村村長にも、協力を依頼したが、平成 26 年度事業として実施は難しいという結論に至った。
平成 26 年度事業としては、提案書を全国の首長に送付するにとどめ、平成 27 年度以降に、しっかりと準備した上で、実施を目指すこととなった。

### （３）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案の企画

前項（２）及びワーキング会議メンバーの連絡調整を踏まえ「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案を企画した。

企画内容は、以下の通り。

［実施計画］

平成 27 年 3 月　　提案書の発送

平成 27 年 4 月以降　実施に向けた調整（本事業外で実施）

［場所］

福祉プラザさくら川（東京都港区）

［呼掛け先］

市町村長　1，741 名
都道府県知事　47 名

［プログラム（案）］

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 13:00～13:10 | **●挨拶・趣旨説明** |
| 13:10～14:10 | **●話題提供Ⅰ（案）**<br>「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」（仮題）<br>厚生労働省 |
| 14:10～15:10 | **●話題提供Ⅱ（案）**<br>「連携プラットフォームづくりの現状」<br>岩手県，新潟県，熊本県　等 |
| 15:10～15:20 | 休憩 |

| | |
|---|---|
| 15:20～15:50 | **●話題提供Ⅲ（案）**<br>「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの推進する災害時要援護者の広域支援」（仮題） |
| 15:50～17:50 | **●意見交換（分科会）** |
| 17:50～18:00 | 休憩 |
| 18:00～19:00 | **●まとめ**<br>**分科会報告**<br>**提言** |

**（４）「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の提案書の作成と送付**

「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」第 2 案を元に、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の提案書（以下）を作成し、本事業の概要版報告書と共に、全国の市町村長（1，741 名）に発送した。

## 「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」のご提案

平成 26 年度社会福祉推進事業「福祉における災害時広域支援システムの早期確立と効果的な運用のための体制の検討」の実施結果を踏まえ、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」について、以下のようにご提案させていただきます。

### １．趣旨

東日本大震災では、厚生労働省による広域支援の呼びかけがなされたが、十分な成果をあげるには至らなかった。呼びかけに応じた7，719人の内、実際に支援を行ったのは、2，573人（2012年1月25日時点）であった。その要因の一つは、福祉における広域支援の必要性が十分認識されておらず、そのためのしくみが構築されていなかったことにある。

東日本大震災の経験を踏まえ、厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まっている。現在、25の都道府県でプラットフォームの検討が始まっているが、プラットフォームの設立に至っている都道府県は数か所程度で、多くが、検討を始めた段階にある。本件における先進都道府県といわれる地域においても、県境を越えた議論を行うまでには至っていない。

いつ起きるかわからない大災害に備えるためには、体制づくりは早急に進めなければならない。また、有事に確実に機能するものとするためには、県境を越えた議論が不可欠である。

以上のことから、プラットフォームづくりを加速し、より確実なしくみとするためには、その

キーマンとなる首長による広い視野に立った議論が必要と考え、本提案を行うものである。

大災害発生時、警察や自衛隊と同時に、医療やライフライン関係は、即時に支援が動き出す。それらが欠けると、被災地の暮らしが立ち行かなくなるからである。福祉も、その支援が必要な人にとっては、ライフラインと同じである。福祉の機能が止まることによって、暮らしが続けられなくなる人がいる。災害時要援護者のための広域支援のしくみづくりは、早急の課題である。

## ２．これまでの経緯

平成26年度社会福祉推進事業「福祉における災害時広域支援システムの早期確立と効果的な運用のための体制の検討」において、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」を企画、実施するために、以下の調整を行った。

**①首長会議　企画（案）の作成**

**②全国市長会　会長（新潟県長岡市　市長）への協力依頼と意見交換**

**③全国町村会　会長（長野県川上村　村長）への協力依頼**

**④提案書の発送**

・本事業の報告

・「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の提案書（本書）　　等

上記のような手順で調整を行ったが、実施には、時間をかける必要があるとの結論に至った。

よって、平成 26 年度は、提案書を送るにとどめ、平成 27 年度以降の実施に向けて、再度調整を行うこととなった。

## ３．今後の計画（案）

平成 26 年度の経験を踏まえ、「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」の実施に向けて調整を行っていく。

実施にあたっては、被災経験者、連携プラットフォーム担当者、厚生労働省ＯＢ等による実行委員会を組織し、詳細についての検討を行う。厚生労働省には常に情報を送り、協力を依頼する。

検討は、以下の実施計画（案）を基に行っていく。提案１から提案３を段階的、もしくは複合的に実施することについても検討したい。

**（提案１）連携プラットフォーム会議と同時開催とする**

平成 26 年度社会福祉推進事業として、各都道府県の担当者による「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を実施した。参加者より、継続的な会議の実施を希望する声が多かったことから、次年度以降も実施する方針である。

本会の部会という形で、首長という立場で災害福祉広域支援ネットワークの連携プラットフォ

ームの早期立ち上げについて議論する場を設ける。

**（提案２）既存の首長会の議題として提案する**

全国市長会や全国町村長会による会議や、その他、有志首長による意見交換会（提言・実践首長会，全国首長連携交流会等）に、「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォームの早期立ち上げについて」の議論を提案し、実現に向けた協力を行う。

**（提案３）「連携プラットフォーム首長会議」を実施する**

平成 26 年度の企画（以下）を基に、再度、連携プラットフォーム会議の実施を目指す。

ご案内先　　都道府県知事殿（47 人）
　　市町村長殿（1，742 人）

プログラム案

●挨拶・趣旨説明
●話題提供Ⅰ（案）
「災害福祉広域支援ネットワークの確立に向けて」（仮題）　厚生労働省
●話題提供Ⅱ（案）
「連携プラットフォームづくりの現状」　岩手県，新潟県，熊本県　等
●話題提供Ⅲ
「サンダーバードの推進する災害時要援護者の広域支援」（仮題）
●意見交換（分科会）
●まとめ

調整事務局
認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード
代表理事　小山　剛
代表代行　友保　洋三
〒114-0014　東京都北区田端 1-11-1　勘五郎ビル 104 号室
TEL：03-5832-9943　FAX：03-5832-9964　担当：安井あゆみ

## ５．６．報告書の作成と普及

本事業の成果を、概要版報告書にまとめ、全国の都道府県福祉担当課，市町村福祉担当課，都道府県社会福祉協議会，市町村社会福祉協議会に送付した。

### 目的

本事業の要点を広く知らせることを重視し、手軽に読める分量の概要版報告書を作成した。概要を正しく伝えること、報告書に興味をもっていただくことに留意した。
送付先とした、全国の都道府県福祉担当課，市町村福祉担当課，都道府県社会福祉協議会，市町村社会福祉協議会は、災害福祉広域支援ネットワーク連携プラットフォームの運営主体や支援者となる組織である。概要版を発送し、本事業の内容を共有することは、災害福祉広域支援ネットワークの早期確立につながると考える。

### 時期

平成 26 年 1 月～3 月

| | |
|---|---|
| 発送リストの作成 | 平成 26 年 10 月～11 月 |
| 概要版報告書の作成 | 平成 27 年 2 月～3 月 |
| 概要版報告書の発送 | 平成 27 年 3 月 |

### 実施手順

**（１）発送リストの作成**

**（２）概要版報告書の作成**

### 実施内容（実施結果）

**（１）発送リストの作成**

①各所のＨＰ等を参照し、都道府県の住所録を作成した。

②各所のＨＰ等を参照し、市町村の住所録を作成した。

③各所のＨＰ等を参照し、都道府県社会福祉協議会の住所録を作成した。

④各所のＨＰ等を参照し、市町村社会福祉協議会の住所録を作成した。

**（２）概要版報告書の作成**

①報告書作成担当者が、概要版報告書案を作成した。

②ワーキングメンバーで、概要版報告書案を確認した。

### （３）概要版報告書の発送

①発送リストに従い、以下に概要版報告書を発送した。

4，304 件

全国の都道府県福祉担当課（47 件）
全国の市町村福祉担当課（1，741 件）
全国の都道府県社会福祉協議会（47 件）
全国の市町村社会福祉協議会（2，469 件）

## ６.まとめ　～課題と展望～

本事業は、大きく分けて、以下の二つの目的を持って実施した。

一つは、災害福祉広域支援ネットワーク連携プラットフォーム関係者に対する研修体制の確立方法の検討である。

東日本大震災の際、福祉における広域支援が機能しなかった原因のひとつは、災害時要援護者支援及び広域支援に関する共通認識が育まれていなかったことにあると言われている。その課題を解決するために、平成25年度社会福祉推進事業として「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を開発した。モデル研修において、その必要性も確認された。

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を今後も継続的に実施するためには講師養成が不可欠である。そこで、本事業では、講師育成プログラムを開発し、モデル実施によって検証することにより、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の実施体制の検討を行った。

二つ目は、「災害福祉広域支援ネットワーク」の連携プラットフォームの課題を抽出し、連携プラットフォームづくりを加速し、有事に機能する確固たるしくみとするための方法を検討することである。

厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まっているが、プラットフォームが立ち上がった都道府県は数か所程度で、検討が始まった都道府県を合わせても25か所程度という状況である。まだ全国的な動きになりえていない。

いつ起きるかわからない大災害に備えるためには、体制づくりは早急に進めなければならない。そこで、本事業では、「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」等の当事者による会議を実施し、しくみづくりが進まない原因を明らかにし、解決策を検討した。

本事業の成果と今後の課題を、二つの目的別に以下に整理する。

### ６．１．連携プラットフォームを対象とした研修体制の確立方法について

本事業の一つ目の目的である「「災害福祉広域支援ネットワーク」の連携プラットフォームに対する研修体制の確立方法について検討」のために開発、検証した「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム」は、高い評価を得ることができた。同時に、今後検討すべき課題もたくさん見つかった。

以下に、主な課題と、今後の事業案をまとめる。

#### （１）講師育成について

**■プログラムの見直し①　実技研修の実施**

今回実施した講師育成プログラムは、「講義やファシリテーターの実技は実習で学ぶ」という前提で構築したが、いきなり一般の受講生を前に実践することは難し

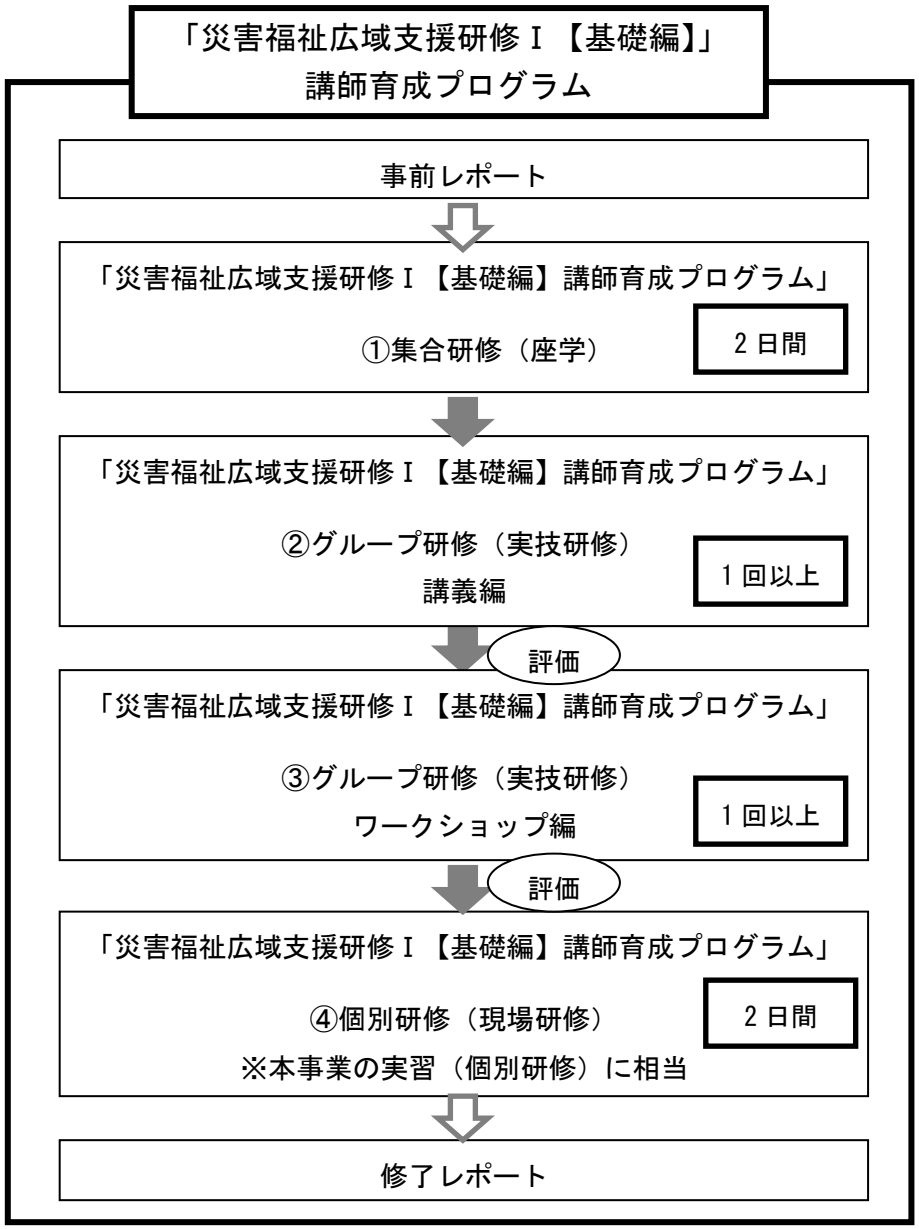
いということが分かった。

集合研修（座学）と実習(個別研修)の間に、実技研修が必要である。

実技研修の方法については、開発チームでの検討が必要だが、講師と数人の受講者によるグループワークが有効だと考える。

まず、講義編とワークショップ編の 2 種類を設ける。講義編では、各受講者に講師の指示する部分の講義を行ってもらい、互いに評価しあいながら、スキルアップを図る。ワークショップは、受講者に柔軟な対応を行うことがポイントとなる。そこで、ワークショップ編では、複数の模擬回答等を準備し、実際にコメントしてもらうといったことが考えられる。回数は 1 回以上とし、次のステップに進むための実技試験を行うことも検討する。

［「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」全体構成（修正案）］



■プログラムの見直し②　実習期間の設置

研修修了者でも、いきなり単独で講師を務めることは不可能であった。多くの受講者が、ワークショップよりも、講義のほうが行いやすいと考えていることも分かった。「ワークショップのほうが、現場対応が求められる」と考えるようである。講義等、できるところから段階的に講師となっていくしくみを検討する必要がある。

具体的には、実習期間を設置し、講師育成プログラム修了者は、講師の同行のもとで、部分的に講師を務める。「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の場合、「講義１　災害の基礎と実施」及び「ワークショップ１　災害の基礎と実際」、「ワークショップ４　災害イメージトレーニング」が比較的実施しやすいプログラムである。ワークショップの場合は、出題と進行のみを担当し、同行の講師がコメントの部分を担当することも考えられる。

全てが行える講師となるには、一定の評価も必要になる。

多くの受講者が講義のほうが行いやすいと考える点については、講義が一方向のものであるという誤解がないよう、指導することも忘れてはならない。

■研修の質の統一

「研修はどの講師が実施しても同じ成果をもたらす」ことが不可欠であるとの認識のもと、育成研修のテキストを作成した。テキストには、各プログラムを実施する上でのポイントと共に、本研修の講師を務める上での心構えや技術についても整理してある。本テキストについては、有効であるとの評価を得ることができた。研修修了後は、マニュアルとして活用できるものである。

今後の課題は、マニュアルの更新と更新内容の確認を行うしくみづくりである。本事業で実施した８回の研修を通じても多くの気づきがあった。それらを追記すると共に、恒常的に改変を行うしくみを構築していく必要がある。

具体的には、講師の実施報告のしくみをつくり、報告内容について定期的に開発チームで検討し、必要に応じて改変を行うということになる。現在のテキストは、リングファイルで製本されている。追加や変更に対応しやすくするためである。

質の統一をはかるための方法には、テキストの充実の他にも、講師の情報交換会や、フォローアップ研修の実施等がある。(次項)

今後、講師を公募すれば、さまざまな方の応募があり得る。質の統一のための工夫は、今後の重要課題の一つといえる。

■フォローアップ研修の検討

被災地においても、その記憶は薄れている。「人は何かを学習して 20 分後には 42%を忘れ、60 分後には 56%を忘れてしまう」という説があるように、人は完全に記憶をとどめておくことはできない。

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の最大の目的は、「災害をイメージする力をもつ」ことである。イメージする力こそが、有事の助けとなり、そのための対策

を事前に行うことも可能になる。このことを伝える講師は、災害及び災害対応に対するイメージを、常に新しくしておく必要がある。定期的なフォローアップ研修を企画実施できる体制をつくることも、重要課題の一つである。

詳細については、開発会議等で検討を進めるが、以下のような内容が考えられる。

**「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム**
**フォローアップ研修（案）**

［実施時期・頻度（案）］
毎年　6 月・12 月

［内容（案）］
○基調講演　被災経験者，災害時要援護者支援の実践者等
○分科会　　テーマごとの検討会（ワークショップに相当）
○情報交換会（交流懇親会）　　等

**■受講資格の見直し**

講師育成プログラムは、「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を受講しているか、もしくは、同等の知識を有する」ことを受講条件としたが、モデル研修により受講を必須とすべきとの考えに至った。災害及び災害時要援護者支援について、経験や知識を有する方であっても、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を受講していない人は、講師育成プログラムの理解が難しい。

更に、受講者であっても、時間の経過と共に記憶があいまいになり、講師育成プログラムで苦労するという状況も見て取れた。受講後、あまり日をあけないで、講師育成プログラムを受講できるしくみをつくる必要がある。

具体的には、以下のような研修の年間スケジュールを立てること等が考えられる。

**［年間研修スケジュール　例］**

| 月 | 西日本 | 東日本 |
|---|---|---|
| 4 月 | 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】 | |
| 5 月 | | |
| 6 月 | | |
| 7 月 | | 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】 |
| 8 月 | | |
| 9 月 | 講師育成プログラム | |
| 10 月 | 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】 | |
| 11 月 | | |
| 12 月 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 1 月 | | 災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】 |
| 2 月 | | |
| 3 月 | | 講師育成プログラム |

**■評価方法の検討**

本事業で実施した「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム」は、モデル研修という位置づけであったこと等から、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの会員から受講者を選定し、依頼するという方法で実施した。

今後は、受講生を公募していくことになる。公募する場合、研修の質を保つためには、受講者の評価のしくみが必要になる。先述した育成期間の評価（試験）だけでなく、講師となってからも、定期的な評価は必要である。誰が、どのような方法で評価を行うかについては、次年度以降の課題とする。

まず、先述の課題を含めて研修について考える「開発管理委員会」を、以下のメンバーで立ち上げる。

**［開発管理委員会　構成メンバー　例］**

・被災経験者
・福祉事業関係者（高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉等）
・講師経験者　　等

**■その他**

より多くの講師を育成するためには、研修方法の検討も必要かもしれない。先述した研修を補う形で、映像や音声等の情報を活用することも考えられる。

将来的には、講師育成プログラムのための講師育成も必要になる。

本事業で実施した、「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム」の開発と検証は、研修体制づくりの足掛かりをつくったにすぎない。先述した内容を含め、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」及び「「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」講師育成プログラム」を効果的に活用するしくみづくりを行っていく。

## （２）連携プラットフォーム向け研修開発について

**■「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の見直し①　経験への配慮**

本事業は、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のブラッシュアップの機会ともなった。

最も大きな気づきは、「被災者への配慮の必要性」であった。被災時の映像を観ることは、被災者にとって耐えがたい場合がある。命について考えるワークショップが負担となることもある。研修の案内の段階で、このような可能性に触れると共

に、講師の心配りも必要である。講師育成プログラムのマニュアルに、このことを追記すると共に、講師全体の共通認識とする必要がある。

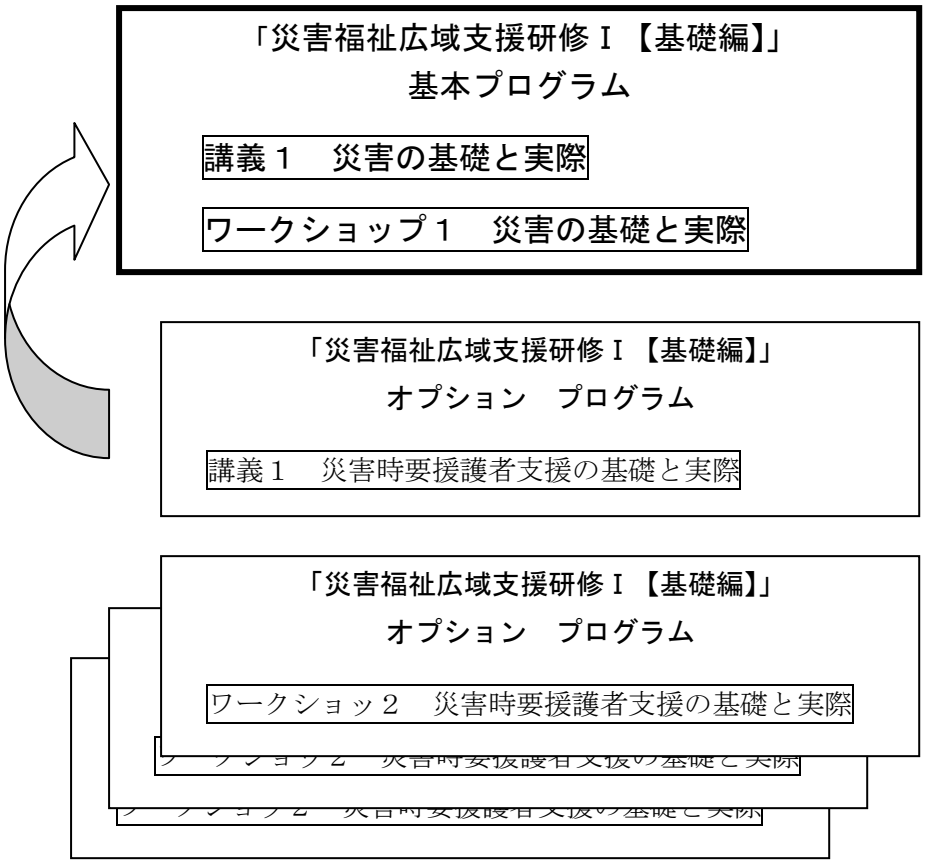
被災経験や、支援の経験が、ワークショップの邪魔になる場合もあることにも気づいた。自分の経験に囚われ、柔軟な視点を失う場合もある。このことについても、講師全体の共通認識とし、経験が研修成果の妨げにならないよう、配慮していくことが必要である。

**■「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の見直し②　柔軟な実施対応**

２日間研修であることの参加し難さを解消するために、「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」を分割して実施すること等についても、検討していきたい。

今回の「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」の呼びかけに対し、多くの都道府県から「まだプラットフォームの検討を始めたばかりなので、実施するには早すぎる」といった声があがった。このような都道府県からは、講義のみの実施や、半日研修の実施等の要望もあがった。

「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」のプログラムを以下のように再編し、要望に応じて、再構築するということについても、今後検討していきたい。ただし、現在の「災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」は推奨版とする。



■新しい研修の開発について

本事業を通じて、基礎研修を踏まえた応用研修の必要性も確認された。

事業継続計画（ＢＣＰ）については、他のプログラムと性格が異なること、短時間では習得することが困難であること等から、「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」からはずし、応用研修として新しくすべきといった意見もでている。

今回の「災害福祉広域支援研修Ｉ【基礎編】」の呼びかけに対し、多くの都道府県から「まだプラットフォームの検討を始めたばかりなので、実施するには早すぎる」といった声があがった。このような都道府県のために、連携プラットフォーム設置手法等についての研修を提供することも検討したい。連携プラットフォームづくりを加速する上で役立つと考える。

■災害時要援護者支援の共通理念の検討

東日本大震災において災害時要援護者の広域支援が機能しなかった原因のひとつとして、「災害時要援護者支援」や「広域支援」に対する認識のずれが指摘されている。

各都道府県の連携プラットフォームを対象とした研修は、現状では、統一されていない。各プラットフォームのコーディネートを行う団体によって検討、実施されている。

研修を統一する必要は、必ずしもあるとは言い難い。しかし、各都道府県が提供している研修プログラムの実情把握と、共通で持つべき理念や方針の確認は行うべきだと考える。連携プラットフォーム会議の検討事項に加えることを提案する。

## ６．２．災害福祉広域支援ネットワークの早期確立の方法について

本事業の二つ目の目的である「災害福祉広域支援ネットワークの早期確立のための方法の検討」のために企画、検討した「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」は、高い評価を得ることができた。目標としていた、今後の継続的な実施の申し合わせもなされた。「災害福祉広域支援ネットワーク　首長会議」については、実施には至らなかったが、次年度以降の実施に向けた調整を行った。

以下に、主な課題と、今後の事業案をまとめる。

### （１）連携プラットフォームづくりを推進するしくみづくり

■連携プラットフォーム会議の継続について

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」のアンケート等から、継続的な会議の実施が望まれていることが分かった。要望に応え、次年度以降も、継続的に「連携プラットフォーム会議」を実施していく。

本事業では、連携プラットフォームの検討が始まっていない都道府県にも、参加

を呼びかけた。参加18都道府県のうち、10都道府県が、これからしくみづくりを始める都道府県であった。

国は、連携プラットフォームをつくることを求めているが、具体的な方法やしくみについては、各都道府県に委ねている。地域性にあった方法をとることは重要な視点ではあるが、具体的な提示がないことが、都道府県の迷いにもなっている。連携プラットフォーム会議の定期的、継続的な実施は、しくみづくりを加速する上でも重要だといえる。

会議の内容としては、情報交換の要望が高い。同時に、具体的な議論を望む声もあった。次回は、情報交換に留まることなく、具体的な検討が行える場としたい。分科会形式をとりいれる等、少数で具体的な議論を行うことも有効だと考える。テーマとしては、「連携プラットフォームの研修のあり方」「広域支援の訓練手法」「広域連携のルールづくり」等が考えられる。

顔の見える関係づくりも、連携のキーワードのひとつである。東日本大震災においても、震災以前に協定が結ばれ、個別の関係が築かれていた団体間では支援が動いている。連携プラットフォーム会議は、この点においても意味がある会議といえる。

**災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議（案）**

［実施時期・頻度（案）］

毎年　5月・11月

［内容（案）］

○話題提供Ⅰ　国の検討状況について　厚生労働省　等

○情報提供Ⅱ　各県の状況について　　複数の都道府県

○分科会（テーマごとの検討会）

研修部会

訓練部会

連携規約部会

○情報交換会（交流懇親会）　等

**■連携プラットフォームの立ち上げ支援**

現在25都道府県で連携プラットフォームづくりの検討が始まっている。しかし、ほとんどが検討段階にあり、プラットフォームの立ち上げに至っている都道府県は少数である。先進県と言われる都道府県においても、「いつでも支援に入れる体制」とするためには、課題を残している。

先述したように、国がプラットフォームの形態や設立方法について具体的な提示

をしていないことが、取り掛かりにくさとなっている。

このような状況を改善するためには、各都道府県の仕組みや設置手法について取りまとめると同時に、モデル的な設置手法を検討し、全国に情報発信することが有効だと考える。プラットフォーム設置手法についての研修を行ったり、個別の立ち上げ支援を行うことも考えられる。

立ち上げの調整を行う団体も都道府県によってさまざまだが、職種や施設の種類を超えた呼びかけをする必要があることから、行政との連携、協力は不可欠である。

その他、政令市をもつ都道府県の難しさ等、さまざまな課題の提示があった。

**■首長会議の検討**

災害福祉広域支援ネットワークについての首長会議は、本年度、企画検討及び呼びかけを行ったが、実施は次年度以降の課題とした。

首長による議論が、しくみづくりを大きく進める可能性がある。「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」を、担当者と首長の２部構成にすることや、既存の首長による会議のテーマとして「災害福祉広域支援ネットワーク」を提案する等、有志首長と相談しながら、実施の方法を検討していきたい。

### （２）連携プラットフォームによる広域支援を機能させるしくみづくり

**■都道府県の枠を超えた広域支援のしくみづくり**

連携プラットフォーム会議の意見によると、しくみづくりが進んでいる都道府県においても、都道府県内の連携についての検討のみを行っているのが現状で、都道府県の枠を超えた連携は今後の課題としている場合が多い。

都道府県を超えた広域支援を機能させるためには、そのためのしくみづくりが不可欠である。ルールづくりや、基本姿勢の整理、コーディネート手法の検討やコーディネーターの養成等、より具体的な検討を行う必要がある。プラットフォームの形についても、現状は、都道府県によってさまざまな状況だが、部分的な統一も必要かもしれない。

災害はいつ起きるか分からない。都道府県の枠を超えた広域支援のしくみを検討し、それに基づく訓練を実施することを、次年度の課題とし、委員会を設置し、早急に検討を始めたい。

災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードの広域支援のしくみである「支援ネットワークシステム」も応用可能である。訓練についても年数回行っている。

《災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード　支援ネットワークシステム》

【システムの概要】

一．本システムは、原則として、ネットワークの登録施設間の相互支援システムとする。

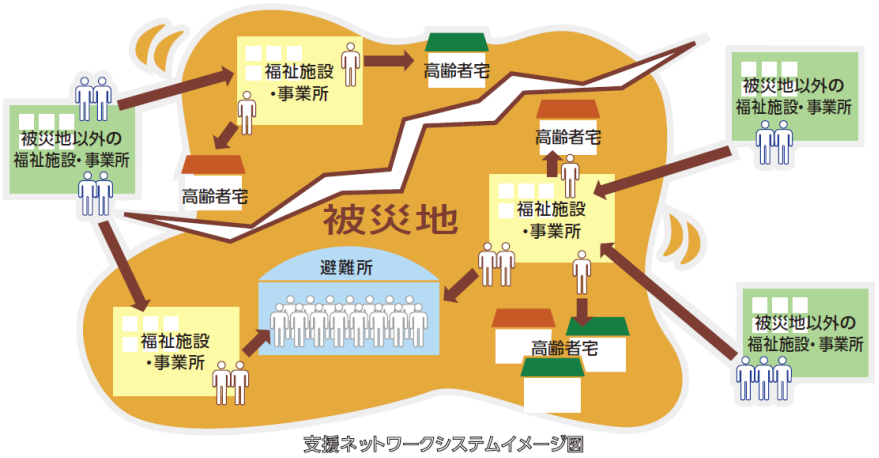
二．大災害により登録施設及びその周辺地域が支援を要する状況が発生した場合、被災地外の登録施設等から、災害時要援護者の内、高齢者、障がい者及び傷病者に対してサービスを提供するための専門的な知識と経験をもつ人材が外部支援者として派遣される。

三．派遣は、原則として、1 週間単位で、1 ヶ月間程度、継続的に行われる。

四．外部支援者は、被災した登録施設の復旧及びサービス提供の支援を行う。被災施設の状況がある程度おさまった後は、被災施設スタッフが地域（避難所や他の福祉事業所、在宅高齢者宅等）の支援にでるため、そのスタッフの代行として、施設内の業務を行うことが、外部支援者の主たる役割である。

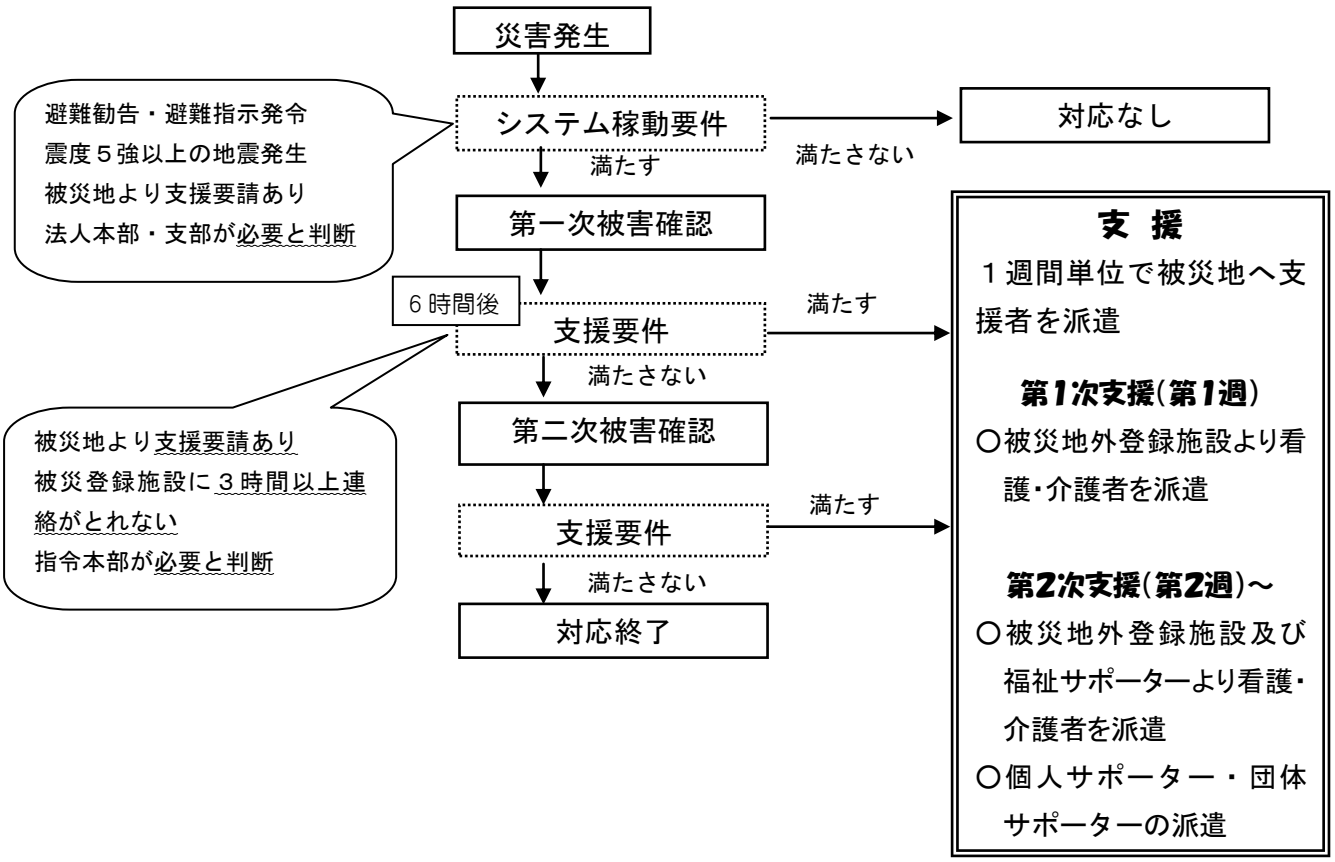
五．支援に必要な費用（交通費・食費等）は、原則として外部支援者が負担する。

六．本システムは、毎年 3 月に見直しを行う。



支援ネットワークシステムイメージ図

【基本手順】




■要援護者支援についての重要項目の検討

「災害福祉広域支援ネットワーク　連携プラットフォーム会議」で、「支援者に効果的に活動してもらうためには、広域支援について考えるだけでなく、都道府県内の災害時要援護者支援の方法についても検討していくことが重要である」との意見があった。福祉避難所や、福祉の配慮のある仮設住宅、避難生活における生活支援のあり方等、地域内で検討すべき項目についても、早急かつ適切な検討を行っていくことが重要である。

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

〒114-0014　東京都北区田端1-11-1　勘五郎ビル104号

TEL：03-5832-9943　FAX：03-5832-9964

HP　：http://www.thunderbird-net.jp/　　MAIL：thb@thunderbird-net.jp